平成 31 年度版
新　潟　県
専門研修プログラム
案　　内

平成 30 年 9 月発行

良医育成新潟県コンソーシアム

目　　次

◇　県立新発田病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
病院案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
○内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

◇　新潟大学医歯学総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
病院案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
○内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
サブスペシャルティ専門医
・循環器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
・血液・内分泌・代謝内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
・腎・膠原病内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
・呼吸器・感染症内科／心療内科・・・・・・・・・・・・・・・・・20
・消化器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
・神経内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
・腫瘍内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
○小児科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
○皮膚科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
○精神科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
○外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
サブスペシャルティ専門医
・消化器・一般外科／乳腺・内分泌外科・・・・・・・・・・・・・35
・心臓血管外科／呼吸器外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
・小児外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
○整形外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
○産科婦人科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
○眼科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
○耳鼻咽喉科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
○泌尿器科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
○脳神経外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
○放射線科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
○麻酔科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
○病理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
○臨床検査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
○救急科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
○形成外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
○リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
○総合診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

◇　県立がんセンター新潟病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
病院案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
○内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

◇　新潟市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
病院案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
○内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
サブスペシャルティ専門医
・循環器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
・脳神経内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
・腎臓・リウマチ科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
・呼吸器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
・消化器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
・内分泌・代謝内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
○小児科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
○外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
○整形外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
○救急科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
○麻酔科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
○総合診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96

◇　下越病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
病院案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
○総合診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101

◇　長岡赤十字病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
病院案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
○内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
○総合診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107

◇　柏崎厚生病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
病院案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
○精神科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・111

◇　新潟病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
病院案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
○総合診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115

◇　魚沼基幹病院・・・

県立新発田病院

県立新発田病院　病院概況

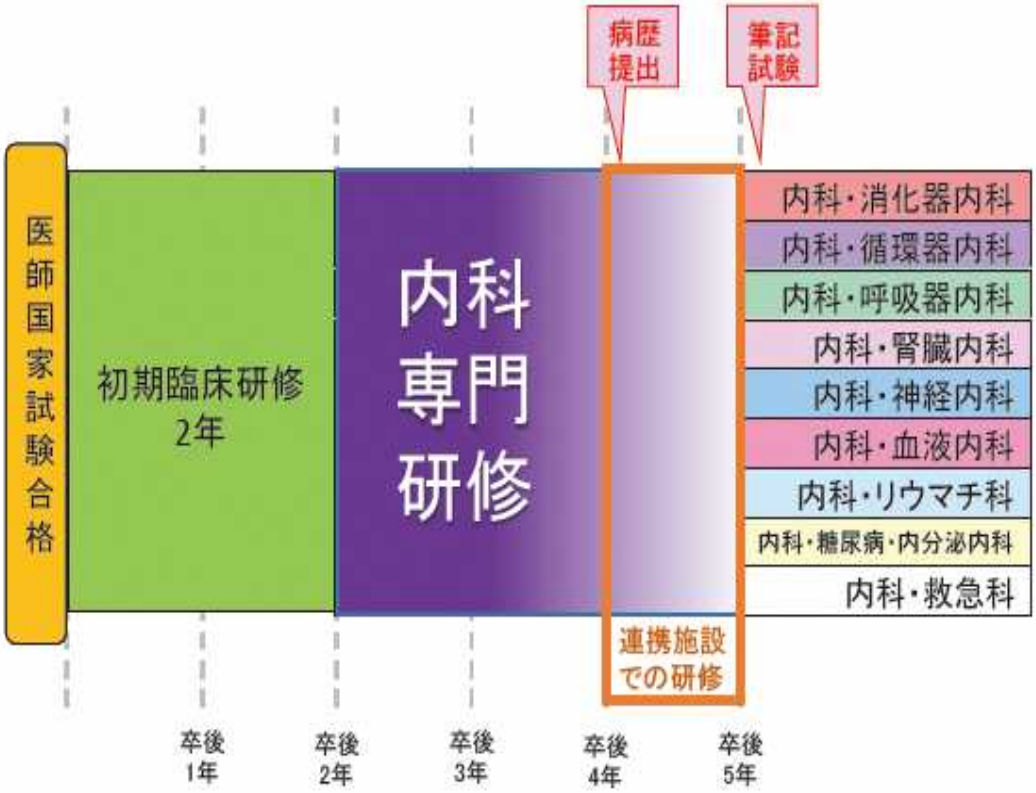
所在地	新発田市本町１－２－８			
電話連絡先	０２５４－２２－３１２１			
ＨＰアドレス	http://www.sbthp.jp/			
標榜診療科目	内科、外科、消化器外科、乳腺外科、小児科、整形外科、脳神経外科、循環器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、精神科、神経内科、麻酔科、救急科、病理診断科、歯科口腔外科			
病床数	４７８床			
医師数	常勤	９４人	非常勤	４０人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	１４９，２４１人	
		１日平均患者数	４０８．９人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	２２１，３２５人	
		１日平均患者数	９１０．８人	
病院の特徴等	当院は新潟県北部に位置し、新発田・村上地区の救命救急医療と高度先端医療を担う広域基幹病院として大改築を実施し生まれ変わって十年を迎えた。医師臨床研修の基幹型病院として県内外の初期臨床研修医の応募も多く、さらには付属看護学校を併設し、他の医療系学生を含め多職種の医療スタッフ教育を実施している。災害拠点病院、DMAT 病院としての備えも持っている。また、同一医療圏内に地域医療・地域保健の研修が可能な施設があり、プライマリケアを重視する新医師臨床研修制度としての研修環境に恵まれている。			
アピールポイント	○ 年間 6,000 台を超える救急搬送があり、結果的に１次から３次救急までの幅広い救急診療を経験できる。 ○ 地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療の関東・甲信越ブロック拠点病院の指定を受け、地域連携から高度医療まで行っている。 ○ 教育研修センターを設置し、医療者教育貢献を幅広く行っている。			
施設等の紹介	・ 図書：図書室で各ジャーナル、学会誌の閲覧が可能。インターネット接続環境があり、Medlineや日本語文献検索が可能。 ・ インターネット環境：各デスクより可能。 ・ 宿舎：借り上げ宿舎あり。住居手当あり（上限27,000円）。 ・ 食事：昼は院内の食堂からの出前や売店からの購入、朝・夜は院内のコンビニエンスストアの利用が可能。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能。			

専門研修プログラム

プログラム名	新潟県立新発田病院　内科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	4 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	内科部長　田邊　嘉也		
研修概要	新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院である新潟県立新発田病院を基幹施設として、新潟県下越医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として新潟県全域を支える内科専門医の育成を行います。		
アピールポイント	○ 内科系全領域のサブスペシャリティ専門医ないし指導医が在籍しきめ細かい指導を受けることが可能。 ○ 上記特色からサブスペシャリティ専門医への移行がスムーズに行える。		
特色	1) 新潟県立新発田病院を基幹施設として，新潟県下越医療圏，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます. 研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります. 2) 本プログラムでは, 基本的に主担当医として, 入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します. 3) 基幹施設である新潟県立新発田病院は, 新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であり，地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます. 4) 基幹施設である新潟県立新発田病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた症例をほぼ経験できます。 5) 新潟大学医歯学総合病院専攻医プログラムにおける連携施設となっていることで、大学から派遣される内科専攻医も在籍している。		
指導医からのメッセージ	新潟県立新発田病院は、新潟県下越医療圏の中心的な急性期病院であり、内科全領域（脳神経内科、感染症科含む）の専門医、指導医による指導のもとで研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。		
連携施設の病院名	新潟大学医歯学総合病院・厚生連村上総合病院・県立坂町病院 あがの市民病院・県立リウマチセンター		

研修コース

① 基本コース



② 週間スケジュールの例

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
午前	モーニングカンファランス（救急対応のレクチャー・救急症例検討）					担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加	
	入院患者診療						
	総合内科外来診療	内科検査	Subspecialtyの外来診療	内科検査	Subspecialtyの外来診療		
午後	入院患者診療						
	内科検査	内科検査	内科検査	入院患者診療	救命救急センターオンコール		
	入院患者カンファランス	内科検討会・抄読会, CPC		入院患者カンファランス			
夜間	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など						

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修センター　　貝瀬　歩
	電話連絡先	0254-22-3121　（内線）2566
	ファックス	0254-26-3874
	メールアドレス	kensyu-center@sbthp.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.sbthp.jp/

新潟大学医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院　病院概況

所在地	新潟市中央区旭町通一番町 754 番地			
電話連絡先	０２５-２２７－２４０８（総務課総務係）			
ＨＰアドレス	http://www.nuh.niigata-u.ac.jp			
標榜診療科目	内科、循環器内科、内分泌･代謝内科、血液内科、腎臓内科、呼吸器･感染症内科、診療内科、消化器内科、肝臓･胆のう･膵臓内科、神経内科、腫瘍内科、精神科、小児科、消化器外科、乳腺･内分泌外科、心臓血管外科、呼吸外科、整形外科、形成･美容外科、小児外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう･頭頸部外科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科口腔外科、歯科、矯正歯科、小児歯科			
病床数	827 床			
医師数	常勤	1424 人	非常勤	902 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	260,402 人	
		１日平均患者数	713.5 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	548,765 人	
		１日平均患者数	2,248.9 人	
病院の特徴等	新潟大学医歯学総合病院は、前身の病院から数えると創立 100 周年を超えた我が国有数の伝統をもつ病院であり、新潟県内外の多くの医療機関との密接なネットワークを持っています。 「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」を本院の理念としています。また、「患者さん本位の安全で安心できる医療を提供する」、「研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践する」、「地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献する」といった、患者さんに良質な医療を提供する特定機能病院としての目標とともに、「豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成する」という県内唯一の医育機関としての目標も掲げており、様々な取組を行っています。 			
アピールポイント	○ すべての基本領域、内科･外科のサブスペシャルティ領域の専門研修プログラムに対応。 ○ 高度先進医療から地域医療まで、多様な専門研修プログラムを提供。 ○ 各プログラムとも、経験豊かな指導医が豊富。			

施設等の紹介	◆あゆみ保育園　医師・看護師を含む職員の乳幼児の預託および保育利用を目的に、敷地内に保育園を設置しています。 ◆新潟医療人育成センター　高度医療に対応した医師の育成を目的とし、内視鏡・腹腔鏡など、専門研修に必要な高度シミュレーターや、模擬病室なども備え、高度な医療技術習得をサポートします。様々な研修会も開催されています。 ◆アメニティモール　外来棟脇に建設された施設です。レストラン dining ASAHI・LAWSON・TULLY's COFFEE・美容室 Sun-trap College ◆社員食堂・売店

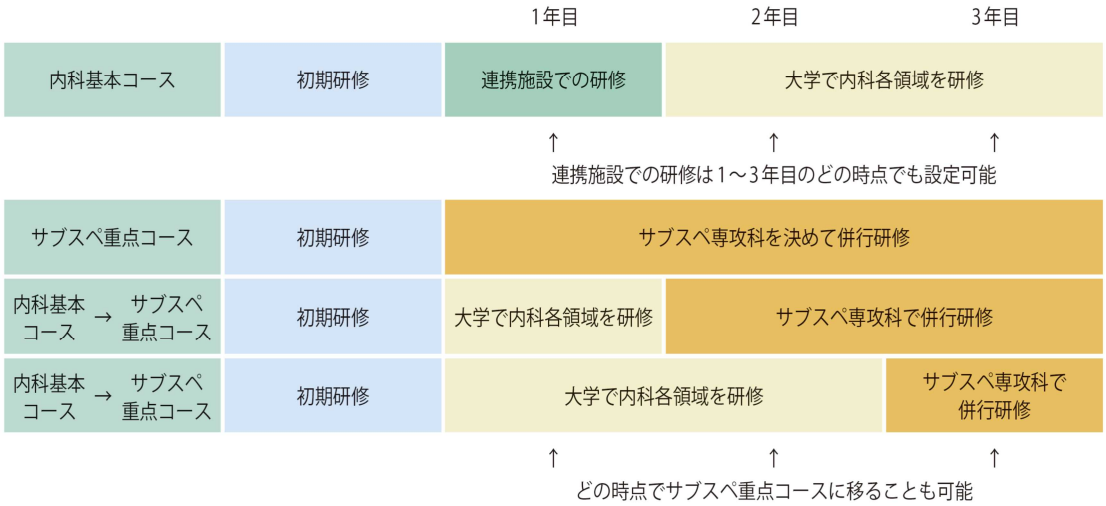
専門研修プログラム

プログラム名	内科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	50 名
選考方法	サブスペシャルティ科により異なる		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 新潟地域医療学講座　井口清太郎		
研修概要	オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム（以下、本プログラムと称する）は、内科を主専攻科として内科専門医を目指す後期研修医（以下専攻医）を対象とします。内科の領域を偏りなく学ぶ「内科基本コース」、希望するサブスペシャルティ領域を重点的に研修する「サブスペ重点コース」とがあります（詳細は各サブスペシャルティ領域のプログラム参照)。「内科基本コース」では専攻医は医師キャリア支援センターに所属し、サポートを受けます。一方「サブスペ重点コース」では専攻医はサブスペシャルティ領域診療科に所属し、その科と他の内科領域が密接に連携をとりながら研修を進めます。リサーチマインドを持った専攻医は大学院進学も早めにできるよう構成しています。		
アピールポイント	○ 内科専門医を取得後、さらにサブスペシャリティ科専門医への取得を目指す方に！ ○ 豊富な症例、多彩な連携研修施設を用意し、専攻医の希望に沿うことも可能		
特色	原則として3 年間で内科専門医を取得！最多の症例数！ 内科専門医取得後のサブスペシャルティ専門医までを見据えたキャリアプラン！ 新潟県内56施設、県外7 施設の豊富な連携研修施設群！ 大学病院内科系診療科の垣根を越えた指導体制とフォローアップ体制！ 過去3 年間で100名の指導実績！（平成30年度は39名の登録実績！） 自分の志望が決まれば大学院進学も含め多様なキャリアパスをサポート！ 新潟医療人育成センターにも近接し、高度シミュレーターも使用しやすい環境！		
指導医からのメッセージ	「オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム」は内科医師として働き、スキルを身につけたいと考えている人はもちろん、リサーチをしたいと考えている人にも対応できるよう、柔軟なプログラムとなっています。新潟県内の主立った医療機関はすべて連携施設として登録してありますので、奨学金を受給していた専攻医のキャリアパス形成もサポートできるようになっています。サブスペシャルティが決まっていない専攻医には医師キャリア支援センター担当者が対応しつつ、すべての内科系診療科と密接に連携し、多様なキャリアパスをサポートします。また、後述するように連携施設から研修を開始することもできます。 多くの専攻医がこのプログラムに参加してくれることを期待しています。一緒に内科医師として研鑽を積んでいきましょう！		
連携施設の病院名	＜県内＞柿崎病院　県立中央病院　上越地域医療センター病院　新潟労災病院　妙高病院　糸魚川総合病院　上越総合病院 けいなん総合病院　小出病院　新潟病院　津南病院　十日町病院		

	松代病院　見附市立病院　魚沼基幹病院　ゆきぐに大和病院 南魚沼市民病院　柏崎総合医療センター　三条総合病院　済生会三条病院　長岡中央綜合病院　長岡赤十字病院　小千谷総合病院 立川綜合病院　あがの市民病院　津川病院　加茂病院　両津病院 新発田病院　リウマチセンター　吉田病院　燕労災病院 がんセンター新潟病院　新潟市民病院　西新潟中央病院　坂町病院 佐渡総合病院　豊栄病院　新潟医療センター 済生会新潟第二病院　村上総合病院　脳神経センター阿賀野病院 南部郷総合病院　下越病院　新津医療センター病院 亀田第一病院　総合リハビリテーションセンターみどり病院　新潟万代病院　新潟南病院　日本歯科大学医科病院　信楽園病院 新潟脳外科病院　木戸病院　桑名病院　新潟臨港病院　新潟白根総合病院 ＜県外＞秋田赤十字病院　鶴岡市立荘内病院　山形県立中央病院 竹田綜合病院　水戸済生会総合病院 埼玉県済生会川口総合病院　榊原記念病院

研修コース

① 基本コース



その他参考情報	本プログラムにおいては全研修期間 3 年のうち、新潟大学医歯学総合病院において 1 年間以上、かつ連携施設（特別連携施設を含む）で 1 年間以上の研修を満たせば、そのローテーション順序・期間については自由に設定することが可能となっています（例：大学病院以外で 2 年間も可能。また大学病院以外の連携施設から研修を開始することも可能）（上図参照）。専攻医は指導医と個別に相談しながら、それぞれのニーズに合った研修ができます。その際、将来のサブスペシャルティ領域を限定せずに、幅広く内科一般を経験しその中でサブスペシャルティを決めていきたい先生は、特定の診療科に所属することなく研修を進めることもできます（内科基本コース）。その場合、プログラム開始後は医師キャリア支援センターに籍を置き、センターが各専攻医の研修診療科・連携研修施設や研修の順序・期間に関しての相談を受け付けます。また、プログラム途中でサブスペシャルティ専攻科が決まった場合には、内科基本コースからサブスペ重点コースへの移行も可能です。一方、既に専攻したいサブスペシャルティ専攻科が決まっている先生は、そのサブスペシャルティ領域を担当する専門診療科に籍を置き、その科と相談しながら連携研修施設を決めていくことになります（サブスペ重点コース）。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	新潟大学医歯学総合病院医師キャリア支援センター
	メールアドレス	nar@adm.niigata-u.ac.jp

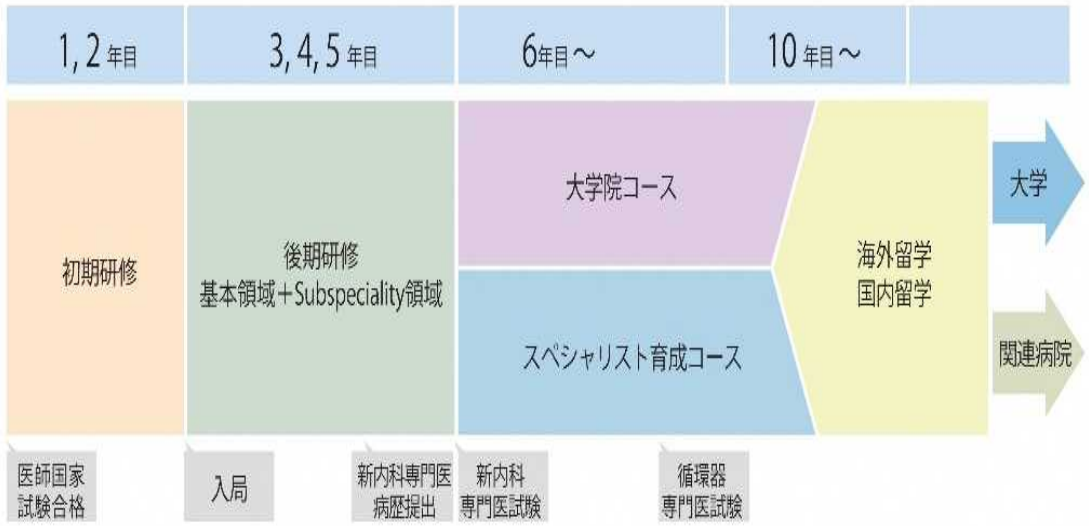
サブスペシャルティコース

コース名	循環器内科専門研修コース		
研修期間	3 年～	募集人数	制限なし
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 循環器内科教授　南野　徹		
研修概要	本コースでは、循環器内科の知識と技術を総合的に習得したうえで、より専門的・先進的な循環器医療に貢献できる人財を育成することを目的とします。新潟大学および関連病院の症例数は豊富で指導体制が整っているため、十分な症例について臨床経験を積むことができ、キャリアアップにつながります。専門医の取得に必要な症例数を経験できるよう、症例数の多い連携施設で 2 年間研修を行い、続いて大学病院で難治例を含め一例一例をしっかりと学べる体制としています。本コースを通して、虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症、心不全、肺高血圧症などの多岐にわたる循環器疾患の診療や手技を学ぶとともに、心エコーなど画像診断、心臓リハビリテーションについても専門的知識の習得が可能です。新専門医制度移行後も、速やかに循環器専門医を取得できることも特長です。 また、内科専門医を所得するために必要な内科症例については連携施設ならびに大学病院での後期研修中に経験することができます。その後は、希望に応じ主に大学院で研究に専念する大学院コース、もしくは専門施設で技術を磨くスペシャリスト育成コースとなり、いずれのコースでも専門医取得後の道も大きく開けるようにしています。また、ライフイベントなどに応じて進路について個別に相談することもできます。 		
特色	コースの名前のとおり専門医養成が大前提であり、本コースを通常どおりに行えば、新内科専門医、循環器専門医は問題なく取得できる。これと並行して目標とするのは、現在の医療の限界を認識し、限界を突破するための探究心を育むことである。専門研修の早期で、多くの患者さんと接し、徐々に専門的、先進的な診療・研究を進めることで、専門医を取得したときには、生涯にわたり質の高い医療を実践しつづけられるようになる。 循環器内科専門医が追及すべき領域には、循環器疾患に専門特化した診療・治療はもちろんのこと、その背景である高血圧、脂質異常症、メタボリックシンドローム、動脈硬化なども含まれる。疾患の成因を分子レベルで解明したり、疫学研究をとおして疾患の背景をコントロールしたり、地域の診療に貢献したりすることもできるよう指導し、患者さんを中心に、分子や社会にまで広く視野に入れることのできる医師を育てる。		

指導医からのメッセージ	循環器疾患は、急性期には重症であることも少なくありませんが、有効な治療法が多いため、退院時には自力歩行で退院される患者さんが多いことが特徴で、やりがいを感じることができます。循環器内科では、救急患者さんを診ることも多いので、自然に救急処置のスキルが身に付いていきます。カテーテル手術や植込みデバイス手術、薬物治療の他に、心エコーを始めとした画像診断や心臓リハビリテーションなどについても指導体制があるため様々な分野で専門性を発揮する進路があります。一方で、全身管理について知識も深まるため、将来的には一般内科医として、様々な疾患治療や地域医療を担うことも可能となります。また、教室の基礎・臨床研究のレベルは大変高く、学術面の活動にも力を入れています。ぜひ循環器内科で一緒に仕事しましょう！
連携施設の病院名	新潟市民病院　新潟医療センター　済生会新潟第二病院 信楽園病院　木戸病院　県立がんセンター新潟病院 桑名病院　新潟南病院　県立新発田病院　燕労災病院 立川綜合病院　長岡中央綜合病院　長岡赤十字病院 県立中央病院　柏崎総合医療センター　村上総合病院 佐渡総合病院　鶴岡市立荘内病院　榊原記念病院 国立循環器病研究センター病院　水戸済生会総合病院 埼玉県済生会川口総合病院

研修コース

① 基本コース



問い合わせ先	連絡先担当	総括医長　和泉大輔
	電話連絡先	025-227-2185
	ファックス	025-227-0774
	メールアドレス	dizumi@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス等	http://www.med.niigata-u.ac.jp/car/

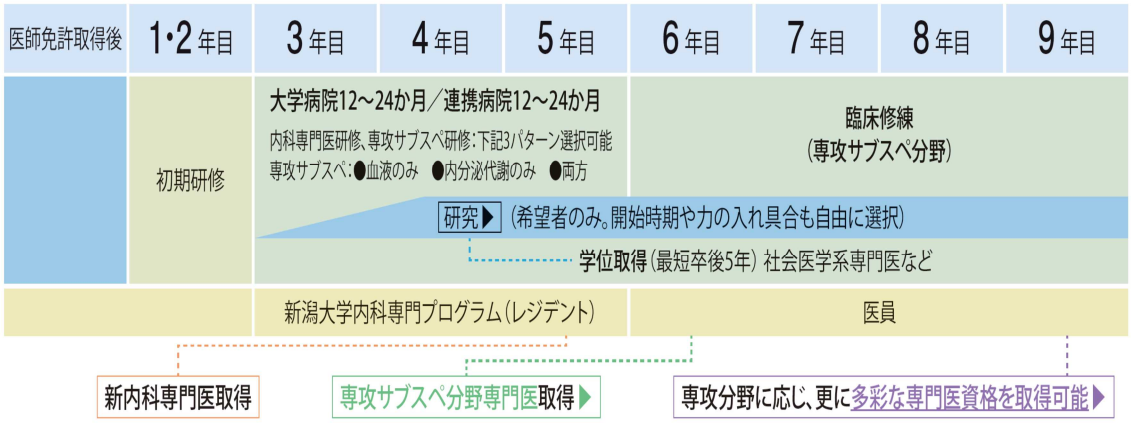
サブスペシャルティコース

コース名	血液・内分泌・代謝内科専門研修コース		
研修期間	4・6 年	募集人数	12 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 血液・内分泌・代謝内科教授　曽根　博仁		
研修概要	【血液内科】 血液疾患に対する診療を通じて内科全般に及ぶ広範囲の知識を身につけることができ、内科専門医の取得は容易である。多彩な血液疾患症例が豊富な、経験ある指導医を有する大規模研修病院（大学病院、関連基幹病院）を複数経験することで、優秀な血液専門医を短期で育成するとともに、がん治療認定医、造血細胞移植認定医、輸血・細胞治療学会認定医など各種専門医資格取得を容易にする。血液学では基礎研究と日常臨床が密接な関係にあることから、希望者には研究に接する機会を得ることも可能で、真に実力ある専門医を養成する。最初の 2 年は大学あるいは連携教育病院で臨床研修を行う。3 年目以降は、本学または連携教育病院での研修、または大学院進学など本人の希望と調整によって選択可能とする。 【内分泌・代謝内科】 総合内科医および専門医としての技量を身につけ、総合内科専門医、糖尿病専門医、内分泌代謝専門医、動脈硬化専門医、甲状腺専門医などの資格取得を通じ、生活習慣病全体の専門医を養成する。そのために、糖尿病や内分泌疾患、脂質異常症、肥満症や高血圧症などの各種代謝・内分泌疾患のマネージメントを学び、合併症抑制と健康寿命延命のための臨床経験を磨く。比較的、時間的余裕のある研修体制を生かし、希望者は研究（臨床、基礎）も併行可能な後期専門研修を行う。コース修了後、海外留学も可能である。最終的には、臨床現場でエビデンスに基づく診療体系を組み立て、開業から大病院まであらゆる状況に対応可能な専門医を育成し、患者さんと社会へ貢献することを目標とする。		
特色	【血液内科】 血液内科では診断から治療までを一貫して行う能力を有する医師を育てる。化学療法や造血幹細胞移植では感染症など様々な合併症の管理も必須であり、血液検査、画像検査、病理検査、染色体遺伝子検査などに対する深い知識を身につけることで総合的な医療を行う能力が自然に身に付く。また、国内外の様々な多施設共同研究に参加しており、質の高い最新の臨床研究にふれることが出来る。血液学会認定専門医、輸血・細胞治療学会認定医、造血細胞移植認定医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医、総合内科専門医などの資格取得が可能な研修体制を組んでいる。基礎研究や臨床研究もさかんに行われており、希望により海外留学も可能。血液学では細胞生物学・分子生物学免疫学などの手法を用いた基礎研究がそのまま臨床診断や治療に応用されるため、基礎研究と臨床医療との間に距離感を感じることがない。学問のためのみの研究ではなく、患者診療に有益な研究を行なっている。 【内分泌・代謝内科】 総合診療医としての知識・技術を体得した上で、総合内科専門医、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医、甲状腺専門医、動脈硬化 学会専門医などの資格取得を目指し、内分泌疾患と共にあらゆる代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、肥満症、高血圧症、痛風、骨粗鬆症、メタボリックシンドロームなど）について、食事・運動などの生活習慣指導も含めてコントロールできる専門医を育てる。 特に動脈硬化や血管合併症を促進する各種リスクファクターのマネージメントについては、チーム医療を通じた療養指導体制の構築や地域医療、病診連携も含めて学び、地域の代謝内分泌疾患予防・治療の指導的役割を担える専門医を養成する。将来の進路により、開業から基幹病院部科長、大学教員、基礎研究者、行政担当者などあらゆる進路に対応できる個人別オーダーメイド研修体制を組んでおり、多彩な基礎研究や臨床研究も盛んに行われている。希望により海外留学		

	ももちろん可能となっている。 【血液＆糖尿病ダブル専門医（究極のドクターG）を目指す方へ】 大学でも一般病院でも、内科は臓器別細分化の一途をたどっている。その中で私たちの教室は「生活習慣病も腫瘍性疾患も」幅 広くカバーする数少ない総合内科といえる。 血液内科の中心を占める造血器腫瘍は、診断から治療までのすべてを内科医が管理できるほぼ唯一の癌であり、将来のがん治療の中心となる分子標的薬を含む新しい化学療法が、次々と導入されている臨床腫瘍の最先端分野である。幹細胞移植では、最重症の感染症や全身各臓器の合併症に適格に対処する力も身につく。一方、膨大な数の患者さんがおられる糖尿病は、最も管理の難しい生活習慣病の最高峰である。チーム医療のリーダーとして、 生活習慣指導と多彩な薬物療法を患者さんごとにデザインすることにより動脈硬化疾患や腎透析を予防し、健康寿命を最大化するプロセスは、まさに内科的管理の極致と言える。したがって両分野の専門医を取得した暁には、「極めて広い守備範囲を持つ理想的なホスピタリスト」や「診断だけでなく治療も自らこなせる本物の総合内科医」が実現できる。もちろんこれからますます重要となる地域医療や在宅医療の担い手としても最適と考えられる。当科は、両方の専門医が同時取得できるわが国の数少ない拠点であり、豊富なスタッフと症例に恵まれた大学ならではの集中的な研修コースとして、プライマリーケア、家庭医療、総合診療専門医のグレードアップ研修コースにも用いられる。究極を目指す、腕に自信のある全国の研修医の皆さんの挑戦をお待ちしている。
指導医からのメッセージ	当科で研修可能な【血液内科】と【内分泌・代謝内科】はいずれも、診断から治療まで自分でじっくり考えながら診療を行える分野です。感染症など他臓器の合併症も診る機会が多いので、幅広い総合内科専門医としての知識が自然と身に付きます。特別な手技に頼ることもありませんので、年をとってからも生涯仕事を続けられるやりがいのある分野です。また専門医が非常に不足している分野ですので、常に専門家としての需要があります。当科の仲間に加わり研修を行うことで内科医としての醍醐味を味わいながら、しっかりした総合的な臨床の実力が身に付くことでしょう。真の内科医を目指す皆さんの御参加をお待ちしています。
連携施設の病院名	【血液内科】県立中央病院　県立新発田病院　済生会新潟第二病院　新潟市民病院　長岡赤十字病院　柏崎総合医療センター 長岡中央綜合病院　佐渡総合病院　魚沼基幹病院　県立加茂病院　新潟南病院 【内分泌・代謝内科】県立中央病院　長岡赤十字病院　済生会新潟第二病院　長岡中央綜合病院　新潟医療センター 佐渡総合病院　木戸病院　県立新発田病院　新潟市民病院　柏崎総合医療センター　魚沼基幹病院 あがの市民病院　万代病院

研修コース

①基本コース



問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　瀧澤　淳
	電話連絡先	025-368-9026
	ファックス	025-368-9300
	メールアドレス	juntaki@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/emh/index.html

サブスペシャルティコース

コース名	腎・膠原病内科専門研修コース		
研修期間	5 ～9 年	募集人数	毎年 10 名まで
選考方法	面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 腎・膠原病内科教授　成田　一衛		
研修概要	本コースは卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、内科専門研修プログラムと連携し、内科専門医取得を目指しながら、並行してサブスペシャルティとしての腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医などを養成する。原則として 5 ～9 年の研修期間の中で、各種腎炎と病理学的診断、酸塩基平衡・電解質異常、慢性腎不全、急性腎障害、透析療法、腎移植に至る腎臓病領域と、関節リウマチを初めとする各種自己免疫疾患に対して、幅広い知識と技能を有し、独立して、または医療チームのリーダーとして診療できる腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医などを養成する。 上記のサブスペシャルティ分野の研修は、カリキュラム制が主体である。したがって、基本的には下記の 2 コースを挙げるが、個々のライフプランや状況に応じた柔軟な研修が可能である。 A コースでは臨床研修プログラムの期間の中で、腎・膠原病内科学分野の大学院生として臨床に即した基礎研究または臨床研究に専念する期間を設け、早期の学位取得を目指す。原則として卒後臨床研修終了後の卒後 3 ～4 年目は新潟大学医歯学総合病院または内科専門研修連携病院で内科全般の研修を行う。卒後 4 ～5 年目以降、希望に応じて大学院博士課程に入学し、基礎研究、臨床研究を行う。大学院博士課程入学後は 2 ～ 3 年間のベッドフリー期間を設け、腎・膠原病内科学講座あるいは学内外の基礎講座において研究に専念する。ベッドフリー期間終了後は当院の腎・膠原病内科医員として、大学院在学中に不足した内科専門研修プログラムを再開し、内科専門医取得に必要な症例も随時経験して内科専門医研修を修了し、内科専門医取得を目指しつつ、腎・膠原病内科研修も並行して行う。関連病院出向の際には各自が選択した腎臓学会、リウマチ学会等の認定連携施設において、腎内科、リウマチ膠原病内科の研修を専門医取得まで継続する。 B コースでは、内科専門医研修および腎・膠原病内科研修を優先的に並行して行い、最短で 5 年（卒後 7 年目）で内科専門医を取得しつつ、サブスペシャルティとして腎臓専門医、リウマチ専門医取得を目指す。その後大学院に入学することも可能である。また同時に、希望に応じて透析、高血圧、糖尿病、老年病の各学会専門医取得を目指すことも可能である。		
アピールポイント	○　内シャント設置、腹膜透析カテーテル埋込手術を修得できます。 ○　各種血液浄化療法を修得できます。 ○　多彩なリウマチ・膠原病疾患の診断・治療を修得できます。		
特色	伝統と先進性を誇る腎臓内科診療では、腎生検、酸塩基平衡・電解質異常から腎不全の透析治療、腎移植まで、腎臓内科専門医として要求されるすべてのケースに対応できるように研修することができます。特に、腎代替療法が必要な慢性腎不全患者に対し、ブラッドアクセスのための内シャント作成手術や腹膜透析カテーテル留置術の手技も当科で習得できます。また、急性腎不全・多臓器不全に関連する救急医療・集中医療でも数多くの経験を積むことができます。さらに、透析導入の原因疾患の第一位となる糖尿病性腎症に対し、当科では糖尿病に対する診療にも力を入れています。研究面においては、臨床病理学的な研究から遺伝子レベルの研究、さらには遺伝子治療・再生医療など新しい治療法の開発に向けた基礎研究も幅広く展開しています。膠原病内科診療では、多臓器に渡る多彩な合併症を呈		

	する疾患を対象とするため、全身を診る全人的診療の基本を身につけることを目標とし、自己免疫疾患、リウマチ性疾患の診断・治療について専門的に研修できます。研究面においては、膠原病の臨床研究を中心とし、基礎研究では、免疫学的研究、遺伝子研究を展開しています。腎臓病、リウマチ膠原病のいずれの研究においても、希望に応じてベッドフリーで研究に専念できる期間を設けており、4 年間の大学院博士課程修了までに学位を取得することを目標としています。また、新潟大学には国内唯一の腎研究センターがあり、臨床部門である当診療科の他、基礎部門およびトランスレーショナル部門が一体となり、互いに交流しながら研究を進めていることも特徴の一つです。
指導医からのメッセージ	病理学的な確定診断のもとに完治を目指す糸球体腎炎、生命維持に直結し、ダイナミックな動きを見せる酸塩基平衡・電解質異常、多臓器不全の重症患者を救う血液浄化療法、生物学的製剤の登場で治療法において飛躍的な進歩を遂げたリウマチ膠原病など、腎・膠原病内科領域の疾患は、非常にやりがいと将来性のある分野であると同時に、高い専門性が要求される分野でもあります。また血圧、血糖、脂質の管理など、生活習慣病への対応から、全身管理に必要な総合力を培う面でも大変有利な知識と技能が身につきます。研修終了後には国外留学を含めて、多彩な活躍の場があります。腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医を目指して共に医療の現場を分かち合う皆さんをお待ちしております。
連携施設の病院名	新潟県立中央病院　新潟県立新発田病院　新潟県立リウマチセンター　新潟市民病院　長岡赤十字病院　済生会新潟第二病院 厚生連糸魚川総合病院　厚生連長岡中央綜合病院　厚生連佐渡総合病院　厚生連魚沼総合病院　厚生連柏崎総合医療センター 立川綜合病院　信楽園病院　新潟臨港病院　鶴岡市立荘内病院　新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院

研修コース

①基本コース

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　金子佳賢
	電話連絡先	025-227-2193
	ファックス	025-227-0775
	メールアドレス	kanekoy@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/nephrol/

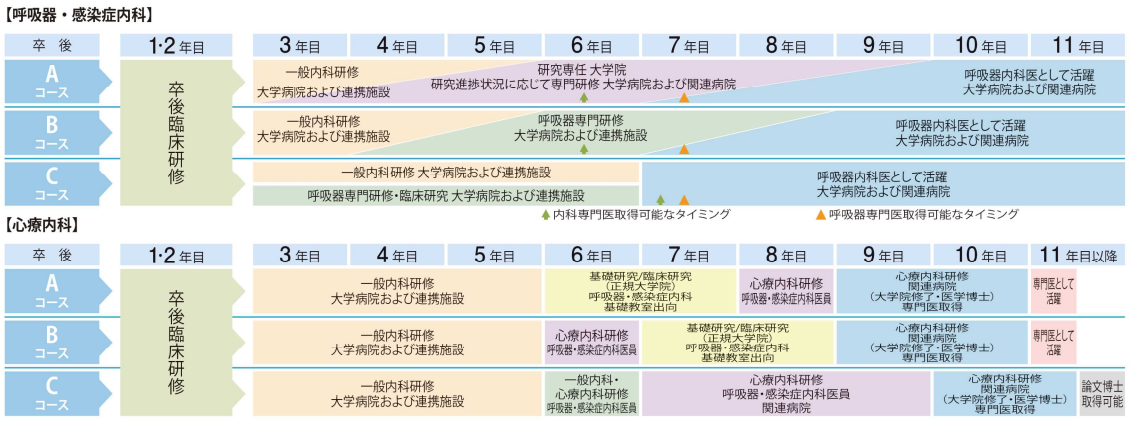
サブスペシャルティコース

コース名	呼吸器・感染症内科／心療内科専門研修コース		
研修期間	呼吸器・感染症 6 年 心療内科 5 年	募集人数	呼吸器・感染症 20 名 心療内科 3 名
選考方法	面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 呼吸器感染症内科教授　菊地　利明		
研修概要	【呼吸器・感染症内科】 呼吸器・感染症内科コースは卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、内科専門医取得のための内科研修を行いながら、その後の呼吸器専門医取得にスムーズ移行できるようなカリキュラムです。また本コースは呼吸器専門医をメインに案内していますが、要望に応じて、アレルギー専門医、感染症専門医を取得するコースも選択できます。コースの概略として、一般内科研修の履修状況に応じて、大学院コース（学位取得コース）、内科研修重点コース、専門研修重点コースの中から選択します。専門医所得に関しては、コースによって若干異なりますが、専門研修がスタートした 4 年目以降で取得可能となります。 【心療内科】 心療内科コースは、全人的医療の実践及びストレスと身体疾患との関係について調査し臨床に生かすことを目標とします。研修方法は、卒後臨床研修了後一般内科後期研修、心療内科研修、および大学院での研究期間に分けられます。 A コースは、内科専門研修を 3 年間行った後、大学院に正規入学し、呼吸器感染症内科あるいは基礎教室で 2 年間研究します。その後、呼吸器感染症内科、関連病院で心療内科の臨床研修を行い、心療内科専門医を取得します。B コースは、内科専門研修を 3 年間行った後、呼吸器感染症医員として心療内科臨床研修を開始。医員に在職しながら社会人大学院特別選抜で入学、呼吸器感染症内科あるいは基礎教室で 2 年間研究、続いて呼吸器感染症内科と関連病院で専門研修をし、専門医資格を取得します。C コースは、呼吸器感染症内科と関連病院で専門研修を行い、その後専門医資格を取得、この間臨床研修の傍ら臨床研究を行います。		
アピールポイント	○感染症、腫瘍、アレルギー、変性疾患、呼吸生理など、幅広く様々な疾患について学ぶことが出来ます。 ○基礎研究、臨床研究、translational research の specialist が揃っており、興味に応じた研究指導を受けることが出来ます。		
特色	【呼吸器・感染症内科】 一人前の呼吸器内科医になるには、画像読影、適切な気管支鏡スキル、非侵襲人工呼吸器を含めた呼吸管理と全身管理、適切な抗菌薬の選択、心理的ケアを含めた肺癌診療、等のすべてを習得することが必要です。臨床の現場では誤嚥性肺炎などは院内のどの病棟でも発症しますし、ICU には一年を通じてほぼいつでも呼吸不全の症例がいます。さらに当施設では、腎膠原病内科と病棟を共有しているため、それら各種疾患に関連した肺病変（間質性肺炎、血管炎、日和見感染症など）の症例も多く、多方面の指導を受けることができます。肺癌、閉塞性肺疾患、稀少肺疾患の臨床治験にも積極的に参加しており、最先端の治療の経験もできます。 研究面では、各分野の教官による基礎研究（動物モデルを用いた）、臨床研究が盛んに行われています。主に研究は、大学院コースで研究専任として行われますが、他のコースにおいても、臨床研究の結果から論文作成し、学位を取得することは可能です。また研究施設は当科だけでなく、基礎系教室、他施設への国内留学も随時行っており、本人の希望を考慮しながら選択できます。 現在までに多くの先生が専門医・指導医を取得しており、その状況は下表のとお		

	りです。つまり本コースを選ぶことにより、呼吸器専門医などの専門分野の専門医をスムーズに取得することができます。 【心療内科】 呼吸器内科、感染症内科、心療内科で心身医学の研修を行う特徴は、原則として身体疾患を持つ患者さんを研修対象としていることです。心身医学会の定義にある心身症を中心として研修していますが、外来診療では精神科医や心理療法士の協力も得て、精神的な問題の大きな症例についても研修教育を行っています。具体的な内容について説明します。指導医とともに外来診療を担当しますが、新患は週 1 ～3 例で、再来は週 10～20 例程度を指導医のもと受け持っています。疾患分類では、気管支喘息、過敏性腸症候群、高血圧、神経性食思不振症などの狭義の心身症以外に、感情障害、身体表現性障害や不安障害の症例も紹介され受診しています。治療としては、バイオフィードバック療法、自律訓練法、交流分析などの専門的な治療も行っています。なお、外来終了後の検討会で症例検討や文献抄読を行っています。以上より、心身医学会の認定医や心療内科学会の登録医・専門医として要求されるすべてのケースに対応できるように研修することができます。研究面においては、気管支喘息、COPD、呼吸不全、腎不全、糖尿病、歯科領域の疼痛などを対象とした計量心理学的な研究が行われています。最近では、睡眠・身体疾患の関係を含めた研究も進めています。
指導医からのメッセージ	呼吸器内科は、腫瘍、アレルギー、自己免疫疾患、感染症さらには機能的疾患と非常に多岐に渡る範囲をカバーしなければなりません。大変な分野でありますが、その分やりがいがあります。また高齢化社会である現代ではもっとも必要とされる分野であります。研究においても分子生物・遺伝子解析から疫学調査などバラエティーに富んだ研究テーマが選べます。外来診療が主となる分野もあるため、女性医師などライフプランに合わせた診療を行うことができると思います。
連携施設の病院名	【呼吸器・感染症内科】 新発田病院　がんセンター新潟病院　村上総合病院　豊栄病院　柏崎総合医療センター　佐渡総合病院　三条総合病院 あがの市民病院　上越総合病院　長岡中央綜合病院　新潟医療センター　済生会三条病院　済生会新潟第二病院　信楽園病院 新潟市民病院　新潟臨港病院　長岡赤十字病院　木戸病院　立川綜合病院　燕労災病院　西新潟中央病院　魚沼基幹病院 【心療内科】 小出病院　津川病院　柏崎総合医療センター　三条総合病院

研修コース

①基本コース



問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　渡部　聡
	電話連絡先	025-368-9325
	ファックス	025-368-9326
	メールアドレス	kokyukansen@med.niigata-u.ac.jp
	コース HP アドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/resp/

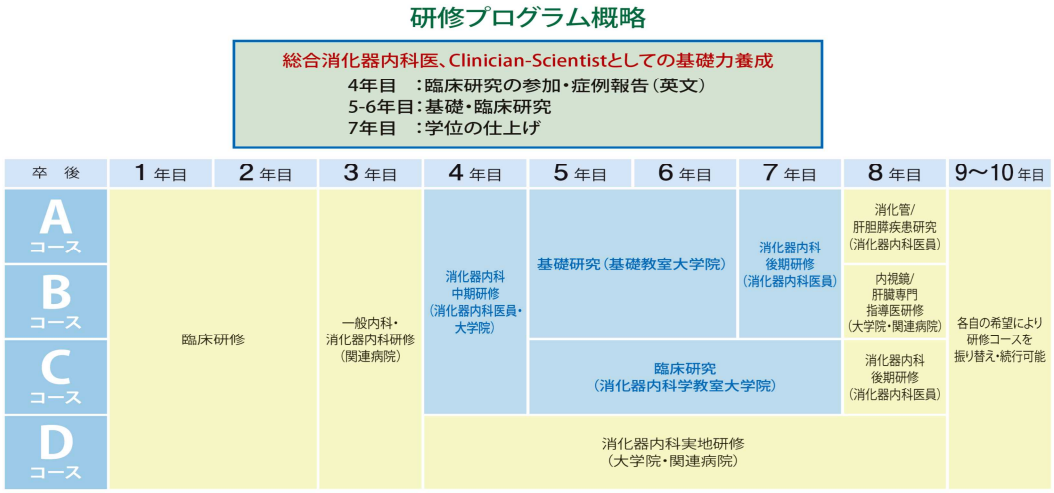
サブスペシャルティコース

コース名	消化器内科専門研修コース		
研修期間	6 年	募集人数	30 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 消化器内科教授　寺井　崇二		
研修概要	本コースは、卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、消化器の総合的な専門医“総合消化器内科医”を養成するコースを基本としています。総合的に消化器疾患を診るため消化器病･肝臓･消化器内視鏡専門医の取得とともに、がん治療、総合内科、再生医療、肥満症の各専門医の取得を目指し、大学病院及び各学会認定施設において研修を行います。 ・専門研修プログラムの概略 研修プログラムのコンセプト：当研修コースはカリキュラム制のため、卒後 3 年目以後の内科専門研修と並行することができます。また医学博士の学位取得のため大学院での研究も可能で Clinician-Scientist の育成も目指しています。各自の希望に応じ、学問的志向・人生設計に基づいた希望に沿うようバリエーションを持たせたカリキュラムを組んでいます。人が食物摂取して体の恒常性を維持するためには、消化、吸収、代謝の制御が大切で、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆道、膵臓が複雑に連動して機能していることを理解する必要があります。研修期間前半（卒後 3～4 年目）は消化器内科全般に必要な幅広い知識の獲得、臨床の経験、実践をめざし、後半（卒後 5 年目以降）は個人の希望に合わせたコースを用意しています。 ● 研修プログラム前半 専門研修 1 年目（卒後 3 年目）は、消化器疾患のみならず他領域の内科診療の経験を積むことも目的として、関連病院施設で臨床研修を行います。卒後 4 年目は消化器内科医員等として当院における最先端レベルの診断・治療手技を習得します。各々異なる施設で研修を行ってきた同期の医師達が交流を深め得ることは当施設の大きな利点であり、進むべき専門分野を決定できる重要な研修期間でもあります。 ● 研修プログラム後半 卒後 5 ～ 6・7 年目で当教室や学内外基礎研究室の大学院生として基礎研究を行い学位を修得した後、臨床検査・治療手技等の研鑽、基礎研究、後進の指導等に従事するコースや、地域病院での診療を早くから希望する個人に適応した研修を行う目的で、大学病院で適宜研修を行いながら、連携病院を中心に臨床研修を行うコースを用意しています。当科では、次世代を担う総合消化器内科医および Clinician-Scientist を育成していきます。		
特色	このコースの最大の特色は、消化器病・肝臓・消化器内視鏡・総合内科専門医の取得が可能なだけでなく、肥満症、再生医療、がん治療専門医も取得可能であり、臨床・基礎研究による学位取得や海外留学を含めたバリエーションの多い研修コースを個人の希望に合わせて選択できることにあります。 基礎研究は、“難治進行性消化器疾患”や現時点で診断のつかない“Undiagnosed Disease”に対する新規診断・治療法の開発を目指したテーマで、臨床へフィードバックできるよう取り組んでいます。 また、近年の消化器領域の診断法、治療手技は目覚ましく発展しているため、本研修コースにおいては高度かつ最新の専門知識･技術を有するスペシャリスト達が懇切丁寧な指導にあたっています。他大学病院や県外の内視鏡センター施設との交流も盛んであり、希望により国内留学による内視鏡技術の研鑽も可能です。 研修可能な主な専門的検査・治療 ■上部・下部消化管内視鏡検査　■内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）　■内		

	視鏡的筋層切除術（POEM） ■内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）　■超音波内視鏡（EUS）、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA） ■カプセル内視鏡 ■腹部エコー■腹部血管造影、経カテーテル的動脈化学塞栓術、B-RTO■エコー下肝生検■ラジオ波焼灼術 （RFA） ■経皮経肝胆道ドレナージ（PTCD）■化学療法■細胞・再生療法
指導医からのメッセージ	過去 20 年間の消化器内科分野における医療の進歩は著しく、1989 年に見つかったＣ型肝炎ウイルスは、いまや内服薬だけでほぼ克服できる時代になりました。科学の進歩により、確実に医療が変わってきています。今後はさらに進歩が早くなりますので、柔軟に対応できる能力が必要とされます。さらに消化器内科で扱う疾患は、いわゆる common disease から難治性疾患まで幅広いため、基本的な診断・治療法の修得のみならず、専門的な知識と経験も必要です。当コースには、消化器病学会専門医 21 名、消化器内視鏡学会専門医 19 名、肝臓学会専門医 14 名を含む医師が専門的指導にあたっており、充実した指導体制が構築されています。また入院患者数は年間 1,000 例前後あり、豊富な診療経験を積むことができます。次世代の優れた医師を育成したいと考えていますので、興味のある方、待っています！
連携施設の病院名	燕労災病院　県立中央病院　十日町病院　魚沼基幹病院　吉田病院 がんセンター新潟病院　新発田病院　新潟市民病院 長岡赤十字病院　済生会新潟第二病院　済生会三条病院　上越総合病院　柏崎総合医療センター　長岡中央綜合病院 三条総合病院　新潟医療センター　豊栄病院　村上総合病院　佐渡総合病院　立川綜合病院　木戸病院　新潟臨港病院 日本歯科大学医科病院　新津医療センター病院　南部郷総合病院 竹田綜合病院　済生会川口総合病院　あがの市民病院

研修コース

①基本コース



問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	総括医長　高村昌昭
	電話連絡先	025-227-2207
	ファックス	025-227-0776
	メールアドレス	sunship@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/in 3 /

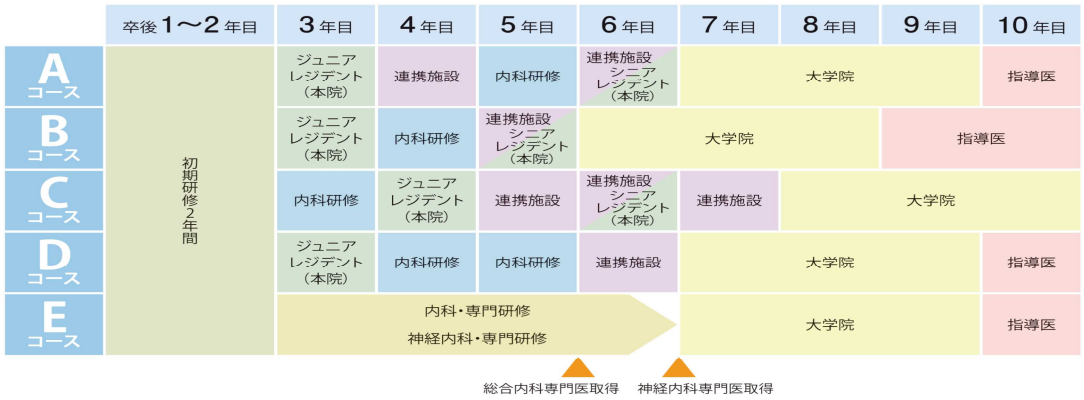
サブスペシャルティコース

コース名	神経内科専門研修コース		
研修期間	3 年	募集人数	6 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 神経内科教授　小野寺　理		
研修概要	私たちが目指すところ 私たちは、General Neurologist を育成するとともに、脳疾患研究を推進し、神経疾患の克服を目指します。 本コースの概要 神経内科は、問診と理学所見が重要で、最も総合的な診察能力を必要とされる内科です。本コースでは、総合内科専門医、神経内科専門医の資格取得を前提とした研修を実践することができます。内科系の総合的な臨床力を養いながら、神経内科専門医研修を行うことができるように配慮しています。 当科は、サブスペシャルティ重点として、初期研修終了直後の 3（4）年目に、新潟大学医歯学総合病院（以下本院）で神経内科臨床の基礎を習得します。この間に神経生理検査、病理検査、画像診断学を学びます。4 ～5 年目は、連携施設で神経内科救急を含む神経内科診療の実践的なトレーニングと内科研修を積みます。初期研修中に回りきれなかった診療科についても、この間にローテートし、総合内科専門医の資格取得のために必要な経験を積みます。5 ～6 年目は、再び本院でより専門的な神経内科臨床研修を行います。屋根瓦方式で初期研修医や医学生の教育にも関わることにより、自身の臨床力の質を高めます。 総合内科専門医・神経内科専門医の資格取得後は、個々人の将来目標により様々な選択が可能です。大学院に進学し、神経疾患の基礎的、臨床的な研究を行うこともできますし、引き続き臨床力を高めることもできます。大学院での教育体制が、量、質ともに充実し、実績のある指導者の下で研修できることも特徴です。 本院神経内科では、15 名の日本内科学会指導医および日本神経学会指導医がコースの指導に当たっています。さらに、25 を超える連携施設において、神経内科専門医および指導医が熱心に指導に当たっています。		
アピールポイント	○　神経内科の王道を体得できます ○　神経内科の近未来の治療も経験できます（治験） ○　国内のみならず，海外の教室とも議論できます		
特色	私たちの教室は日本で最も伝統のある神経内科の一つです。当教室は、新潟大学脳研究所に所属しますが、本研究所は、臨床神経科学部門（脳神経外科と神経内科）を持つ日本で唯一の研究所で、発足当初より脳神経疾患の克服を目標とした研究を行ってきました。本研究所には多数の臨床資産があり、それを求めて、広く国内外より研究者が集い、共同研究を推進しています。この特色を生かして、脳研究所の各分野との連携により、臨床神経学のみではなく、臨床での“気づき”を最先端の研究手法を駆使して深く掘り下げていくことができます。経験した症例や研究については積極的に国内、国際学会で発表し、国際紙へ論文投稿を行い、多くの医師、研究者との交流の中で臨床・研究の能力を高めていくことを推奨しています。 神経内科で扱う疾患は多様で、膠原病内科、整形外科、脳神経外科、耳鼻		

	咽喉科、眼科などとの関わりも多くあります。新潟大学は、伝統的に、他の診療科との連携も良く、多角的な視点から総合的な臨床力を鍛えることができます。当教室は、急性期病院から慢性期病院まで数多くの教育病院と連携しています。それらの施設の経験豊かな指導医とともに、私たちは、これからの超高齢社会に求められる、総合性と専門性の調和を保った General Neurologist の育成に取り組んでいます。また、研究所の臨床神経科学部門として、基礎および臨床面でのリーダーを育てていくことを目標にしています。
指導医からのメッセージ	新潟大学神経内科の特色は、神経疾患の患者さんやご家族に長く寄り添えることにあります。数十年にわたり、病気の患者さん、ご家族と関わることができるのは、当教室の歴史と、県内に張り巡らされたネットワークの賜物です。これによって、今まで、様々な難病の原因を解明してきた実績があります。また、病理学教室との連携が深く、神経疾患に関する臨床病理カンファレンスを毎月開催しています。このような恵まれた環境の施設は、多くありません。専攻医は、神経内科の地域医療を支える経験豊かな指導医のもとで、急性期から慢性期，小児から高齢者まで総合的な臨床力を養うことができます。同時に、最先端の知識を得ることができ、研究や留学の体制も充実しています。また、女性医師も働きやすい環境を心がけています。個々人の将来目標やニーズに 対応して、柔軟な研修プログラムが可能です。私たちは、臨床面でも、研究面でも、トップクラスの研修プログラムを提供しています。
連携施設の病院名	西新潟中央病院　新潟病院　さいがた医療センター　燕労災病院　三之町病院 県立中央病院　十日町病院　新発田病院 新潟市民病院　がんセンター新潟病院　長岡赤十字病院　済生会新潟第二病院 上越総合病院　長岡中央綜合病院　新潟医療センター 佐渡総合病院　立川綜合病院　小千谷さくら病院　木戸病院　信楽園病院　総合リハビリテーションセンター・みどり病院 下越病院　新潟白根総合病院　脳神経センター阿賀野病院　秋田赤十字病院 竹田綜合病院

研修コース

①基本コース



サブスペシャルティ重点コースとして、3年で総合内科専門医、4年で神経内科専門医取得を目指します。
これらは案であり、研修先、コース設定に関して、個別に柔軟に対応していきます。

問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	総括医長　金澤雅人
	電話連絡先	025-227-0665
	ファックス	
	メールアドレス	masa2@bri.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス等	http://www.bri.niigata-u.ac.jp/~neuroweb/

サブスペシャルティコース

コース名	腫瘍内科専門研修コース		
研修期間	7 年	募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 腫瘍内科教授　西條　康夫		
研修概要	本プログラムは、卒後臨床研修を終了した医師（以下、専科医）を対象として、がん薬物療法に関わる知識および技能を習得し、がん薬物療法専門医の資格を取得することを第一の目的としています。がん薬物療法は、5 大がんを中心に固形腫瘍全般に加え、造血器腫瘍の経験も必要となるため、他診療科または他施設で研鑽を積むことを奨励します。 さらに、病院で実施されるキャンサーボードに積極的に参加することで、腫瘍全般に関わる知識を深められます。最終的には、専門研修開始後 5 年をめどに、がん薬物療法専門医資格の取得を目指します。また希望者には、大学院生として悪性腫瘍や分子標的治療薬に関する研究に取り組んでいただき、博士号を取得することができるように構成しています。なお本プログラムの大学院に関わる部分は、2017 年度から開始された次世代東北がんプロ養成プランに基づいて実施されます。		
特色	器腫瘍、乳腺・内分泌腫瘍、呼吸器腫瘍、頭頸部腫瘍におけるがん薬物療法を学びますが、希少がんや造血器腫瘍など、その他の腫瘍についても幅広く経験できます。また、分子生物学の学習および研究を通して、進歩が著しい分子標的薬の臨床研究を行っていきます。本プログラムは東北がんプロフェッショナル養成推進プランの一環として運営するため、多彩な教員陣による講義等を受けることができます。		
指導医からのメッセージ	「新潟から世界最良の医療を！」を合言葉に日々頑張っております。洋々たる未来をもった専攻医のお役に立 てるようお手伝いいたします。		

研修コース

①基本コース

問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	総括医長　森山雅人
	電話連絡先	025-368-9004
	ファックス	025-368-9005
	メールアドレス	oncology@med.niigata-u.ac.jp
	コースＨＰアドレス等	http://www.med.niigata-u.ac.jp/onc/

専門研修プログラム

プログラム名	小児科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	14 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　小児科教授　齋藤　昭彦		
研修概要	本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く小児科の研修を行います。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて 3 年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の 5 つの資質を備えた小児科専門医となることを目指してもらいます。		
アピールポイント	○　症例数も指導医も充実しています。 ○　こどもの医療に携わる素晴らしさを実感できます。 ○　各々の夢が実現できるよう最大限します。		
特色	①　豊富な症例数、②豊富な小児科専門医育成実績（年平均 7 人以上）、③十分な指導体制に集約できます。各病院と新潟大学小児科の各専門領域（感染症、腎臓、血液・腫瘍、循環器、内分泌代謝、新生児、神経など）の医師との間には、顔が見える距離での緊密な連携が保たれており、‘気になる’症例について、専攻医から各専門領域の医師に直接コンサルテーション（メールや電話）が日常的に行われております。当然、重症例や稀少疾患などの緊急の搬送もスムーズに行われていますので、十分なバックアップの下に患者の診療に取り組むことができます。このような連携は、小児を取り巻く医療提供体制が複雑な都市部では実現しにくいものであり、地方ならではの特筆すべき点です。特に新潟県はその規模が大きく、本プログラムでカバーする医療圏の人口はおよそ 250 万人（小児人口 30 万以上）ですので、専攻医数と比較すれば、十分な症例経験を積むことができます。		
指導医からのメッセージ	小児科の初期研修で最も重要なのが、確実な問診と身体所見から鑑別診断をあげ、適切な検査を行い、診断し、そして治療につなげる、この 1 連の思考過程を多くの症例を通じて、繰り返しトレーニングすることです。本プログラムでは、小児科医は、子どもの総合医であることを前提に、上記の思考過程を基本とし、豊富な臨床経験を積むことが可能です。また、若手小児科医のための Basic Core Lecture（年 4 回）などを通じ、最新の実践的な小児科診療に役立つ知識の習得が可能です。		
連携施設の病院名	県立中央病院　魚沼基幹病院　長岡赤十字病院　長岡中央綜合病院　県立新発田病院　新潟市民病院　済生会新潟第二病院 鶴岡市立荘内病院　佐渡総合病院		

研修コース

①基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設で小児科一般の研修 （NICUでの研修含む）											
2年目	連携施設または関連施設で小児科一般の研修 （NICUでの研修及び地域医療など） 専門医取得のための論文作成											
3年目	大学病院で総合小児科医としての研修6ヶ月 連携施設または関連施設での研修（成育医療研究センターでの救急研修も可）											

② 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土・日
7：30～8：15	受持患者情報の把握					
8：15～9：00	モーニング・カンファレンス（インターアクティヴな症例検討、抄読会、専門医による講義）					週末日直 （1回/月）
9：00～12：00	病棟 学生・初期研修医の指導 大学病院では各専門チームをローテーション					
12：00～13：00					ランチョン セミナー	
13：00～17：00	病棟 学生・初期研修医の指導 大学病院では各専門チームをローテーション			総回診	病棟	Basic Core Lecture （年4回）
17：00～17：30	患者申し送り					
17：30～19：00		各専門チームによる症例検討会		論文執筆・研究に関する勉強会 （1回/月）	ふりかえり （1回/月）	

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　星名　哲
	電話連絡先	025-227-2222
	ファックス	025-227-0778
	メールアドレス	shounika@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/ped/

専門研修プログラム

プログラム名	皮膚科専門研修プログラム		
研修期間	5 年	H31 募集人数	10 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 皮膚科教授　阿部理一郎		
研修概要	5 年間の研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。		
アピールポイント	○　定期的な教育講演など、充実した教育システム。 ○　初診および専門外来において皮膚科全般の臨床スキルを獲得することができる。 ○　大学院生にはトップジャーナルを目指せる研究の指導を行い、博士取得後は積極的に留学を推奨している。		
特色	新潟大学医歯学総合病院皮膚科では、専門外来として、乾癬外来、腫瘍外来、薬疹外来、リンパ腫外来、アトピー外来、皮膚膠原病外来、遺伝性皮膚疾患外来を設けており、外来患者数は 1 日平均 110 名、入院患者数は 1 日平均 20 名にのぼり、外来および入院患者の診療を通じて豊富な経験を積むことが可能である。また、年間手術件数は 600 件を超え、皮膚科医として必要な手術手技の習得が可能である。研究面では、皮膚免疫学、遺伝性皮膚疾患学などの研究グループを作り、多様な研究結果を創出している。さらに連携施設では、施設ごとの役割に応じて、急性期疾患や皮膚悪性腫瘍への対応、一般的な皮膚疾患に対する診断・治療スキルを研修期間を通して身につけていくことで、皮膚科医としての総合的な診療能力を培うことができる。		
指導医からのメッセージ	皮膚科学は、皮膚に病変がある疾患全てを扱う、病変にもっとも直接的にアプローチし診断治療する総合臨床医学です。 新潟大学皮膚科教室は、皮膚科専門医を目指す研修医に対し、充実したレベルの高い研修医教育を提供できるよう、日々努力しています。皮膚科専門医としての基本姿勢ならびに皮膚科サイエンスを体現して欲しいと考えます。 是非当教室で充実した研修を受け、将来の新潟の医療の、皮膚科学の発展のためにともに頑張りましょう。		
連携施設の病院名	長岡赤十字病院　県立がんセンター新潟病院　魚沼基幹病院　県立新発田病院　済生会新潟第二病院　新潟医療センター 木戸病院　新潟市民病院		

研修コース

①基本コース

卒後臨床研修を修了して皮膚科の専門医を志す医師が、新潟大学医歯学総合病院皮膚科とその関連病院で専門研修を行う。全人的医療を実践するために、診療で遭遇する皮膚疾患およびその病態に適切に対応できる診療能力（態度、技能、知識）を身につけ、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医を取得する。専門研修と生涯教育のために伝統ある日本皮膚科学会新潟地方会があり、学術環境も充実している。関連課題で学位を取得し、臨床応用や皮膚科学の発展への貢献も可能で、さらに海外施設への研究留学も盛んである。皮膚疾患は多彩で、患者数や他科からのコンサルトが非常に多く、皮膚科専門医としての役割は重要である。とくに新潟県下では皮膚科専門医の需要がきわめて大きい。

■aコース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
卒後臨床研修		皮膚科前期研修 皮膚科［医員］：1年間	基礎研究または臨床研究／基礎研究へ出向あるいは皮膚科：4年間 （基礎研究へ出向するか否かは本人の意向を考慮する。期間も本人と相談して決定する。） ［学位取得・大学院修了］ 皮膚科中期研修／皮膚科：1～2年間				皮膚科後期研修／関連病院：1年間＋皮膚科［医員］：1年間／または関連病院：2年間［皮膚科専門医取得］／［指導医として研修医指導］	

■bコース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
卒後臨床研修		皮膚科前期・中期研修 皮膚科［医員］：2年間 あるいは皮膚科［医員］： 1年間＋関連病院：1年間		基礎研究または臨床研究／基礎研究へ出向あるいは皮膚科：4年間 （基礎研究へ出向するか否かは本人の意向を考慮する。期間も本人と相談して決定する。） ［学位取得・大学院修了］				皮膚科後期研修／関連病院：1年間／［皮膚科専門医取得］／［指導医として研修医指導］

■cコース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
卒後臨床研修		皮膚科前期研修 皮膚科［医員］：1年間	皮膚科中期研修 関連病院：1年間	皮膚科後期研修 および臨床研究 皮膚科［医員］：2年間 ［大学院社会人入学］		皮膚科後期研修および臨床研修 関連病院：2年間 ［学位取得・大学院修了］ ［皮膚科専門医取得］		皮膚科研修／皮膚科［医員］：1年間／［指導医として研修医指導］

■dコース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
卒後臨床研修		皮膚科前期研修 皮膚科［医員］：1年間	皮膚科中期研修 関連病院：1年間	皮膚科後期研修 皮膚科［医員］：2年間 あるいは皮膚科［医員］：1年間＋関連病院：1年間［皮膚科専門医取得］		皮膚科研修 皮膚科［医員］：2年間 あるいは関連病院：2年間 ［指導医として研修医指導］	

その他参考情報	□専門研修プログラムの概略 皮膚科コースは原則として、皮膚科前期・中期・後期研修、および大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野での研究期間に分けられる。 優秀な成績で皮膚科研修を修めた者は、6 年目以降に所定の審査・試験を受けて、皮膚科専門医を取得できる。主な研修コースを図に示したが、各自の希望を考慮して、コースの変更も可能である。海外留学を希望する者には、留学の希望を最優先させている。皮膚科後期研修修了後（卒後 10 年目以降）は、大学病院皮膚科で後輩の指導と研究を行って皮膚科教員を目指す者と、関連病院で皮膚科指導医として研修医や後輩の指導にあたる者に分かれる。この選択は個人の将来構想による。現在、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の他に、各種専門指導医のサブスペシャルティコースが日本皮膚科学会で検討されている。平成 20 年度からは、皮膚悪性腫瘍指導専門医、美容皮膚科・レーザー指導専門医の専門医制度が導入された。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　新熊　悟
	電話連絡先	025-227-2282
	ファックス	025-227-0783
	メールアドレス	dermatol@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.niigata-derma.net/

専門研修プログラム

プログラム名	精神科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	10 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　精神科教授　染矢　俊幸		
研修概要	新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とし、魚沼基幹病院、県立精神医療センターを連携施設とした研修施設群を構成する。専攻医は 3 年の研修期間内にこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させる。		
アピールポイント	○　多数の指導医、関連施設を擁し、専門分野ごとに柔軟な指導が可能 ○　本人の希望に応じた研修スケジュールを組むことが可能 ○　精神科領域の研究活動は全国でも上位		
特色	新潟大学医歯学総合病院の精神科は、大学病院精神科としては規模の大きい 64 床のベッドを有している。閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。 専攻医は看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。 また、魚沼基幹病院、新潟県立精神医療センターといった新潟県内の主要医療機関に加え、地域密着型の専門性に富んだ単科精神科病院を連携施設として有しており、これらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医取得に臨むことが可能である。児童思春期や認知症、物質関連精神障害の専門医療機関、単科精神科病院と連携しているため、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。		
指導医からのメッセージ	大学での研修は、うつ病や統合失調症など代表的な精神疾患のみならず、児童・思春期疾患、認知症なども研修することができます。国際診断システムを用いた精神科診断やエビデンスに基づいた薬物療法について一生懸命指導します。 また、精神科診断学、発達障害の病態研究、臨床薬理学研究、分子遺伝学研究などの研究も行っています。興味があればこれらの研究に触れることもできますし、学会に同行することもできます。臨床、研究活動ともに、上級医と気楽にディスカッションの場をもてる雰囲気です。皆さんと共に勉強できる日を楽しみにしています。		
連携施設の病院名	魚沼基幹病院　新潟県立精神医療センター　南浜病院　田宮病院　河渡病院　三島病院　佐潟荘		

研修コース

①基本コース

■Aコース

1年目	2年目	3年目
大学	連携施設A群より1施設選択	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)

■Bコース

1年目	2年目	3年目
連携施設A群より1施設選択	大学	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)

■Cコース

1年目	2年目	3年目
大学	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)	連携施設A群より1施設選択

連携施設A：魚沼基幹病院、県立精神医療センター
連携施設B：南浜病院、田宮病院、河渡病院、三島病院、佐潟荘

②週間スケジュールの例

■週間スケジュール例(大学)

	月	火	水	木	金
8：30～9：00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9：00～12：00	外来予診	症例検討会 病棟回診	外来予診	外来予診	外来予診
13：00～17：00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	グループ回診 カンファレンス	病棟業務
17：00～18：10		研修医セミナー			

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	新潟精神科専門医研修プログラム事務局 須貝拓朗
	電話連絡先	025-227-2213（2214）
	ファックス	
	メールアドレス	tsugai@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.niigata-dp.org

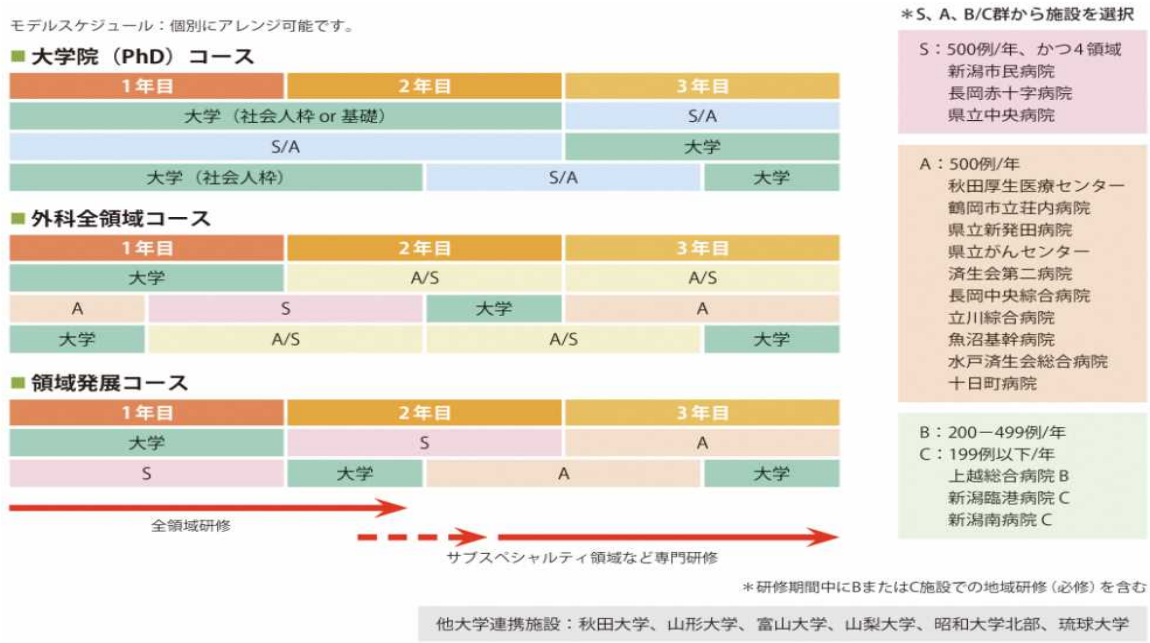
専門研修プログラム

プログラム名	外科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	17 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　消化器・一般外科　若井　俊文		
研修概要	『外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを習得した外科専門医を取得するためのプログラム』です。 ● 初期研修修了後、専攻医として 3 年（以上）の専門研修を行います。 ● 外科専門医はサブスペシャルティ（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科等）の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格です。		
特色	①「Unter einem Dach：1 つ屋根の下に」：新潟大学外科教室では、今回の制度が始まる以前から消化器、呼吸循環、小児外科領域について連携を取って研修を行ってきた実績があります。各領域における障壁のないスムーズな研修が行えます。 ② 大学院（PhD）コース：専門医研修と併行して学位の取得が可能。卒業 5 年目の時点で『外科学会専門医』受験資格と『博士号』の取得を狙えます。将来の更なるステップアップのための最短コース！！ ③ 豊富な症例、指導医：数多くの指導医の下、豊富な症例経験を積むことが可能です。若手は助手で我慢！などということはありません。積極的な参加を待ち望んでいます。 ④ 研修施設を自分で選択することができる！：手術数の多い High volume センターを連携施設としています。各個人の希望に沿った研修プログラムを一緒に考えましょう。いつでも相談にのります。 ⑤新潟医療人育成センター：シミュレーションセンター開設！スキルアップが図れます。 ⑥同世代の研修医・若手医師が多い：同世代の同僚、先輩のアドバイスは心強い味方です。 		
指導医からのメッセージ	手術によって人命を救う外科医療は極めてやりがいのある仕事であると私は信じています。私はもう一度生まれ変わっても外科医になりたいと思っています。我々、外科教室は若者を大切に育てていきます。“気概のある諸君、来たれ、外科教室へ！” 消化器・一般外科　教授　若井俊文 「和」を大切に、若い人がのびのびと、そして色々なことにチャレンジできる活気ある教室を目指しています。 呼吸循環外科　教授　土田正則 「新潟から世界最良の医療を」を合言葉に日夜頑張っております。洋々たる未来をもった子供たちのお役に立てるのを楽しみにしています。 小児外科　教授　窪田正幸		

連携施設の病院名	新潟市民病院　長岡赤十字病院　県立中央病院　秋田厚生医療センター　鶴岡市立荘内病院　県立新発田病院　県立がんセンター　済生会第二病院　長岡中央綜合病院　立川綜合病院　魚沼基幹病院　水戸済生会総合病院　十日町病院　上越総合病院　新潟臨港病院　新潟南病院　秋田大学　山形大学　富山大学　山梨大学　昭和大学北部　琉球大学

研修コース

①基本コース



■スケジュール例

専門研修1年目	基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）または連携施設に所属し、研修を開始します。大学院（PhD）コース、外科全領域コース、領域発展コースのいずれにおいても下記の症例を担当してもらうことを目標とします。 ●一般外科／麻酔／救急／病理／消化器／心・血管／呼吸器／小児／乳腺・内分泌 ●経験症例200例以上（術者30例以上）
専門研修2年目	基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）または連携施設に所属し、研修を行います。 ●一般外科／麻酔／救急／病理／消化器／心・血管／呼吸器／小児／乳腺・内分泌 ●経験症例350例以上／2年（術者120例以上／2年）
専門研修3年目	不足症例に関して各領域をローテートします。外科専門医達成項目を十分履修した専攻医においては、サブスペシャルティ領域の研修も開始可能です。大学院（PhD）コース履修者は、新潟大学医歯学総合病院で研究をまとめながらの研修も可能です。

問い合わせ先	電話連絡先	消化器・一般外科　025-227-2228 呼吸循環外科　025-227-2243 小児外科　025-227-2258
	E-mail	消化器・一般外科 su1admin@med.niigata-u.ac.jp 呼吸循環外科 su2sec@med.niigata-u.ac.jp 小児外科 kinoppy@med.niigata-u.ac.jp
	HP アドレス	消化器・一般外科 http://www.med.niigata-u.ac.jp/su1/ 呼吸循環外科 http://www.med.niigata-u.ac.jp/su2/ 小児外科 http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/psu/Welcome.html

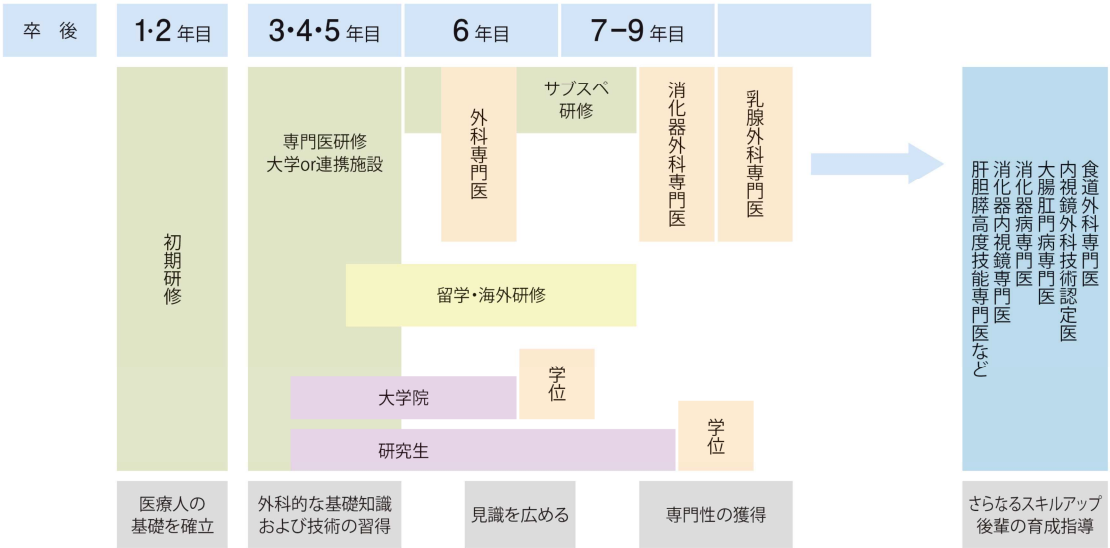
サブスペシャルティコース

コース名	消化器・一般外科／乳腺・内分泌外科専門研修コース		
研修期間	3-5 年	募集人数	15 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　消化器・一般外科教授　若井　俊文		
研修概要	※当コースでは、外科専門医をすでに取得した者を対象として、サブスペシャルティ研修を行います。主に消化器外科学会専門医を目指すコースと乳腺外科専門医を目指すコースを用意しています。 当科の診療範囲は、食道・胃外科、大腸・肛門外科、肝臓・胆道・膵臓外科、移植外科、乳腺・内分泌外科など広範であり、外科全般の知識・技能を修得できることが当コースの強みとなっています。消化器外科領域の中でさらに専門性を高めてもらい、各領域の認定医・専門医・指導医を取得することが可能なコースになっています。内視鏡外科手術に興味がある人は内視鏡外科技術認定医を目指してもらい、消化器内科領域の勉強をしたい人は消化器病学会、消化器内視鏡学会専門医を取得することもできます。乳腺外科専門医を目指す方は、専門的に乳腺疾患に携わるコースも用意しておりますのでご希望があれば相談にのります。国内施設と連携をとり、移植外科医育成プログラムに参加しておりますので移植外科医を志す方にも対応しています。 近年のグローバル社会に対応するには、広い視野を持つことが重要と考えています。国内外を問わず、積極的に研修・留学をすすめています。教室として出来る限りのバックアップ体制をとり金銭面も含めたサポートを行っています。平成 28 年度はアメリカ（バッファロー、ニューヨーク、ボストン）、イギリス（ロンドン）など国外有名施設への留学・研修をはじめ、国内の施設へも積極的に出向き、研鑽を積み、互いに切磋琢磨しています。 研修中、研修後の大学院進学も可能で、大学院卒業とともに学位が取得できるよう支援体制をつくっています。新潟県内外に連携施設が多数あり、多様性のある研修が行えることも当コースの特徴です。		
特色	当コースにおける専門研修の特色は、①手術のレベルが高く、研修の質も高い、②マスターすべき手術手技を概ね定めており、一定レベルの手技習得を保証される、③研修病院が多く、多様な疾患、多数の手術を経験できる、④面倒見のよい先輩医師が揃っており、指導医層が充実している、⑤内視鏡外科学会技術認定医、日本肝胆膵高度技能専門医等の資格取得が可能、⑥臨床研修と併行して研究活動、学位取得が可能であること等です。		
指導医からのメッセージ	一律の指導ではなく、個々の将来像にも対応した多様性のあるシステムになるよう常に考えています。「乳腺外科、移植外科に特化して研修したい」など希望がありましたらご相談ください。 手術によって人命を救う外科医療は極めてやりがいのある仕事であると私は信じています。私はもう一度生まれ変わっても外科医になりたいと思っています。我々、外科教室は若者を大切に育てていきます。 “気概のある諸君、来たれ、外科教室へ！” 消化器・一般外科　教授　若井俊文		

連携施設の病院名	村上総合病院　坂町病院　新発田病院　南部郷総合病院　佐渡総合病院　がんセンター新潟病院　新潟市民病院　新潟臨港病院 日本歯科大学医科病院　信楽園病院　済生会新潟第二病院　新潟白根総合病院　吉田病院　済生会三条病院　三条総合病院 長岡赤十字病院　長岡中央綜合病院　立川綜合病院　燕労災病院　柏崎総合医療センター　県立中央病院　魚沼基幹病院 あがの市民病院　新潟南病院　新潟医療センター　豊栄病院　加茂病院　魚沼病院　上越総合病院　亀田第一病院　津川病院 新津医療センター病院　柿崎病院　潟東けやき病院　岩室リハビリテーション病院　桑名病院　新潟万代病院 水戸済生会総合病院　秋田厚生医療センター　鶴岡市立荘内病院

研修コース

①基本コース



② 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	抄読会	← 病	検討会 棟　回	診 →	検討会
	外来	手術	外来	手術	外来 手術
午後		手術	検査 (透視・内視鏡)	手術	手術
	検討会	手術 ← 病	キャンサーボード 棟　回	手術 診 →	手術

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　羽入隆晃
	電話連絡先	025-227-2228
	ファックス	025-227-0779
	メールアドレス	su1admin@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス等	http://www.med.niigata-u.ac.jp/su１/

サブスペシャルティコース

コース名	心臓血管外科／呼吸器外科専門研修コース		
研修期間	3 年	募集人数	心臓血管外科 3 名 呼吸器外科 3 名
選考方法	面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院心臓血管外科・呼吸器外科教授　土田 正則		
研修概要	心臓血管外科医を目指す研修医のために「新潟心臓血管外科修練ネットワーク」というコースを用意している。心臓血管外科手術例が多く、かつ、指導体制が整っている県内外の関連病院と大学病院が協力して研修を行うシステムである。専門医認定機構に認定されたプログラムにもとづき、外科専門医研修修了後 3 年で心臓血管外科専門医を取得できるコースである。ネットワークに属する病院は、新潟大学医歯学総合病院、新潟市民病院、立川綜合病院、長岡赤十字病院、新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院、水戸済生会総合病院である。成人心臓血管外科コースでは心臓胸部大血管疾患は元より、腹部大動脈から末梢の動脈疾患さらには静脈疾患に至るまで幅広い疾患を対象としている。このコースでは、心臓血管疾患全体に対して系統的で患者本位の対処法を実践できる専門医を養成することに力を入れている。 更に、小児心臓外科に関しては新潟大学医歯学総合病院において新生児の複雑心疾患から非チアノーゼ性先天性心疾患まで修練する。診断から治療戦略の確立、手術、周術期管理までを一貫して小児科と協力しながら修練し、より専門性を高める。 呼吸器外科医を目指す研修医のために「新潟呼吸器外科修練ネットワーク」というコースを用意している。呼吸器外科手術例が多く、かつ、指導体制が整っている県内の関連病院と大学病院が協力して研修を行うシステムである。専門医認定機構のプログラムにもとづき、外科専門医研修修了後 3 年で呼吸器外科専門医を取得できるコースである。ネットワークに属する病院は新潟大学医歯学総合病院、がんセンター新潟病院、西新潟中央病院、長岡赤十字病院、県立中央病院である。研修内容はプログラム委員会の討議にもとづき修練施設・レベルを設定し、到達度に応じて修練方法内容の修正を施行、更に専門領域での臨床研究能力の養成を心がけている。呼吸器外科の基本的手術に精通し、呼吸器疾患の適切な対応法を身につけることはもちろん、心臓血管外科の研修も行うため、胸部心臓血管外科全体に強い専門医を養成することに力を入れている。		
アピールポイント	とにかく手術がたくさんできる		
特色	専門研修は心臓血管外科と呼吸器外科とに分かれて行われる。プログラムにもとづき、外科専門医研修修了後 3 年で各専門医の到達目標を十二分にクリアできるコースを「新潟心臓血管外科修練ネットワーク」「新潟呼吸器外科修練ネットワーク」として用意している。プログラム委員会の討議にもとづき修練施設・レベルを設定し、到達度に応じて修練方法内容の修正を施行、更に専門領域での臨床研究能力の養成を心がけている。どちらの専門医をめざす場合でも、心臓血管外科・呼吸器外科の基本的手術に精通し、		

	末梢動脈静脈への適切な対応法を身につけることで、胸部心臓血管外科全体に強い専門医を養成することに力を入れている。 心臓血管外科修練プログラム委員は名村理、青木賢治、白石修一（新潟大学医歯学総合病院）、中澤聡（新潟市民病院）、山本和男（立川綜合病院）、菅原正明（長岡赤十字病院）、島田晃治（県立新発田病院）、大関一（県立中央病院）、倉岡節夫（水戸済生会総合病院）で構成されている。 呼吸器外科修練プログラム委員は土田正則、小池輝元（新潟大学医歯学総合病院）、吉谷克雄（県立がんセンター新潟病院）、渡辺健寛（西新潟中央病院）、大和靖（長岡赤十字病院）、斉藤正幸（県立中央病院）で構成されている。
指導医からのメッセージ	成人心臓血管外科ではネットワーク全体で低侵襲手術を推進しています。とくに大学病院では症例が豊富なうえ、シミュレータの活用など早期かつ短期間に技術を習得できる環境が整備されています。小児心臓外科は高難度手術を次々と成功させ、症例も増加するなど、充実した修練を行える環境にあります。呼吸器外科はどの施設でも手術が多く、短期間で技術を習得できます。大学病院では癌治療、肺移植の研究体制が整備されています。
連携施設の病院名	心臓血管外科：県立中央病院　新発田病院　新潟市民病院　長岡赤十字病院　立川綜合病院　水戸済生会総合病院 呼吸器外科：西新潟中央病院　県立中央病院　がんセンター新潟病院　長岡赤十字病院

研修コース

①基本コース

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　小池輝元
	電話連絡先	025-227-2243
	ファックス	025-227-0728
	メールアドレス	su2sec@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス等	

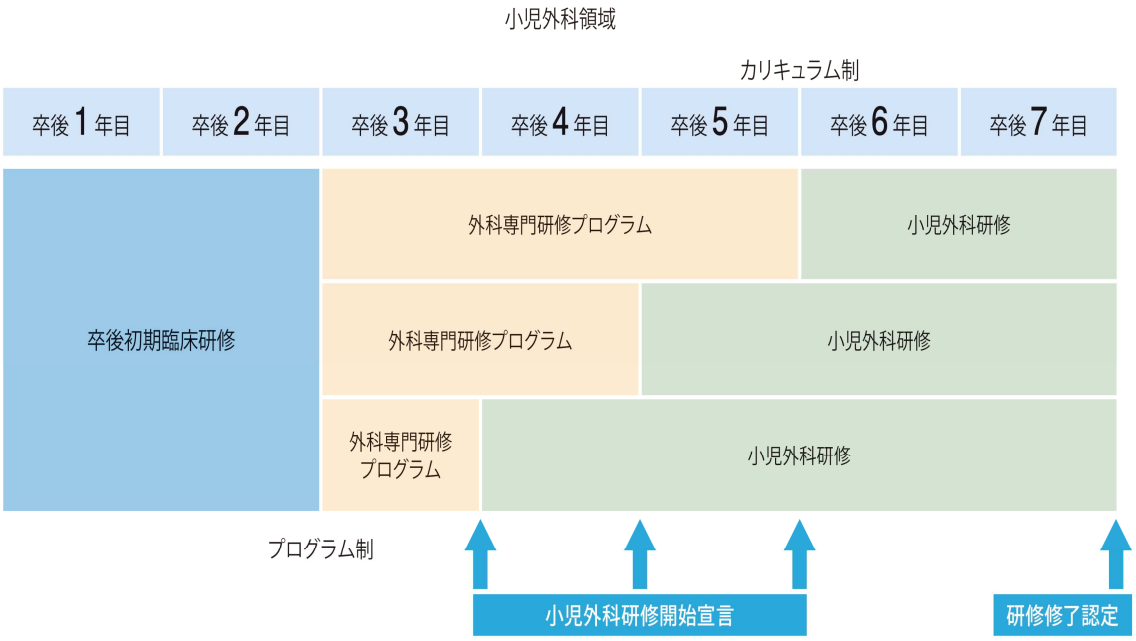
サブスペシャルティコース

コース名	小児外科専門研修コース		
研修期間	3 年	募集人数	3～4 名
選考方法	面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　小児外科教授　窪田　正幸		
研修概要	外科学会のサブスペシャルティ領域（小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科など）における専門医制度の方針が定まってきました。小児外科においては、プログラム制（病院群を定め一定期間の研修で資格を取得できる制度）とカリキュラム制（従来のように期間を定めず必要な臨床カリキュラムの取得を行う制度）の並立ができます。カリキュラム制であっても、小児外科修練開始を宣言し、指導医が修練終了をデータベースに登録された症例はカウントすることができます。従って、小児外科に決めている場合は、卒後研修に小児外科研修を入れると専門医資格の取得が早くなります。卒後研修後の外科研修は 3 年が望ましいとされていますが､1 年終了した段階で小児外科研修開始を宣言することができ、2 - 2 - 3 制度（卒後研修 2 年、外科研修 2 年、サブスペシャルティ 3 年）を採用しているサブスペシャルティ領域もあります。外科専門医に必要な 350 例を経験した後にサブスペシャルティ領域に移行してゆくことも考えられています。未だ骨子が定まっただけの状態で今後の詳細は流動的で、メール等で疑問点はお尋ね下さい。 当小児外科では、生後まもない新生児の手術から 15 歳までの小児手術を行います。新生児外科は、食道閉鎖、十二指腸閉鎖、小腸閉鎖、鎖肛、Hirschsprung 病などの消化器疾患から、先天性肺分画症、CCAM、横隔膜ヘルニア、腹壁破裂、臍帯ヘルニアなど呼吸器から体壁に及ぶ広い領域の手術をしています。また、悪性腫瘍として神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫といった小児期独特の腫瘍の治療を小児科、整形外科、脳神経外科、放射線科などの先生方と専門的治療集団を作成し、新潟県内の症例を統一した治療方針で集学的治療を行っています。既に、Niigata Tumor Board として 40 年以上の歴史があります。また、小児外科領域においても内視鏡手術は不可欠で、現在では手術症例の三分の一に内視鏡が用いられ、整容性にも優れた低侵襲手術を心がけています。高頻度磁気刺激を用いた仙骨神経機能調節は、当科のオリジナルなプログラムで、排便機能障害や排尿機能障害に対する非侵襲的治療手技として、優れた効果を上げています。本年より新しい器機も導入され、外来レベルで多くの小児の治療を行っています。		
特色	小児外科学会では､年間手術症例 100 例に対し 1 名の研修生が適切と考えています。当科では毎年 2 名の研修が可能で、3 年間の研修でカリキュラムを終了することができます。新生児は毎年 15～20 程度で、鼠径ヘルニア、停留精巣などの他に悪性腫瘍や胸部手術も多く、内視鏡手術も 1 ／ 3 の症例に用いています。3 年の研修で主要な疾患を過不足無く経験できます。カリキュラム制のため、大学院進学や海外留学などを研修期間に適宜組み合わせ		

	る自由度もあります。 外科研修に必要な症例は術者として 120 例を含む 350 例で、大学病院では外科研修が効率よく行えるように消化器・一般外科、胸部呼吸器・血管外科と効率よく連携しています。これも大学研修の大きな利点です。
指導医からのメッセージ	新しい専門医制度の規範に沿って効率よく研修できる制度を構築しています。専門医取得は長い医師生活の一里塚です。教育と研究も早期から開始し、バランスのとれた小児外科医の養成を目指しています。
連携施設の病院名	県立中央病院　長岡赤十字病院　鶴岡市立荘内病院　太田西ノ内病院

研修コース

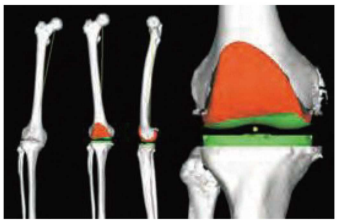
①基本コース



＊現時点での新専門医制度において、サブスペシャルティに関しては流動的なものであり、内容とは多少異なってくることもあります。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	小児外科　木下義晶
	電話連絡先	025-227-2258
	ファックス	025-227-0781
	メールアドレス	kinoppy@med.niigata-u.ac.jp
	コースのＨＰアドレス等	http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/psu/Welcome.html

専門研修プログラム

プログラム名	整形外科専門研修プログラム		
研修期間	3 年 9 か月	H31 募集人数	18 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　整形外科教授　遠藤　直人		
研修概要	新潟大学医歯学総合病院は基幹施設として、県内外 30 の連携施設と共に本研修プログラムを構成します。運動器プロフェッショナルイズムの涵養により、人間性が豊かで全人的な医療と第一線の整形外科医療を実践でき、新潟県内のみならず国内全域や海外への飛躍をする整形外科専門医を育成することを目標としています。		
アピールポイント	執刀医として多数の症例を経験できます。 最高の環境で経験豊富な指導医のもとで研修できます。 あらゆる分野の研修が可能です。		
特色	本プログラムの特色は、何と言っても全国有数の臨床経験を積むことが可能な点です。実際、これまで当科にて研修した医師は、多くの連携施設で研修を行うことにより、専門医試験受験までに全員 500 件以上の執刀経験を積み、初期治療から最先端医療までの幅広い経験を積むことにより、頼もしい整形外科専門医へと成長しています。連携施設は、総合研修病院群、地域中核病院群、高度専門領域病院群、連携指定病院群に分け、大学病院を含む 3～ 5 施設での 3 年 9 か月の研修を行います。総合研修病院では、救急医療としての外傷に対する研修を中心に、サブスペシャルティに対しても経験豊富な指導医による研修を受けることができます。地域中核病院では、地域医療ならびに外傷に対する研修を幅広く受けることができます。高度専門領域病院では、それぞれ特化したサブスペシャルティに対する専門性の高い研修を受けることができます。全領域を満遍なく研修し、整形外科医としての総合力を身につけることを目的とした、総合領域コースのほか、各専門領域に重点をおいた研修を受けられるようにした専門重点コースや、専門研修終了後の大学院進学などを目指す研究重点コースなど多彩なプログラムを用意しています。  3D-CTによるTKA術前計画		
指導医からのメッセージ	新潟大学整形外科学教室は 1917 年の開講以来 100 年を超える歴史ある教室です。県内外に多くの連携施設があり、多彩でかつ非常に多くの臨床症例の経験ができます。さらに多数の経験豊かな指導医のもと、整形外科すべての領域についての高度な研修をまんべんなく受けることができます。東京近郊など都市部の施設に比較すると忙しい勤務状態になりますが、その分豊富な臨床経験を積むことが可能です。みなさんの参加をお待ちしています。		
連携施設の病院名	［新潟県内］新潟市民病院　県立十日町病院　西新潟中央病院　県立中央病院　新潟労災病院　新潟手の外科研究所 魚沼基幹病院　県立がんセンター　長岡赤十字病院　立川綜合病院　新潟臨港病院　済生会新潟第二病院		

連携施設の病院名	新潟医療センター　長岡中央綜合病院　新潟中央病院　下越病院　県立新発田病院　柏崎総合医療センター 佐渡総合病院　新潟リハビリテーション病院　県立リウマチセンター　中条中央病院 ［新潟県外］聖隷浜松病院（浜松市）　水戸済生会総合病院（水戸市）　鶴岡市立荘内病院（鶴岡市）　会津中央病院（会津若松市） 板橋中央総合病院（東京都）　新東京病院（松戸市）　千葉県こども病院（千葉市）　八尾徳洲会病院（八尾市）

研修コース

①基本コース

■大学1年コース〔総合領域コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院①	総合研修病院②	地域中核病院

■大学半年コース〔専門重点コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院	地域中核病院	高度専門領域病院

■大学2年コース〔研究重点コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院	地域中核病院	大学

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
7：30～	術前検討	術後検討 教授回診	術前検討		術後検討 教授回診
9：00～	手術	外来/手術	手術	外来/手術	外来/手術
19：00～	診療班検討会 脊椎・脊髄（第2） 手（第3） 股（毎週） 膝・スポーツ（毎週） RA（不定期）		医局会 抄読会 研究検討会 CPC など	診療班検討会 腫瘍（毎週）	

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	研修プログラム担当　川島寛之
	電話連絡先	025-227-2272
	ファックス	025-227-0782
	メールアドレス	inskawa@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/ort/

専門研修プログラム

プログラム名	産科婦人科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	10 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　産科婦人科教授　榎本　隆之		
研修概要	本プログラムでは新潟大学医歯学総合病院産婦人科を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたります。大学病院では婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児疾患、産科救急などがメインとなる一方、大学病院では経験する事が少ない性感染症、骨盤臓器脱（性器脱）、避妊指導、モーニングアフターピルの処方と服薬指導などの習熟は連携施設がメインとなります。連携施設には得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で生殖医療、婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの 4 領域を万遍なく研修する事が可能です。産婦人科専攻医の研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各施設の状況、地域の医療体制を勘案して、新潟大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会にて決定されます。		
アピールポイント	○　豊富な症例数 ○　専門医取得に向けて熱心な指導体制でバックアップ ○　多岐にわたるサブスペシャルティ		
特色	新潟大学医歯学総合病院産婦人科のセールスポイントは、1）周産期医療と婦人科がん診療においては国立大学では全国トップクラスの症例の豊富さ、2）手術など技術の指導に熱心な指導体制、3）エビデンスを作るための臨床試験や治験への参加が多く、自然に EBM を身につけられる環境、です。後期研修 4 年目の秋に産婦人科専門医を取得することができ、さらに希望があればサブスペシャルティ〈周産期（母体・胎児）専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、女性ヘルスケア専門医、臨床遺伝専門医、細胞診専門医、超音波専門医、婦人科内視鏡技術認定医など〉取得のための研修に移行可能です。また、大学院進学も積極的に支援しています。		
指導医からのメッセージ	新潟大学医歯学総合病院産科婦人科は、年間分娩数が約 450 件、年間手術件数が産科婦人科併せて約 500 件であり、胎児疾患例、産褥出血、合併症妊娠、帝王切開術、婦人科悪性・良性腫瘍手術（とくに婦人科腹腔鏡手術）など、大学病院ならではの多彩で幅広い症例・手術を経験することができます。女性の一生涯を通じ、様々な場面で心身の健康を守っていけるような産婦人科医を目指して研修されることを期待します。		
連携施設の病院名	魚沼基幹病院　済生会新潟第二病院　県立がんセンター新潟病院　新潟市民病院　村上総合病院　県立新発田病院　済生会三条病院　長岡赤十字病院　長岡中央綜合病院　立川綜合病院　県立中央病院　上越総合病院　佐渡総合病院　鶴岡市立荘内病院　富山赤十字病院　済生会川口総合病院　聖隷浜松病院		

研修コース

①基本コース

1年目	基幹施設 → 連携施設	
	産婦人科基礎：ハイリスク妊娠悪性腫瘍の経験 腹腔鏡助手　生殖医療経験	一般病院医療：妊娠分娩管理　高度生殖技術経験 悪性腫瘍の診断
2年目	連携施設	
	基礎から応用へ：ハイリスク妊娠分娩　悪性腫瘍の診断と治療　腹腔鏡助手から術者へ　一般生殖医療の実際	
3年目	連携施設	
	応用：母体搬送受け入れ　ハイリスク妊娠分娩　悪性腫瘍の診断と治療　腹腔鏡手術術者　一般生殖医療の実際	

②週間スケジュールの例

		月	火	水	木	金
産科	午前	医局会議	術前検討会	← 病	棟 ・ 外	来 →
					医局検討会 手術	
	午後	病棟 産科NICU 検討会	病棟・外来	病棟 手術	教授回診 手術	病棟
婦人科	午前	医局会議 病棟・手術	術前検討会 病棟・外来	病棟・外来 手術	医局検討会 病棟・外来	病棟 外来
	午後	病棟・手術 婦人科検討会	教授回診	病棟 手術	病棟 手術	病棟

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　生野寿史（はいのかずふみ）
	電話連絡先	025-227-2320
	ファックス	025-227-0789
	メールアドレス	haino730@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://obs-niigata.jp

専門研修プログラム

プログラム名	眼科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	6 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　眼科教授　福地　健郎		
研修概要	新潟県（大学基幹）専門研修プログラムは、眼科学の進歩に対応した知識と技術をもつすぐれた眼科医を養成し、さらに生涯にわたる研鑽を積むことによって、国民医療に貢献する眼科専門医の育成を目的とします。本プログラムは新潟大学医歯学総合病院眼科を基幹施設とし、連携 8 施設と共に研修施設群を形成して専攻医を指導します。連携施設には、地域中核病院である A グループと、地域医療を担う B グループがあり、それぞれの特徴を活かした眼科研修を行います。そこで研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験していただきます。		
アピールポイント	○診断から治療、手術までを一貫して行えます。 ○内科的治療から外科的治療まで広く選択できます。 ○赤ちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで診られます。		
特色	当プログラムは新潟県における唯一の眼科専門研修プログラムです。そのため県内の症例はすべて当プログラムの対象となり、このことは多様な症例を経験するために非常に有益です。またプログラム全体での手術件数は例年 9,000 件程度に及び、症例数も十分に確保されていますので、基幹施設および連携施設において到達目標を大きく上回る外来症例、手術件数を経験することができます。研修修了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちしていることが可能となるカリキュラムです。 ● 1 年目 基幹施設の緑内障班、網膜・硝子体班、角膜・感染症班、斜視・弱視班、白内障班、神経眼科班、腫瘍・形成班全ての眼科診療グループにローテーションで配属されます。基幹施設は緑内障チューブシャント手術や角膜移植術といった専門的な疾患を多く担当し、また急性緑内障発作や視神経炎、網膜剥離などの眼科救急疾患に対応できる技術も習得でき、あわせて豚眼を用いた手術実習も行います。 ● 2 年目以降 基幹施設、もしくは連携施設（A グループ、B グループ）のいずれかで研修を行います。A グループは都市の中核病院で症例数や疾患が豊富であり、特に硝子体手術や外眼部手術などの手技の習得が、B グループでは特に地域に密着した白内障手術を含めた一般的な眼科医療の研修が可能です。基幹施設を選択すれば、眼科内のより専門領域に特化した研修が可能です。大学院進学も積極的に支援しています。 ● 5 年目（卒後 7 年目） 専門医認定試験 ★地域枠学生の対応 県費修学生などの地域枠からの医師の受け入れ経験があり、ほぼ同様のプログラムを施行可能です。		

指導医からのメッセージ	眼科は局所的な診療科ではありますが、外界からのほとんどの情報の入り口である眼を守るという非常に重要な医療を担います。診療班は細分化されており、眼科内においてもいろいろな疾患を経験することができます。ぜひ眼科のスペシャリストを目指して下さい。
連携施設の病院名とグループ	【A】新潟市民病院、済生会新潟第二病院、長岡赤十字病院 【B】新潟県立がんセンター新潟病院、長岡中央病院、魚沼基幹病院、佐渡総合病院、新潟南病院

研修コース

①基本コース

■ 例１

１年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
２年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
３年目	Aグループにて研修
４年目	Bグループにて研修
５年目	Bグループの病院にて勤務　専門医認定試験受験　◎認定

■ 例２

１年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
２年目	Aグループにて研修
３年目	Bグループにて研修
４年目	Aグループにて研修
５年目	新潟大学医歯学総合病院にて勤務　専門医認定試験受験　◎認定

■ 例３

１年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
２年目	Aグループにて研修、並行して　新潟大学大学院に進学（社会人大学院）
３年目	Bグループにて研修
４年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
５年目	新潟大学医歯学総合病院にて勤務　専門医認定試験受験　◎認定

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前（9時～12時）	病棟診察、外来	病棟診察、外来	病棟診察、手術	病棟診察、外来	病棟診察、手術
午後（13時～17時）	病棟業務、手術	手術、専門外来	手術	病棟業務、専門外来	手術
夜（18時～）	網膜班回診		全体回診、症例検討会、リサーチミーティング		

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　松岡尚気
	電話連絡先	025-227-2296
	ファックス	025-227-0785
	メールアドレス	matsuoka@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/oph/ophthal.html

専門研修プログラム

プログラム名	耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	10 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授　堀井　新		
研修概要	耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、視覚以外の感覚、すなわち聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚という QOL に直結した感覚器、そして呼吸、嚥下といった生命にとって重要な器官を対象としています。小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的側面とともに内科的側面も併せ持っています。そのため多くの社会的ニーズがあり、新潟県においても耳鼻咽喉科医師数は適正数には足りていません。本プログラムでは社会が要望するしっかりとした臨床医、耳鼻咽喉科医を育成すること、さらにグローバルな医療の進歩に寄与するために、学会発表や論文作成に関する指導、個人のスキルアップ、キャリアアップを支援し、科学者としての能力を習得することも目標としています。手術支援機器の発展に伴い誰もが安全に高度な手術が行えるようになっており、特に手先の器用さなどは要求されていません。また、当科は体力的に負荷が多い診療ばかりではなく、女性にとって働きやすい診療科です。出産、育児を行いながら医師としてのキャリアを続行できるよう女性医師支援にも力を入れており、実際に多くの女性医師が活躍しています。		
アピールポイント	○　フレンドリーなスタッフによる親切丁寧な指導で、早期から執刀経験が積めます。 ○　共働き女性医師への手厚い支援が浸透しています。 ○　臨床研究や論文作成指導も充実しています。		
特色	新潟大学医歯学総合病院は耳科手術の件数、成績とも全国でもトップクラスです。頭頸部癌に関しては、癌研究会有明病院へ国内留学、研鑽を積んだ頭頸部がん専門医による高度な指導による研修が可能です。その他、全体、各グループの症例検討カンファレンス、夏季解剖セミナーを通して、解剖、手術手技の習得ができます。地域中核病院群は、いずれも複数の医師が在籍する大規模病院であり、多くの症例、手術数があり、救急疾患も豊富です。本プログラムでは、他にはない充実した研修ができると確信しています。		
指導医からのメッセージ	 私は、平成 14 年に福島医大を卒業後、実家に戻り、横浜市立大学に入局しました。その後縁あって新潟大学に転局後、わけ隔てない医局で充実した生活を送っています。耳鼻咽喉科専門医の他、昨年には専門研修指導医も取得し、外来、病棟、手術、臨床研究を楽しんでいます。私生活では双子の母であり大変ですが、医局の協力のおかげで両立が可能です。耳鼻咽喉科は個人の状況や希望を聞いてくれる、とても働きやすいところです。こんな環境で一緒に働いてみませんか！ 新潟大学医歯学総合病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　高橋奈央		

連携施設の病院名	新潟市民病院　新潟県立がんセンター新潟病院　長岡赤十字病院 立川綜合病院　新潟県立中央病院　新潟県立新発田病院 魚沼基幹病院　済生会新潟第二病院

研修コース

■大学院進学コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院（社会人大学院）

■臨床・大学コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院

■臨床・地域コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	地域中核病院

①基本コース

■耳鼻咽喉科・頭頸部外科の研修コースは主に 3 つに分かれています。
このうち大学院進学コースは 4 年目に大学院 1 年目を履修するコースで、学位取得を目指すには最短、最適なコースです。
臨床・大学コースは 4 年目に大学へ戻るコースで、2 年間地域中核病院で一般臨床を学んだ後に再度大学で高度な診療を学べるコースです。
臨床・地域コースは 3 年間地域中核病院（前ページ連携施設参照）で研修するコースで、一般臨床の診療技術を早く身に付けるのに最適なコースです。
またこれ以外にも地域枠出身者にも臨機応変に対応しています。途中で別のコースへ変更することも可能です。

②週間スケジュールの例

■大学における週間スケジュール例

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来 病棟業務	手術	外来 病棟業務	外来 病棟業務
午後	手術		手術	病棟回診 医局会 抄読会	

問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	准教授　高橋邦行
	電話連絡先	025-227-2306
	ファックス	025-227-0786
	メールアドレス	kuniyuki@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/oto/

専門研修プログラム

プログラム名	泌尿器科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	6 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　泌尿器科教授　冨田　善彦		
研修概要	新潟大学泌尿器科専門研修プログラムは基幹施設である新潟大学医歯学総合病院を中心とした診療拠点病院（A 群 11 病院）と、島嶼を含む地域完結型医療を担う地方中核病院（B 群 9 病院）、外来診療を中心とする地域実地医療を実践する協力病院（C 群 11 病院）の 3 群から構成されます。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることが可能です。学術的涵養を目指す大学院進学コース、より高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、新潟大学医学部地域医療枠の義務年限を前提とした地域医療枠コースの 3 つを用意しました。いずれのコースでも、研修期間中に国内・海外学会に積極的に参加し、泌尿器科疾患の最新の知見‘cutting edge’に触れてもらいます。		
アピールポイント	○　DaVinci・腹腔鏡手術をはじめとする豊富な症例経験 ○　腫瘍・移植・小児・排尿障害・結石治療まですべてをカバー ○　大学院・留学など研究も含めた多彩なキャリアパス		
特色	基幹施設である新潟大学では、泌尿器悪性腫瘍に対する拡大手術、腹腔鏡による低侵襲手術、Da Vinci ロボット支援前立腺全摘術、分子標的治療、慢性腎不全に対する腎移植、小児泌尿器科疾患に対する尿路形成術などに加え、免疫チェックポイント治療薬等最新の薬剤の開発治験に触れることができ、泌尿器科領域の最先端医療の研修が可能です。 連携施設においても尿路結石症に対する内視鏡手術、前立腺肥大症に対するレーザー前立腺核出術などで国内有数の実績を上げている施設がある一方、多くの施設で地域医療に密着し、幅広く一般泌尿器科疾患を扱うため、泌尿器科専門医として必要な知識・技術をまんべんなく習得することが可能です。 Da Vinci ロボット支援前立腺全摘術 脳死献腎移植手術		
指導医からのメッセージ	4 年間で腫瘍・移植・小児泌尿器科の最先端医療から結石、排尿障害、女性泌尿器科に至るまで泌尿器科学全般をまんべんなく学べます。プログラム全体で年間 6000 件超の手術件数は全国でも有数です。国内学会・国際学会、研究会への出席の機会も豊富に用意し、大学院進学、臨床修練、地域医療枠など多彩なプログラムで専門医取得後のさらに未来のキャリアパスを見据えた充実した専門研修が可能です。		

連携施設の病院名	県立新発田病院　村上総合病院　県立がんセンター新潟病院　新潟市民病院　新潟医療センター　済生会新潟第二病院 県立吉田病院　新潟南病院　木戸病院　済生会三条病院　長岡中央綜合病院　長岡赤十字病院　立川綜合病院　柏崎医療センター 魚沼基幹病院　新潟労災病院　県立中央病院　佐渡総合病院

研修コース

①基本コース

■大学院進学コース

	専門研修プログラム						
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	新潟大学病院	連携病院	連携病院	大学病院 大学院1	大学病院 大学院2	大学病院 大学院3	大学病院 大学院4

専門医取得　学位取得

■臨床修練コース

	専門研修プログラム			
	1年目	2年目	3年目	4年目
卒後臨床研修	新潟大学病院	連携病院	連携病院	大学病院

専門医取得

■地域医療枠コース

			専門研修プログラム			
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	地域医療義務	地域医療義務	大学病院	大学病院	連携病院	連携病院

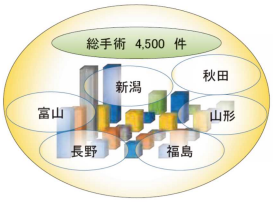
専門医取得

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	手術ビデオ カンファレンス 手術	ジャーナルクラブ 抄読会 教授回診 外来診療	手術	抄読会 病棟回診 外来診療	腎移植 カンファレンス 教授回診 手術
午後	手術	病棟診療 手術 病棟回診 術前検討	手術 キャンサーボード	病棟診療 術前術後 症例検討会	手術

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	准教授　齋藤和英
	電話連絡先	025-227-2289
	ファックス	025-227-0784
	メールアドレス	kazsaito@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/uro/index.html

専門研修プログラム

プログラム名	脳神経外科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	6 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 新潟大学脳研究所脳神経外科教授　藤井　幸彦		
研修概要	研修プログラムは、その基幹施設である新潟大学医歯学総合病院を中心に、連携施設・関連施設として県内外の 28 の拠点病院から構成され、プログラム全体での年間手術総数は 4,500 件を超えます。近隣の県の主要病院も関連病院に含まれ、専門医を取得するまでに脳神経外科疾患に対する幅広い、十分な知識、経験、診療技術を習得することが可能です。  1 年目（医師 3 年目）は新潟大学医歯学総合病院の病棟担当医として、複数の疾患を年間通じて受け持ちながら、神経診断学、神経解剖学、画像診断学、神経病理診断学の基礎を身につけます。特殊な専門領域疾患を経験することで、様々な治療方針の考え方や術前術後の管理法を学びます。 2 ～4 年目（医師 4 年目～6 年目）には関連基幹病院に勤務し、頭部外傷や脳血管障害などの急性疾患を経験し、専門施設での症例経験を含め、第一線の脳神経外科に必須の手術手技を習得します。大学院進学希望者は、3 ～4 年目より入学可能です。		
アピールポイント	○　県内外の基幹病院で多くの症例を経験しながら専門医への研修が可能です。 ○　多くの専門医・技術認定医を取得可能な体制が整っています。 ○　臨床技能の取得と基礎研究の両立が可能です。		
特色	新潟大学脳研究所脳神経外科学分野は、「我が国の脳神経外科の父」と称される中田瑞穂先生が、日本で最初の脳神経外科独立講座として 1953 年に開設され、これまで脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、機能外科といった分野の診療・研究において日本をリードしてきました。全国の脳神経外科教室の中でも、脳研究所という神経研究を専門とした基礎医学教室と自由に連携が取れる環境で臨床・研究に当たることができることは大きな特色です。		
指導医からのメッセージ	指導医から修練医までハードワークをスローガンに 2016 年春から脳神経外科の専門性の高い手術に医局スタッフが幅広く対応できるように医局内のシステムを改変し、非常に活気のある医局です。一緒に楽しくハードワークしましょう。		
連携施設の病院名	竹田綜合病院　富山県立中央病院　長岡赤十字病院　長野赤十字病院 新潟労災病院　山形県立中央病院　新潟市民病院 新潟県立中央病院　新潟脳外科病院　桑名病院　三之町病院　長岡中央綜合病院　佐渡総合病院　信楽園病院　燕労災病院 立川綜合病院　新潟県立新発田病院　村上総合病院　秋田赤十字病院 西新潟中央病院　魚沼基幹病院 関連施設：　国立循環器病研究センター　県立がんセンター新潟病院 柏崎総合医療センター　北日本脳神経外科病院 諏訪湖畔病院　千曲中央病院　新潟医療センター		

研修コース

①基本コース

■専門医取得優先コース

1年目	2年目	3年目	4年目
新潟大学	関連基幹病院	関連基幹病院	関連基幹病院

＊初期研修2年終了後、脳神経外科学会入会4年終了後専門医試験受験可能
＊脳神経外科専門医取得後に、大学院進学可能

■大学院優先コース

1年目	2年目	3年目	4年目
新潟大学	関連基幹病院	新潟大学	新潟大学
		大学院入学 →	
新潟大学	関連基幹病院	関連基幹病院	新潟大学
		大学院入学 →	

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
Morning	週間Meeting 病棟報告 学生紹介（隔週）	術後報告１	IVR検討	術後報告２	
AM	外来/病棟	手術	外来/病棟 （血管内）	手術	手術
PM	（外来）	手術	（外来） 血管内	手術	（手術）
Evening	教授回診 症例検討 術前検討	手術	症例検討 術前検討	手術	病棟総括
After			医局会		

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　平石哲也
	電話連絡先	025-227-0652
	ファックス	025-227-0892
	メールアドレス	tetsuya_hiraishi@me.com
	プログラムのＨＰアドレス	http://neurosurg-bri-niigata.jp

専門研修プログラム

プログラム名	放射線科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	10 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 放射線治療科・放射線診断科教授　青山　英史		
研修概要	実臨床における放射線科の役割は、超音波検査、X 線撮影や CT、核磁気共鳴検査（MRI）および核医学検査などを利用する画像診断、画像診断を応用した低侵襲性治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）、および放射線を使用して種々の疾患の放射線治療を行うことにあります。 放射線科領域専門制度では、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。 「放射線科専門医」取得後は「放射線診断専門医」または「放射線治療専門医」を目指すことになります（放射線診断専門医、放射線治療専門医は現在学会認定ですが、今後機構認定への移行が予定されています）。本プログラムでは、目標症例数の到達を前提に、希望に応じて早期から方向性を決めて、専門重点コースに移行することも可能です。また、社会人大学院生となり、研修をしながら医学博士を目指すこともできます（臨床業務を行わない場合は研修期間の延長が必要になる見込みです）。		
アピールポイント	○　研修期間中に偏りのない豊富な症例を経験できます。 ○　早期から診療・研究・教育業務を習得することができます。 ○　十分な研鑽の上放射線治療・診断を選択することができます。		
特色	本プログラムに参加している施設はすべて新潟県内の中核病院であり、研修に必要な機器が整備されています。各施設で指導にあたる放射線科医は全員が新潟大学放射線科での勤務経験があり、施設間の情報交換が円滑に行われています。長年、医学生の実習、放射線科専門医の育成、さらには研究会の開催なども共同で行っており、本プログラムでもそれらの経験を踏まえ十分な体制を整備しました。後輩教育はもちろんのこと生涯に渡る自己教育の気風にあふれた新潟県下の放射線科医一同で皆さんをお迎えいたします。 		
指導医からのメッセージ	放射線科は放射線治療と放射線診断からなり、その魅力は守備範囲の広さと奥深さ、そして先端技術を駆使した多彩なモダリティーにあります。全身に及ぶ解剖や疾患の知識を習得して日進月歩の診療機器・技術についていくのは簡単ではありませんが、チーム医療の要となる画像診断やがん治療のスペシャリストとして、放射線科医に対する期待と需要は、年々高まるばかりです。少しでも興味があれば是非一度見学に来てください。		

連携施設の病院名	県立がんセンター新潟病院　新潟市民病院　長岡赤十字病院　長岡中央綜合病院　県立新発田病院　県立中央病院

研修コース

①基本コース

■放射線科専門医→放射線治療専門医コース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
卒後臨床研修		大学病院医員1年 連携施設1年		大学病院医員または連携施設勤務（放射線治療）			
					放射線科 専門医受験		放射線治療 専門医受験

■放射線科専門医→放射線治療専門医＋医学博士取得コース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
卒後臨床研修		大学病院医員1年 連携施設1年		大学院入学	臨床業務兼任（放射線治療）		医学博士取得
					放射線科 専門医受験		放射線治療 専門医受験

■放射線科専門医→放射線診断専門医コース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
卒後臨床研修		大学病院医員1年 連携施設1年		大学病院医員または連携施設勤務（放射線診断）			
					放射線科 専門医受験		放射線診断 専門医受験

■放射線科専門医→放射線診断専門医＋医学博士取得コース

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
卒後臨床研修		大学病院医員1年 連携施設1年		大学院入学	臨床業務兼任（放射線診断）		医学博士取得
					放射線科 専門医受験		放射線診断 専門医受験

②週間スケジュールの例

■週間スケジュール予定（1年目）

		月	火	水	木	金
第1週 診断 IVR	午前	外来	核医学	MRI	CT	US
	午後	CT 呼吸器疾患 カンファレンス	MRI	CT 診断カンファレンス キャンサーボード	連携施設で超音波検査	CT
第2週 診断 IVR	午前	外来	連携施設で消化管造影	MRI	US	IVR
	午後	CT 呼吸器疾患カンファレンス	MRI	CT 診断カンファレンス IVR術前カンファレンス キャンサーボード	IVR	MRI
第3週 治療	午前	症例検討会 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来	リサーチミーティング 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来
	午後	放射線治療計画	放射線治療計画	病棟回診 キャンサーボード	密封小線源治療	放射線治療計画
第4週 診断 IVR	午前	消化管造影	PET検査	MRI	核医学	MRI
	午後	CT 呼吸器疾患カンファレンス	PET検査	CT 診断カンファレンス IVR術前カンファレンス キャンサーボード	IVR	まとめ（指導医）

※放射線治療とIVRは実際にはそれぞれ時期をまとめて研修します。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　海津元樹
	電話連絡先	025-227-2315
	ファックス	025-227-0788
	メールアドレス	nradio@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/rad/

専門研修プログラム

プログラム名	麻酔科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	14 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　麻酔科教授　馬場　　洋		

研修概要

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。新潟大学医歯学総合病院麻酔科専門研修プログラムは、新潟市民病院、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟県立新発田病院、済生会新潟第二病院、長岡赤十字病院、長岡中央綜合病院、新潟県立中央病院、魚沼基幹病院から構成される。本プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専門医教育を提供するとともに、3 万例を超える豊富な麻酔科管理症例のもと、高いレベルの臨床技術と専門知識を提供することができる。

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	1,101
帝王切開術の麻酔	1,180
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	643
胸部外科手術の麻酔	1,428
脳神経外科手術の麻酔	830

本研修プログラム全体における 2017 年度合計麻酔科管理症例数：28,879 症例
本研修プログラム全体における総指導医数：41 人

特色

全国的に見ても症例数が非常に豊富なプログラムであるため、専攻医全員が偏りのない麻酔管理を経験することができる。特に超音波ガイド下神経ブロックおよび中心静脈穿刺、経食道心エコー（成人、小児）、誘発電位測定に関しては、優れた指導医が在籍している。加えて、疼痛学、神経科学に精通した指導医も多く在籍しているため、臨床麻酔を背景にもった基礎研究に早期から触れ、それらの基本的な知識について学習・指導を受ける機会がある。

指導医からのメッセージ

麻酔科というと、とても狭い分野だと思っていませんか？しかし麻酔科の仕事には、呼吸・循環生理学、神経科学、疼痛学、薬理学などの幅広い知識と、外科系全科で行われる手術への理解が必要です。つまり「縦糸に横糸を通す」ように、特定の臓器にとらわれることなく、全身管理の基礎を学ぶことができます。新潟大学麻酔科は、皆さんを「一人前の麻酔科医」に育てるべく、厳しくも暖かい指導・教育を施すことをお約束いたします。

連携施設の病院名

県立新発田病院　県立がんセンター新潟病院　済生会新潟第二病院　新潟市民病院　長岡赤十字病院　長岡中央綜合病院
県立中央病院　魚沼基幹病院

研修コース

①基本コース

	A（標準）	B（ペイン）	C（集中治療）
初年度前期	新潟大学	新潟大学	新潟大学
初年度後期	新潟大学（ペイン含む）	新潟大学（ペイン含む）	新潟大学（ペイン含む）
2年度前期	新潟県立中央病院	新潟市民病院（ペイン重点）	新潟大学（集中治療）
2年度後期	新潟県立中央病院	新潟市民病院（ペイン重点）	新潟市民病院
3年度前期	長岡赤十字病院	新発田病院（ペイン重点）	新潟市民病院
3年度後期	長岡赤十字病院	新発田病院（ペイン重点）	新発田病院（集中治療含む）
4年度前期	新潟大学	新潟大学（ペイン、緩和）	新発田病院（集中治療含む）
4年度後期	新潟大学	新潟大学（ペイン、緩和）	新潟大学（集中治療）

②週間スケジュールの例

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td>午前</td><td rowspan="2">泌尿器科
手術の麻酔</td><td rowspan="2">脳外科
手術の麻酔</td><td rowspan="2">整形外科
手術の麻酔</td><td>小児外科
手術の麻酔</td><td rowspan="2">呼吸器外科
手術の麻酔</td><td rowspan="3">休み
（術前術後回診、当直など）</td></tr>
<tr><td>午後</td><td>婦人科
手術の麻酔</td></tr>
<tr><td>当直</td><td></td><td>残り番</td><td></td><td>当直</td><td></td></tr>
</table>

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　紙谷義孝
	電話連絡先	025-227-2328
	ファックス	025-227-0790
	メールアドレス	masui@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/ane/

専門研修プログラム

プログラム名	病理専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	4 名
選考方法	書類		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　病理部長　味岡　洋一		
研修概要	新潟大学を基幹施設とする病理専門研修プログラムは、豊富な指導教員・指導医による充実した指導と多臓器の多彩な症例を経験することにより、安定して確実な診断を行える技能を習得できます。一人の専攻医を常に複数の指導医が指導・評価を行うことにより、専攻医の技能習得状況を正確に把握しながら、適切な症例数を偏りのない内容で提供することが可能で、各専攻医を信頼に足る病理専門医に確実に育てます。		
アピールポイント	○ 過去約 40 年間に診断した症例を保管・管理しており、学習や研究に適した環境が整っています。 ○ 一般病理診断医が知っておくべき疾患の標本と肉眼写真のライブラリーがあり、診断力の向上の助けになります。		
特色	本専門研修プログラムでは、研修専門施設群で年間 130 例以上の剖検数、80,000 件以上の組織診断、2,500 件以上の迅速診、100,000 以上の細胞診があるため、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。解剖症例に関しては、経験症例数の少ない専攻医に優先的に割り当てており、基幹施設以外にも解剖を経験できる連携病院が多数あり、十分な症例数を用意できます。疾患の内容としても、複数の大学病院や隣県の中核病院と連携し、かつ県内各地域の中核病院など多くの病院と連携することで豊富な症例を経験できる環境が整っています。専攻医の年次や習得状況に応じてこれらの病院の中から適切な環境の病院に派遣することにより、基幹施設である新潟大学では十分に経験できない領域の症例の経験を積むことが可能です。更に、新潟大学の特色の一つとして附属脳研究所がありますが、脳研究所神経病理学分野とは密な連携を組んでおり、豊富な脳神経系疾患症例を経験することができます。 研究検討会		
指導医からのメッセージ	病理は、臓器・組織・細胞レベルで患者さんと向き合い、診断・治療に貢献します。他の臨床科と違って全臓器を対象にしており、とてもやり甲斐があります。正常および病的な状態を顕微鏡的に評価しますが、学生時代に顕微鏡が苦手だった方も全然問題ありません。少しでも興味のある方は、末尾の「問合せ先」へ気軽に連絡ください。お待ちしています。		
連携施設の病院名	群馬大学医学部附属病院　東京慈恵会医科大学附属病院　新潟市民病院　県立がんセンター新潟病院　長岡赤十字病院 立川綜合病院　済生会新潟第二病院　聖隷浜松病院　県立中央病院　鶴岡市立荘内病院　長岡中央綜合病院　新発田病院		

	魚沼基幹病院　新潟医療センター　新潟労災病院　信楽園病院 燕労災病院　下越病院　あがの市民病院　済生会三条病院 県立吉田病院　南部郷総合病院　日本歯科大学医科病院　西新潟中央病院　小千谷総合病院

研修コース

①基本コース

コース		1年目	2年目	3年目
基幹施設主体		新潟大学*		
基幹・連携施設ローテート	a	新潟大学*		連携施設**
	b	新潟大学*	連携施設**	新潟大学*
	c	新潟大学*	連携施設**	
	d	新潟大学	連携施設	新潟大学
連携施設主体		連携施設**		

- 新潟大学*：週1回の連携施設での研修も可
- 連携施設**：週1回は新潟大学で研修
- ローテートd：新潟大学、連携施設それぞれフルタイム

いずれのコースでも大学院生（社会人大学院生）との重複可

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	外科切除例肉眼所見会		外科切除例肉眼所見会		外科切除例肉眼所見会
	病理検体切り出し（ローテーション）				
			抄読会・研究検討会 生検例カンファレンス、等		
午後	部検例検討会		細胞診カンファレンス	婦人科病理カンファレンス	病理診断講習会
	病理一次診断（ローテーション）＋指導医による診断検閲				

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　高村佳緒里
	電話連絡先	025-227-2096
	ファックス	025-227-0760
	メールアドレス	takamura@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/pa1 /index.html

専門研修プログラム

プログラム名	臨床検査専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　循環器内科教授　南野　徹		
研修概要	1．理念と使命 理念： 臨床検査は Evidence Based Medicine における客観的な指標として、診療に欠かせないものである。臨床検査全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。臨床検査専門医数は全国的に明らかに不足しており、その普及は急務である。当プログラムでは、大学附属病院における（ⅰ）高度かつ先進的な医療（ⅱ）学生および後進の教育（ⅲ）研究を通して、幅広く深い知識や技能と偏りがない人間性・高い倫理観をもって、臨床検査の専門家としてチーム医療に参画することができる人材の育成を理念とする。 使命： 理念に基づき、臨床検査に関する卓越した知識や技能をもって、的確な臨床検査が遂行されるように検査室の管理・運営をすること、臨床検査値を適切に判読・解釈することでチーム医療に参画し、病院機能の向上を図る。常に研鑽し自らの臨床検査医としての能力を高め続けることで、臨床検査全体の水準をも高めて、国民の健康・福祉に貢献する。 2．研修の到達目標と方法 専門研修の 3 年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と、日本臨床検査医学会が定める「臨床検査専門研修カリキュラム」（日本臨床検査医学会 HP 参照）に基づいて臨床検査専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、各分野研修修了の終わりに到達度を評価します。 3．専門研修後の医師像（大学院進学・subspecialty 領域への継続等） ① 大学病院もしくはそれに相当する病院の検査医：病院検査部の管理と検査判読、コンサルテーション対応に加え、研究や専攻医・医学部学生の教育を実践します。 ②①以外の一般病院の検査医：病院検査部の管理と検査判読、コンサルテーション対応を実践します。 ③大手検査センター：全般的な指導や特定の検査判定業務を行ったり、健診業務を実践します。 ④ 地域医療における内科および臨床検査領域の診療医（かかりつけ医）：稀ですが、OB・OG の中には、内科クリニックを開業し臨床検査医学の知識・経験を生かして、より的確な検査の選択や少ない検査情報からより多くの情報を読み取る検査医の特性を生かした診療を実践している方々がいます。 ⑤ 臨床検査専門医（基本領域）の subspecialty 領域としては、まだ決定はしていませんが、候補としては超音波専門医、臨床遺伝専門医、人間ドック専門医など推定されています。 4．臨床検査専門研修プログラムについて 本研修プログラムの基幹施設は順天堂大学医学部附属順天堂医院となっております。研修内容によって、基幹施設または連携施設での研修となります。相談の上、新潟での研修を主としたコースを考慮します。		
アピールポイント	連携施設となっておりますが、新潟大学での研修を主としたコースも考慮します。		

特色	臨床検査専門医になるには、以下 7 分野（①臨床検査医学総論、②一般臨床検査学・臨床化学、③臨床血液学、④臨床微生物学、⑤臨床免疫学・輸血学、⑥遺伝子関連検査学、⑦臨床生理学）をすべて習得する必要があります。これらを偏りなく習得するために、以下の連携施設と専門研修施設群を形成しています。それぞれ違った特徴をもつ検査部を有する施設で臨床経験を積むことにより、様々な環境に対応できる臨床検査専門医が育成される体制を整えています。 もう一つの大きな特徴としては、臨床検査は入院患者を担当することがない分野である特性上、育児・介護・通院など種々の理由により常勤として勤務が困難な場合でも、週 2 - 3 日勤務で、研修期間を 3 年から 5 年に延長するなどの対応により研修を行うことが可能です。更に、通常この新専門医制度では 2017 年度の募集対象者は 2015 年 4 月に初期研修を開始した研修医ですが、臨床検査領域では、初期研修終了後すぐでなく卒後かなり年数を経た方も対象とすることが認められています。 また、大学院進学も積極的に推奨しており、研修 2 年目以降からは、研究との臨床検査専門医資格取得が両立できるよう、プログラムを適切に調整できるように個別に対応致します。
連携施設の病院名	基幹施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院 連携施設：A：順天堂大学医学部附属浦安病院 B：順天堂大学医学部附属練馬病院 C：順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター病院 D：新潟大学医歯学総合病院

研修コース

①基本コース

臨床検査専門研修基本スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設（または新潟大学）（臨床血液学）				基幹施設（臨床検査医学総論）			基幹施設（または新潟大学）（臨床微生物学）		基幹施設（または新潟大学）（救急迅速検査　他）		
2年目	基幹施設 または新潟大学）（臨床化学）			基幹施設（または新潟大学）（微生物学）			基幹施設（または新潟大学）（一般臨床検査学）			基幹施設（または新潟大学）（臨床生理学）		
3年目	基幹施設（または新潟大学）（臨床免疫学・輸血学）							基幹施設（または新潟大学）（遺伝子関連検査学）		予備（症例不足分野　等）		
必修プログラム要件	医療安全セミナー、感染対策セミナーの年2回の受講。											
3年間共通研修	指導医の指導のもとで、 ①臨床検査の報告書を作成する。 ②施設内各種医療職や外部ネットワークからのコンサルテーションに対応する。											
地域医療の経験	種々団体が開催する臨床検査啓発事業に5回/3年以上参加・協力する。											
学術活動	臨床検査医学に関する論文報告（原著、症例報告など）を、筆頭者1編を含む3編/3年以上。											
ローテーションについて	各7分野の研修期間は本人の進捗状況により担当指導医と相談し多少前後する可能性があります。 基幹施設（順天堂医院）では1年以上の研修が必須です。 基本的に連携施設はすべて、ある時点の施設あたりの受け入れ専攻医数は1名です。そのため、専攻医が複数の場合は、連携施設での研修時期が重ならないようローテートを組みます。 大学院やそれ例外で研究を並行して行うのは可能で、原則として2年目以降から研究を開始します。2年目以降のスケジュールは研究に応じて調整します。											
その他	原則3年間で修了するスケジュールですが、様々なライフイベント（妊娠・出産・子育て、介護、病気、他科専門医としての診療　など）により常勤での研修が不可能な場合でも、週1-3日の5年間の研修など、個々に対応した研修スケジュールを組むことができる。											

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	検査部長　南野　徹
	電話連絡先	025-227-2185
	ファックス	025-227-0774
	メールアドレス	tminamino@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス（※ある場合は記載）	http://www.nuh.niigata-u.ac.jp /department/center01.php

専門研修プログラム

プログラム名	救急科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	4 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院 高度救命災害治療センター・集中治療部教授　遠藤　裕		
研修概要	「救急科専門医」は、急病、外傷、中毒など疾病の種類に拘らず、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断と治療を行う基本領域の専門医であり、重症度に加えて緊急度も優先することが特徴です。本研修プログラムは、県内すべての救命救急センターと連携して、3 年間の専門研修により、良質で安心な標準的医療を提供できる救急科専門医を多く養成することを目的としています。救急科専門医取得後は、「集中治療専門医」等のサブスペシャルティ領域専門医の研修が可能です。		
アピールポイント	○　高度救命救急センター(全国 39 施設のみ)で研修が可能です。 ○　県内すべての救命救急センターで研修が可能です。 ○　ドクターカーやドクターヘリの研修が可能です。		
特色	(1) 日本海側で唯一の高度救命救急センターにおいて、重症救急患者に対する高度な集中治療の研修が可能です。 (2) ドクターヘリ基地病院(全国 52 施設)であり、ドクターヘリの研修が可能です（昨年度 580 出動件数)。 (3) 基幹研修施設である新潟市民病院救命救急センターをはじめ、県内すべての救急救命センターと連携することで、各救命救急センターの特徴を生かした研修が可能です。謂わば、いいとこどりの「オール新潟による救急科専門医養成プログラム」です。 (4) 新潟医療人育成センターの高度シミュレーターの活用等により、臨床技能のスキルアップが可能です。 (5) 新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とすることにより、病院の臨床研究サポート部門、医学部基礎系講座の連携により、リサーチマインドを持つ専門医養成が可能です。 (6) 臨床実績のある大学院（社会人入学）であれば、大学院在学中でも専門医研修が可能です。		
指導医(新田正和)からのメッセージ	救急医学は“医の原点”であり、今後の超高齢化社会においても必須の領域です。救急医学の守備範囲は、災害医療、被ばく医療などの非日常的な医療に加え、ドクターカーやドクターヘリを用いた病院前医療、救急外来（ER）での初期医療、そして集中治療室での重症患者管理と多岐に渡ります。また、年間に国民 20 人に 1 人が要請する救急 		

	車での医療の質を担保するメディカルコントロール(MC)も重要な任務となっています。新潟県内には 6 救命救急センターがありますが、いずれも救急科専門医が不足しています。本プログラムでは、各専攻医の目指すキャリアパスに対応出来るように、県内の全救命救急センターを連携施設とし、オーダーメイドな研修を可能としました。
連携施設の病院名	新潟市民病院 救命救急・循環器病・脳卒中センター　新潟県立新発田病院 救命救急センター　長岡赤十字病院 救命救急センター　魚沼基幹病院 救命救急センター　新潟県立中央病院 救命救急センター　厚生連上越総合病院

研修コース

①基本コース

■基本コース

（1）救急科領域専門研修カリキュラムに沿って、15領域において、専門知識・技能、経験すべき症例・病態、経験すべき診察・検査、経験すべき手術・処置を研修します。

（2）具体的には、①～⑥の6基本研修モジュールを基本として、研修期間の3年間で必須116例、選択121例以上の研修を行います（右表を参照）。

（3）専攻医が選択して、基幹施設で1年間以上、連携施設で3ヶ月～1年の研修を行います。

■年次毎の研修計画（例）

年次	基本研修モジュール	研修期間
1年目	①基本的診療能力（コアコンピテンシー）	通年
	②救急外来（ER）における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	④手術・内視鏡検査・IVRにおける知識と技能	3ヶ月～1年
	⑤ドクターカー・ヘリと災害医療における知識と技能	3ヶ月～1年
	救急科領域専門研修カリキュラム（目標：必須25例・選択50例以上の登録）	
2年目	①基本的診療能力（コアコンピテンシー）	通年
	②救急外来（ER）における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	④手術・内視鏡検査・IVRにおける知識と技能	3ヶ月～1年
	⑥他科研修（選択）	3ヶ月
	地域医療・地域連携研修（必須）	最低3ヶ月（3年間）
	救急科領域専門研修カリキュラム（目標：必須計50例・選択計100例以上の登録）	
3年目	①基本的診療能力（コアコンピテンシー）	通年
	②救急外来（ER）における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	⑤ドクターカー・ヘリと災害医療における知識と技能	3ヶ月～1年
	救急科領域専門研修カリキュラム（必須計116例・選択計121例以上の登録）	

②週間スケジュールの例

■週間スケジュール例（基幹施設）

時間	月	火	水	木	金	土	日
8時	ER症例・救命救急センター・ICU・病棟患者報告（8：30～9：30） 救命救急センター・ICU回診（9：30～10：30） 他職種合同カンファレンス（10：30～11：00）						
9時						ER症例・救命救急センター・ICU・病棟患者報告 （救命救急センター・ICU回診）	
10時	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）		診療 （ER・救命救急センター・ICU）	
11時							
12時							
13時		ハンズオンセミナー		病棟回診	ハンズオンセミナー・レクチャー		
14時		診療 （ER・救命救急センター・ICU）		診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）			
15時							
16時							
17時	救命救急センター・ICU患者報告（当直医への引継ぎ）（担当者のみ）						
18時	抄読会 症例検討会 （隔週交互）				死亡症例検討会 （1回/月）		
19時							

ハンズオンセミナー・レクチャーは週に2回程度、基本モジュールの内容を中心に実施します。

問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	総括医長　新田正和（副救命救急センター長）
	電話連絡先	025-227-2338
	ファックス	025-227-0791
	メールアドレス	masakazunitta@gmail.com
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/ecu/

専門研修プログラム

プログラム名	形成外科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	5 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　形成外科教授　松田　健		
研修概要	形成外科学とは、先天性あるいは後天性に生じた変形・組織欠損や機能障害に対して主に外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者の Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野です。また、再建手術、先天異常、難治性潰瘍等、複数科でのチーム医療に形成外科医が参加する機会も増加しています。本プログラムは医師として必要な基本的診断能力と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科専門医を育成することを目的としています。		
特色	県内より多数・多彩な症例が集まる新潟大学医歯学総合病院では複数科での再建外科、マイクロサージャリー、唇裂・口蓋裂、小耳症などの先天異常、手外科、熱傷、様々な外傷等、多彩で豊富な症例を経験することができます。大学病院のみでは件数が不足しがちな皮膚外科や難治性潰瘍、瘢痕・ケロイド、眼瞼下垂等の症例経験は連携施設にて数多く学ぶことができます。新潟大学グループには募集定員に対して多くの指導医が在籍しており、研修期間のうちに形成外科医としての優れた専門的能力を身につけることが可能な充実した指導体制が整っています。皆さんの応募、参加を心よりお待ちしております。 マイクロサージャリーを用いた再建手術		
指導医からのメッセージ	形成外科の守備範囲は頭頂から足まで、全身に及びます。あらゆる部位で様々な原因によって失われた組織を再建し、あるべき「かたち」をつくることは患者さんの人生を守り、時に人生を劇的に変えます。また、形成外科医は様々な科との連携を通して医師をも助けることができます。Creative な仕事ができる科です。当プログラムでは県内唯一の大学病院、そして中核病院にて多彩な症例をバランスよく経験できます。指導医一同、皆様の参加を心よりお待ちしております。		
連携施設の病院名	新潟市民病院　新潟中央病院　県立中央病院　長岡赤十字病院 新潟医療センター　県立がんセンター新潟病院 長岡中央綜合病院		

研修コース

①基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	新潟大学形成外科											
2年目	新潟県立中央病院形成外科											
3年目	長岡赤十字病院形成外科											
4年目	長岡赤十字病院地域医療研修			新潟大学形成外科								

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後
一般外来		○		○	
特殊外来（再建外科）		○		○	
特殊外来（唇顎口蓋裂・小耳症）		○		○	
特殊外来（乳房再建）		○		○	
特殊外来（顎顔面外科）		○		○	
特殊外来（レーザー）		○		○	
特殊外来（リンパ浮腫）		○		○	
手術	○ ○		○ ○		○ ○
病棟回診	○		○		
医局カンファランス			○		

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総括医長　宮田昌幸
	電話連絡先	025-227-2592
	ファックス	025-227-0795
	メールアドレス	masamiya@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/prs/site/index.html

専門研修プログラム

プログラム名	リハビリテーション科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	4 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	リハビリテーション科　木村慎二		
研修概要	本プログラムは新潟県で唯一のプログラムであり、新潟大学を中心として、新潟県内の研修施設を広く網羅している。1 年目は基幹研修施設である新潟大学医歯学総合病院、2 年目は回復期リハ科病床で主治医となる研修施設で薬物療法、患者・家人へのインフォームドコンセント等を主体的に行い、3 年目は小児疾患、地域医療、神経筋疾患、電気生理学的検査などを各施設で研修する。各施設の勤務は半年から 1 年を基本としているが、症例の偏りが無いように、専攻医の希望も考慮して決めることができる。		
アピールポイント	○多くの関連施設があり、希望にあった研修を受けられる ○新潟大学のみの関連施設・医師のため、連携が取れやすい ○新潟市に集中しており、距離的に通いやすい		
特色	本プログラムは関連施設がすべて新潟大学関連であり、指導医同士が顔見知りのため、症例が減少している切断等の症例があった場合の連絡を取り合うことで、臨機応変に症例を経験出来る特色を持っている。また、悠遊健康村病院、県立リウマチセンターと南魚沼市民病院以外はすべて、新潟市に位置しており、通いでの研修も受けやすいなどの地理的なメリットもある。		
指導医からのメッセージ	関連研修施設には、回復期病床をもつリハビリテーション専門病院・総合病院、脊髄損傷・切断・摂食嚥下・小児など専門性の高い研修を行うことができるリハビリテーション専門病院、肢体不自由児施設等が幅広く揃っています。このため研修プログラムの 3 年間で、大学病院における急性期リハビリテーション、回復期病床における回復期リハビリテーション、専門性のあるリハビリテーション等の研修が 3 本柱になっています。また関連施設では維持期（生活期）のリハビリテーション、訪問診療などを経験することができます。		
連携施設の病院名	＜連携施設 A＞ 下越病院　新潟リハビリテーション病院　悠遊健康村病院　新潟県立リウマチセンター　亀田第一病院　桑名病院 ＜連携施設 B＞ 押木内科神経内科医院　国立病院機構西新潟中央病院　南魚沼市民病院		

研修コース

①基本コース

研修期間		研修施設	
1年目	通年～半年	基幹研修施設　新潟大学医歯学総合病院（急性期疾患一般、小児整形）	
2年目	通年	連携施設A 下越病院（回復期） 新潟リハビリテーション病院（回復期） 悠遊健康村病院（回復期）	
3年目	各施設 3か月～1年	連携施設A 下越病院 新潟リハビリテーション病院 悠遊健康村病院 新潟県立リウマチセンター（回復期、リウマチ性疾患） 亀田第一病院（電気生理学的評価等） 桑名病院（回復期、脳卒中）	連携施設B 押木内科神経内科医院（訪問診療・リハ、神経難病） 国立病院機構西新潟中央病院（神経小児科） 南魚沼市民病院（一般急性期）

②週間スケジュールの例

基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）

		月	火	水	木	金
8：30	整形回診（PT, OTと共に）					
8：35	モーニングカンファ					
	嚥下ミーティング（ST, リハ医, 歯科医）					
8：45	新患紹介、ミーティング					
8：50	療法士毎のミーティング					
14：00	ケースカンファレンス					
	呼吸リハビリ外来					
14：30	抄読会					
15：00	神内カンファ					
16：00	ハンドミーティング（3週）					
16：30	呼吸リハミーティング					
16：00	摂食嚥下合同カンファ					

連携施設A（下越病院）

		月	火	水	木	金
8：30	医局朝会					
9：00	病棟回診					
9：00	外来診療					
10：00	入院患者（新患）診察					
	補装具診					
	ボツリヌス治療					
13：00	病棟カンファ					
13：30	VF/VE					
14：00	外来診療					
15：00	リハ栄養カンファ					
15：30	病棟リハカンファ					
16：30	外来リハカンファ					

院内全体で、NST回診、食のサポートチーム会議あり。
関連老人保健施設の回診、嚥下評価、関連通所リハ施設でカンファあり。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	病院教授　木村慎二
	電話連絡先	025-227-0308
	ファックス	025-227-2743
	メールアドレス	skimura@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/reh/rehabilitation/

専門研修プログラム

プログラム名	総合診療専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟大学医歯学総合病院　医科総合診療部准教授　長谷川　隆志		
研修概要	総合診療専門医は、大学病院を含む地域の総合病院・中核病院や診療所・在宅診療において全人的な医療を行い、かつ、住民・行政・多職種と連携し「地域を診る医師」としても活躍が期待されています。この大きな期待に応えるために、あゆる場面で活躍できるように、新潟大学医歯学総合病院を中心として、新潟県内の各医療施設と連携して家庭医療専門医を育成するプログラムです。 総合診療専門研修は、総合診療専門研修Ⅰ＋総合診療専門研修Ⅱ、必修研修（内科研修、救急科研修、小児科研修）、選択研修で構成されています。それぞれの研修は各連携施設において研修手帳をもとに行われ、総合診療医に必要なスキル–①：医療機関内の研修だけでなく、出向く医療・集める医療、包括ケアの場への参加、地域コミュニティーへの参加、行政機関との連携を通して「患者をみる、家族をみる、地域をみる」スキル　②：臓器別によらない入院患者の診療、病院内外からのコンサルトへの対応、初診患者の診療を通して「病院総合診療医（hospitalist）としてのスキル–を磨くことを目標としています。		
アピールポイント	東京当プログラムはコンダクター施設としてのプログラムのため、基本的には大学病院以外の協力型病院で研修研修を行います。		
特色	新潟県という多様な風土・地理関係を実感できるプログラムで、4 つのコース–SNOW–があります。 また、どのコースでも総合診療専門研修で求められている「へき地・離島での医療」の経験が少なくとも 1 年以上可能です。 Ｓ：Sado course 内科研修（専攻 2 年目）を佐渡総合病院で、総合診療専門研修Ⅰ（専攻 3 年目）を両津病院で行うコースです。 Ｎ：Niigata course 自治医科大学卒業、新潟県人枠卒業、新潟県県費就学卒業の専攻医のためのコースです。新潟県から要望された医療機関を考慮して研修を行います。 Ｏ：Original course 専攻医自らが研修施設を設定していくコースです。専攻 1、2 年目に総合診療専門研修Ⅱ、内科研修、小児科研修、救急研修を行い、専攻 3 年目に総合診療専門研修Ⅰを行います。 Ｗ（U+U）：Uonuma course 1 Uonuma course 2 全ての研修を魚沼地域、南魚沼地域で行うコースで、在宅医療から高度救急医療までの全てを地域の繋がりの中で研修することが可能です。		
指導医からのメッセージ	総合診療専門医は「general mind」を持ち、患者さんと家族だけでなくコミュニティーから地域までを幅広く診ることができる専門医です。新潟県のように高齢化、医師不足、広い地域（離島まである）という特色を持った医療圏では、活躍の場は多種多様で一筋縄ではいきません。だからこそ「プライマリ診療のスキル」と「地域をみる目」、「hospitalist として病院		

	総合診療医のスキル」を身につけて一緒に新潟県を笑顔にしてみませんか。 （できれば、初期臨床研修中に外科研修を経験しておきましょう）
連携施設の病院名	＜総合診療専門研修Ⅰ連携施設＞ あがの市民病院　下越病院　柿崎病院　小出病院　済生会三条病院　坂町病院　津川病院　新潟南病院　松代病院　南魚沼市民病院　妙高病院　湯沢町保健医療センター　両津病院 ＜総合診療専門研修Ⅱ、小児科研修連携施設＞ 糸魚川総合病院　県立中央病院　新発田病院　上越総合病院　十日町病院　長岡赤十字病院　長岡中央綜合病院　新潟市民病院 ※上越綜合病院では小児科研修ができないので別施設で行うことになります。 ＜内科研修連携施設＞ 新潟大学医歯学総合病院　魚沼基幹病院　糸魚川総合病院　佐渡総合病院　十日町病院　長岡中央綜合病院　村上総合病院　新発田病院　県立中央病院 ※新発田病院、県立中央病院で内科研修を行えるのは自治医科卒の専攻医に限ります。 ＜救急科研修＞ 新潟大学医歯学総合病院　魚沼基幹病院

研修コース

①基本コース

【ローテーション例　Sado course】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	救急科研修（選択）			総合診療専門研修Ⅱ＋小児科研修（選択）								
2年目	内科研修（佐渡総合）											
3年目	総合診療専門Ⅰ研修（両津）											

【ローテーション例　Uonuma course】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科研修（十日町）											
2年目	総合診療専門研修Ⅱ＋小児科研修（魚沼基幹）									救急科研修（魚沼基幹）		
3年目	総合診療専門Ⅰ研修（松代／小出／南魚沼／湯沢）											

【ローテーション例　Original course】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	救急科研修（選択）			内科研修（選択）								
2年目	内科研修（選択）			総合診療専門研修Ⅱ＋小児科研修（選択）								
3年目	総合診療専門Ⅰ研修（選択）											

その他参考情報	■　専門医取得後の進路 専門医取得後には以下のような進路が考えられ、それぞれの進路に対してのフォローを行います。 ①新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部に在籍し、診療、学生教育、研修医や専攻医研修（指導医資格の取得）を行い、希望により臨床研究を行い学位の取得を目指します。 ②新潟大学医歯学総合病院総合診療部以外の施設（本プログラム連携施設等）において診療などを行います。 ■　指導医 プログラム群において、総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱについては、新設される総合診療専門研修指導医が指導にあたります。内科研修、救急研修、小児科研修、選択研修についても各科の専門医のもとで研修が行えます	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	医科総合診療部　助教　馬場晃弘
	電話連絡先	025-227-0718
	メールアドレス	ababa.6215@wing.ocn.ne.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.med.niigata-u.ac.jp/mgm

県立がんセンター新潟病院

県立がんセンター新潟病院　病院概況

<table>
<tr><td>所在地</td><td colspan="4">新潟市中央区川岸町２丁目１５番地３</td></tr>
<tr><td>電話連絡先</td><td colspan="4">０２５－２６６－５１１１</td></tr>
<tr><td>ＨＰアドレス</td><td colspan="4">http://www.niigata-cc.jp</td></tr>
<tr><td>標榜診療科目</td><td colspan="4">内科、神経内科、小児科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、婦人科、頭頸部外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、精神科、リハビリテーション科、緩和ケア科、歯科口腔外科</td></tr>
<tr><td>病床数</td><td colspan="4">４２１床</td></tr>
<tr><td>医師数</td><td>常勤</td><td>92 人</td><td>非常勤</td><td>5.6 人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">患者数</td><td rowspan="2">入院(H29 年度)</td><td>年間延べ患者数</td><td colspan="2">125,989 人</td></tr>
<tr><td>１日平均患者数</td><td colspan="2">345.2 人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外来(H29 年度)</td><td>年間延べ患者数</td><td colspan="2">244,148 人</td></tr>
<tr><td>１日平均患者数</td><td colspan="2">1,000.6 人</td></tr>
<tr><td>病院の特徴等</td><td colspan="4">がんの診療と研究に重点をおき、総合的診療機能も完備した病院です。
当院は“一人ひとりを大切にする医療を目指してがんを中心とした高度先進医療を広く県民に提供する”をモットーに、がんの予防・診断・治療、医療者の教育研修、臨床研究を使命とした総合病院併設型地方がんセンターです。新潟県の“がん診療連携拠点病院”の認定を受けており、過去 50 年間にわたって新潟県および甲信越におけるがん診療の中心的役割を担ってきています。</td></tr>
</table>

専門研修プログラム

プログラム名	内科専門研修プログラム		
研修期間	3年	H31 募集人数	2名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟県立がんセンター新潟病院　臨床部長　張　高明		
研修概要	本プログラムは、3年の内科専門医研修プログラムであり、 1. 内科分野研修として、臨床腫瘍内科学の基礎となる各分野の腫瘍性疾患の臨床研修を当院の内科 3 分野で実施する（研修期間：1-1.5 年）。 2. 新潟大学医歯学総合病院・魚沼基幹病院において、救急診療、内科各分野診療研修を実施する（研修期間：2.と 3.合わせて 1.5-2 年）。 3. 新潟県立病院（中・小規模一般病院：県立中央病院、県立津川病院）にて一般内科研修・地域医療・在宅医療研修を実施する。（研修期間：2.と 3.合わせて 1.5-2 年）。		
アピールポイント	内科専門医研修 3 年間終了後の選択としては、 1. 大学病院各分野の医局に入局し、腫瘍内科および各分野の専門医としての臨床技能の向上に努め（5 年終了時点で各分野専門医、臨床腫瘍学会専門医の認定試験受験可能となる）、臨床大学院において臨床研究を実施し、博士号取得を目指す。 2. 大学院基礎分野に所属し、基礎研究に従事する。 3. 当院を含めた県立病院での臨床研修を継続する。この場合も社会人大学院に入学し、臨床研究をまとめて論文化し、博士号取得を目指す。 などが想定される。		
特色	全国がんセンター協議会加盟病院、地域がん診療拠点病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設である当院での集中研修によって、内科各サブスペシャリティ専門研修および臨床腫瘍学会専門医研修も可能であり、内科的がん診療を極めるに最適のプログラムである。		
指導医からのメッセージ	今やがん診療は最も重要な医療分野であり、あまりに進歩した内科各分野サブスペシャリティ専門研修と同時進行での研修が必須です。日本人の死因第一である悪性疾患の早期診断・治療介入、さらには緩和ケア治療の全てを研修可能な本プログラムに多数の若き医師が参加することに期待します。		
連携施設の病院名	新潟大学医歯学総合病院、魚沼基幹病院、新潟県立中央病院、新潟県立津川病院		

研修コース

① 基本コース

卒後	Aコース	Bコース	Cコース
3年目	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟大学医歯学総合病院 新潟県立中央病院	魚沼基幹病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟大学医歯学総合病院 新潟県立中央病院
5年目	魚沼基幹病院 県立津川病院	魚沼基幹病院 新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県立がんセンター新潟病院
6年目以降	大学病院医員、大学院での基礎研究、県立病院内科スタッフなど		

② 週間スケジュールの例

時間 / 曜日	8:30	11:50 13:00	16:10
月曜日	回診 患者紹介、病棟研修		病棟研修、血液検査室研修 回診 入院症例カンファレンス
火曜日	回診 骨髄穿刺検査 病棟研修		入院症例カンファレンス 病棟研修、病理検査室研修
水曜日	回診 末梢血管細胞採取 無菌室研修		無菌室症例カンファレンス・スタッフミーティング 回診
木曜日	回診 骨髄穿刺検査 病棟研修		入院症例カンファレンス 回診
金曜日	回診 病棟研修 カルテの weekly summary		内科検討会

問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	臨床部長　張　高明
	電話連絡先	025-266-5111
	ファックス	025-266-5112
	メールアドレス	chou@niigata-cc.jp

新潟市民病院

新潟市民病院　病院概況

所在地	〒950-1197　新潟市中央区鐘木 463-7			
電話連絡先	025-281-5151			
ＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp/			
標榜診療科目	血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓・リウマチ科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、新生児内科、皮膚科、形成外科、眼科、耳鼻いんこう科、脳神経内科、精神科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、脳卒中科、産科、婦人科、泌尿器科、麻酔科、ペインクリニック外科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、総合診療内科、緩和ケア内科、感染症内科、乳腺外科、救急科、病理診断科			
病床数	676 床			
医師数	常勤	145 人	非常勤	53.3 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	217,414 人	
		１日平均患者数	595,7 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	251,582 人	
		１日平均患者数	1,035.3 人	
病院の特徴等	昭和 48 年（1973）10 月、信濃川の東側（新潟市紫竹山）の地に市民の期待を受けて「新潟市民病院」として設立された新潟市を開設者とする自治体病院（公立病院）です。 平成 19 年 11 月 、鳥屋野潟南部に新築移転いたしました。病院の理念は、[患者とともにある全人的医療] をめざすことで、ウイリアム・オスラーの言葉による「医学・医療は患者とともに始まり、患者とともにあり、患者とともに終わる」を基に、その信念を何時も全職員が忘れることなく毎日の業務に携わっています。			
アピールポイント	○ 救命救急、ならびに循環器病･脳卒中の両センターを併設しており、約 20 名のセンター所属医師が常勤して、専攻医の指導に当たります。3 次救急を含む救急患者の豊富さがあります ○ 地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、エイズ治療ブロック拠点病院の指定を受けています ○ 医局において、１人１台の電子カルテあり、また、研修に必要な図書室とインターネット環境があります。			
施設等の紹介	○ 職員図書室 ○ 職員食堂 ○ 売店 ○ 病児保育 			

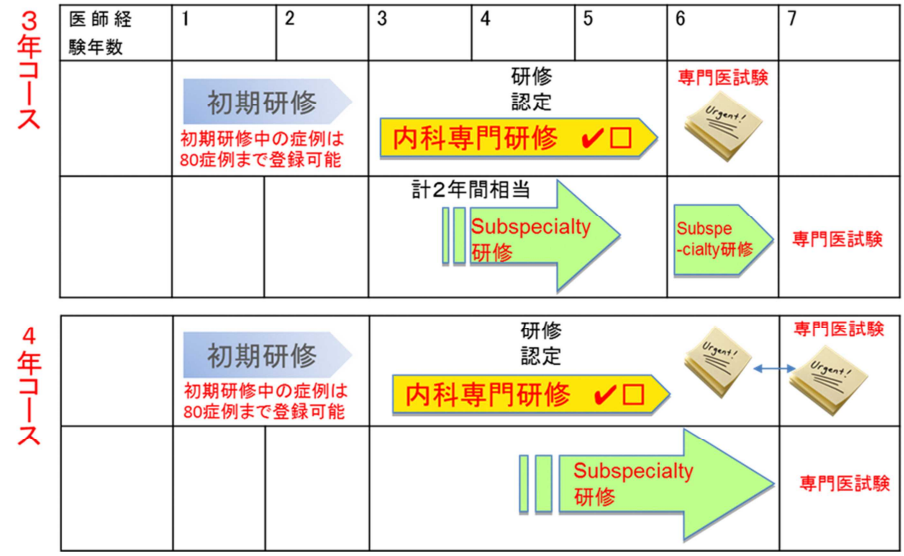
専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院　内科専門医研修プログラム：オスラーと共に学ぶ		
研修期間	３年コース、４年コース	H31 募集人数	８名
選考方法	書類　・　面接　・　筆記：英語（英和辞書持ち込み可）		
プログラム責任者	副院長　小田弘隆		
研修概要	本プログラムの目指すところは、以下の１）～４）となります。 １）超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、② 最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器専門性に偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。 ２）自己研鑽を継続する姿勢、常に最新の情報と技術を求め、標準的な医療を安全に提供できる能力を身に着け、内科専門医の認定を受けた後も市民に最善の医療を提供できる研修を行います。 ３）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を行い、地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。 ４）将来の医療の発展のために、リサーチマインドを持ち、臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。 上記を達成するため、期間３年コース（6 名）と４年コース（2 名）の２つがあります。３年コースは、新潟県新潟医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、同じ医療圏の新潟南病院、木戸病院、および新潟大学医歯学総合病院、さらに近隣の下越医療圏の新潟県立坂町病院を連携施設とし、研修期間は基幹施設２年間＋連携施設 1 年間の３年間となります。 ４年コースは、新潟県地域枠専攻医のみを対象とし、前期２年間の研修を連携施設である中越医療圏の厚生連長岡中央総合病院、または上越医療圏の厚生連上越総合病院で行い、後期２年間を当院で行います。		
アピールポイント	○ ３年コースの連携施設研修は２年後半から３年前半（１年間）を２施設で行い、うち１施設でサブスペシャルティ科の並行専攻が可能です。 ○ ４年コースの連携施設（前期２年間）でもサブスペシャルティ科の並行専攻が可能です。 ○ 指導医は選択したサブスペシャルティ科医師が担当するため、内科専門医とサブスペシャルティ科専門医の受験資格を得るまで、アドバイスを受けることができます。		
特色	プログラム終了までに、専門医受験資格に必要な登録条件を満たすことを優先します。この内科専攻に並行して、サブスペシャルティ科の専攻も行います（図　参照）。サブスペシャルティ科が決定している専攻医の指導医は、サブスペシャルティ科の医師が担当するため、サブスペシャルティ科を含めた、よりきめ細かい指導が可能となります。内科系サブスペシャルティ学会の多くが３年間以上の指定／関連教育期間の専攻とカリキュラム達成が必要条件になると思われます。３年コースでは、内科専門医試験は６年目、サブスペシャルティ科専門医試験は７年目に、４年コースでは、両方が７年目となります（サブスペシャルティ科専攻は、遅くとも４年目からの開始が必要です）。		

指導医からのメッセージ	良いプログラム選択ができたからといって、それは必ずしも目的の成就を導くものではありません。“科学、そして医療するこころ”を持ち、いかに情熱を失うことなく行動できるかに依ります。皆さんの可能性は計り知れず、私たちは皆さんの飛躍を大いに期待し、サポートします。
連携施設の病院名	３年コース：新潟南病院、木戸病院、新潟県立坂町病院、 新潟大学医歯学総合病院 ４年コース：厚生連長岡中央総合病院、厚生連上越総合病院

研修コース

① 基本コース



② 週間スケジュールの例

例　呼吸器内科

	月	火	水	木	金	土・日
午前	病棟	病棟	病棟	病棟回診 病棟	病棟回診 病棟	一般日当直 （月１回）
午後	気管支 内視鏡	ICT 会議	病棟	気管支 内視鏡	ICT 会議 病棟	
		病棟多職種カンファレンス	カンファレンス	気管支鏡 前検討	病棟	
	一般当直 月1回					

呼吸器内科をサブスペシャルティ科に選択した場合の当院呼吸器内科スケジュールとなります。他科の経験していない症例がある場合は、その科を優先した状態で兼科での専攻となります。その期間は両科の科部長が相談して決定します。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修室長　渡辺 徹
	電話連絡先	025-281-5151
	ファックス	025-281-5187
	メールアドレス	kensyu@hosp.niigata.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp/

◇　サブスペシャルティコースの概要

内科に関する施設認定等

・日本血液学会認定血液研修施設
・日本輸血・細胞治療学会 I&A 認定施設
・日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設
・日本糖尿病学会認定教育施設
・日本甲状腺学会認定専門医施設
・日本腎臓学会認定研修施設
・日本透析医学会専門医教育関連施設
・日本ﾘｳﾏﾁ学会教育施設
・日本高血圧学会専門医認定研修施設
・日本神経学会専門医制度教育施設
・日本脳卒中学会認定研修教育病院
・日本脳神経血管内治療学会専門医研修施設
・日本呼吸器学会認定施設
・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
・日本消化器病学会専門医認定施設
・日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
・日本肝臓学会認定施設
・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

サブスペシャルティコース

コース名	循環器内科
責任者	循環器内科　高橋 和義
研修概要	日本循環器学会専門医の受験資格には、内科専門医であること、日本循環器学会が指定する教育施設/教育関連施設で３年以上の研修歴とカリキュラム達成が必要です。当院で専攻期間は３年間となります（尚、延長する相当の理由がある場合は、４年間まで認めます)。 本コースでは、国内どこの医療施設に出向しても循環器内科医師として職務が勤まるだけの、広範かつ専門的な知識・技術・態度を身につけることができます。 基本的には学会が定めるカリキュラムに従って研修を積んでもらいます。循環器専門医としてのより高度な知識と技量を身に着ける必要があり、カリキュラムではその検査法・治療法と各疾患の病態・各論に分けて習得すべきレベルが設定されています。実践の最終的判断は、個別評価の後に指導医と科部長の相談で決定します。
アピールポイント	○ 循環器専門医５名在籍し、指導しています。 ○ 日本心血管インターベンション学会と日本不整脈学会の認定教育施設であるため、それらの専門医研修が可能です。 ○ 当院の専攻期間終了後の進路として、新潟大学医学部循環器教室、および県外の循環器専門医療施設への紹介が可能です。
特色	・入院治療はチーム制で行いますので、先輩医師らのアドバイスを受けられます。 ・緊急心臓救急の対応するために、正規医師と同様に拘束番になりますが、いつでもチーム応援を得ることができます。 ・知識と技術の習得のために、以下のことを行います。 ✧ 検討会の参加：回診、循環器内科抄読会、シネカンファレンス、外科合同カンファレンス、 心エコー検討会、内科抄読会、ＣＰＣ ✧ 教育研究活動の参加：学会報告、論文執筆、日本循環器学会・循環器関連学会教育セッション、地域循環器研究会 ・３年目終了後の進路：責任をもって科部長および指導医がアドバイスします。
指導医からのメッセージ	当院の基本方針の一つに、“重症・専門・救急を中心に、質の高い医療をめざします”があり、救急救命・循環器病・脳卒中センターを併設しています。多くの重症心血管病・心臓救急例の経験は、循環器医師としてのあなたのキャリア･アップの基盤となります。

研修コース

①基本コース

1 年目

・ 循環器内科指導医とともに入院患者の診療にあたり、循環器学の基本的な知識と技術を修得します。
・ 救急科および循環器内科医指導医の指導のもと救急外来での救急診療の基本的な知識と技術を修得します。
・ 循環器疾患の診断と治療方針を的確に行えるよう、循環器内科指導医のもとに以下のことを行います。

① 心電図診断
② 心エコー（経胸壁および経食道心エコー：心エコー検討会に参加します）
③ ホルター心電図の解析診断
④ 心筋シンチグラム
⑤ 運動負荷心電図

上記検査を修得するため、外来および入院患者に検査を行います。心電図／心エコー／ホルターと心筋シンチ／運動負荷心電図を６ヶ月間ずつ研修します。

⑥ 心臓カテーテル（左心カテーテル、右心カテーテル、冠動脈造影法、心臓電気生理学的検査法）は術者として参加し、穿刺法とカテーテル操作技術を修得をします。そして、シネカンファレンスに参加します。

・ 高度医療技術（PCI、PTA、PTMC、PTAV、BPA、高周波焼灼術、ペースメーカー・ICD・CRTD 植え込み術、IABP など）を用いた治療法のトレーニングを受けます。

２年目

１年目の基本的な技術と知識をもとに、チーム制の主担当医としての立場で入院の診療を行います。

循環器検査に積極的に参加し、その技術修得とレベルアップに、指導医のもとで努力をしてもらいます。４ヵ月間の救急科または心臓血管外科研修が可能です。

３年目

チーム制の主担当医の立場で、入院と救急診療を行い、高度な医療技術のさらなる修得に努めてもらいます。自らの研鑽のみならず、後輩研修医の指導を積極的に行ってもらいます。

② 週間スケジュールの例

時間／曜日	8:30	9:00	13:00	16：30	17:00
月曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療	病棟 カテーテル検査、治療	心エコー検討会	
火曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査	病棟 心エコー　トレッドミル	心血管外科合同検討会 循環器科抄読会	
水曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療 デバイス植え込み	病棟	リハビリカンファランス	
木曜日	病棟・循環器センター チーム回診	カテーテル検査、治療	病棟 心エコー	心エコー検討会	
金曜日	病棟・循環器センター 全体回診	カテーテル検査、治療 デバイス植え込み	病棟 カテーテル検査、治療		

サブスペシャルティコース

コース名	脳神経内科
責任者	脳神経内科　佐藤 晶
研修概要	【経験疾患群】 内科専攻医としての内科全般の研修とあわせ、脳神経内科の専門医をめざす実践的研修を行います。神経救急から難病診療まで、幅広くカバーでき、疾患領域は神経免疫性疾患、神経変性疾患、神経感染症、てんかん等の機能性疾患、末梢神経筋疾患、その他、脳神経内科全般にわたります。また、当院では脳神経内科医と脳神経外科医が協力して脳卒中科を設立し、専門的で機動力のある診療を行っていますが、脳神経内科専修プログラムのなかで脳卒中科をローテートします。 【指導体制】 初年度は主に入院患者の主治医、担当医として患者を 5~10 人受持ち、問診、診察・神経局在診断、問題点の整理、病因診断・治療の実践などを学びます。他科入院患者や緊急外来患者のコンサルトにも対応し、実力をアップします。指導医はもとより、若手医師による屋根瓦式のバックアップが可能で、緩やかなグループ主治医性をとっています。2 年目以降は、新患・再来の外来業務にも参加していただきます。 【脳神経内科医としてのスキルアップ】 脳神経内科診療に必要な神経救急、神経画像、電気生理、筋病理、高次機能、血管内治療への参加、リハビリについて学ぶ機会があります。当院は新潟市のみならず広く下越医療圏の基幹病院であり、周辺の病院やクリニックとの連携のため様々な研究会を通して情報交換を活発に行い地域医療の一端を担っています。症例を通じ、社会の中での神経学、神経疾患と倫理について、ともに考えます。 【学術活動】 臨床を通して深く学んだことについて、臨床病理検討会や研究会、学会発表や論文投稿を通して神経学の進歩に寄与する機会があります。
アピールポイント	○　多彩な神経疾患について高いレベルで診療できる ○　脳卒中科、脳外科等との院内連携、新潟大学脳研究所や他医療機関との協力体制が安定している ○　風通しがよく、自由度の高いカリキュラムをともに作る柔軟性がある
特色	当科は、1973 年の当院開設時から脳・神経・筋の専門科として地域の中心的役割を担ってきました。専門的知識に裏打ちされた豊富な実績があります。脳卒中科では、超急性期の脳血管内治療を行う体制が整っており、ダイナミックな医療現場に専攻医も携わることができます。当院には循環器・脳卒中センターがあり、脳卒中だけでなく、脳炎やけいれん重積などの神経救急の重症患者にも対応できるコ・メディカルスタッフがそろっています。また、神経難病診療においても長い実績があり、関連医療機関との密な連携により診断から慢性期までかかわることができます。 新潟という地は、全国屈指の長い歴史を持つ新潟大学脳研究所があることにより、全国から神経研究・臨床に携わる人材が常に集まってきています。新潟に所縁のある方もそうでない方も、神経学を通して一人ひとりの医師が自分らしい仕事の在り方を追求しながら力を発揮することのできる地です。新潟大学脳研究所と新潟市民病院脳神経内科は、アカデミアと臨床実践と特性は異なりますが、人や情報の交流が盛んで、この地で学ぶことの恩恵は計り知れません。ここから若い医師の可能性は広がっていきます。

指導医からのメッセージ	当科では総合内科専門医、神経内科専門医としての技量を身に着けていただくことだけでなく、一人ひとりの医師が自分の使命感や興味を深め、充実した医師としての人生を送ることができるよう、最大限に応援します。神経内科専門医としての働き方は多様です。当科としても若い医師の発想を柔軟に取り入れ、成長していきたいと考えています。
連携施設の病院名	新潟大学脳研究所神経内科学教室

研修コース

① 基本コース

脳卒中科ローテートは半年～1年（要相談）

<table>
<tr><th></th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="9">脳神経内科　研修（初期トレーニング）</td><td colspan="3">脳卒中科</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年目</td><td colspan="6">外来診療（1回/週程度）
脳卒中科</td><td colspan="6">新潟大学　神経内科</td></tr>
<tr><td colspan="6">関連病院　内科</td><td colspan="6">外来診療（1回/週程度）
脳神経内科（後期トレーニング）
症例総括</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3年目</td><td colspan="6"></td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

② 週間スケジュール

2年目以降は外来日（午前）があります。
下記の他に、不定期に各種研究会、講習会、CPCなどがあります。

脳神経内科週間予定（2018年現在）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8時半　新入院紹介・ラウンド				
		隔週　昼 症例検討会		
14:30 病棟ラウンド	15:00 Neuro Radiology Conf	15:00　リハビリカンファレンス		15:00　チャートラウンド
16:00　スタッフカンファレンス（1回/月）	下越神経懇話会（1回/月）	15:30　研修医チャートラウンド	17:00　勉強会	

脳卒中科週間予定（2018年現在）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8時40分　新入院紹介 全体ラウンド		8時40分 新入院紹介	8時40分　新入院紹介 全体ラウンド	
	15:00 Neuro Radiology Conf			9：30　リハビリラウンド

予定アンギオ、経食道心エコーあり
グループ主治医制であり、グループミーティング、グループ回診を行い情報共有する
緊急当番体制、バックアップ体制あり
血栓回収など緊急手術時はなるべく経験を共有する

サブスペシャルティコース

コース名	腎臓・ﾘｳﾏﾁ科
責任者	腎臓・ﾘｳﾏﾁ科　近藤 大介
研修概要	１．全病期の慢性腎臓病の診断、治療について対応できるようになる。 ２．腎不全期のバスキュラーアクセス設置（内シャント造設、短期および長期留置カテーテル移植など）、管理（シャント PTA など）の手技について習得できる。 ３．慢性維持透析期の管理、透析症例の合併症に対する対応などを習得できる。 ４．体液量、電解質異常などについての評価、対応が習得できる。 ５．リウマチ、膠原病、血管炎などの診断、治療について習得できる。
アピールポイント	○　年間 20 例程度の腎生検症例 ○　年間 100 例前後のバスキュラーアクセス関連手術、処置 ○　ICU 領域での急性血液浄化治療も多数経験可能
指導医からのメッセージ	腎臓は全身を映す鏡といわれています。そのため腎臓内科という分野は、慢性腎臓病だけではなく、膠原病や血管炎、糖尿病、血液疾患など種々の原因による急性腎障害、電解質異常、輸液、栄養管理と非常に幅広い分野を扱っています。また、さまざまな病態に対する体外循環治療（血漿交換、血漿吸着、エンドトキシン吸着など）も担当しています。腎臓の専門分野のみならず内科医としての総合力が問われる科です。ただ、現時点で皆さんが腎疾患・膠原病に関する知識がなくとも心配ありません。一例一例の症例をよく勉強していく中で、少しずつ基本的な知識が身についていきます。当科での研修により、腎疾患、膠原病疾患全般の診断治療を経験でき、長期療養に伴う精神的、社会的、経済的な問題にも触れ、全人的な医療の必要性を感じることができます。皆さんも、私たちと一緒に腎臓の窓から全身をのぞいてみませんか

サブスペシャルティコース

コース名	呼吸器内科
責任者	呼吸器内科　伊藤 和彦
研修概要	当院の臨床では、病棟業務・救急対応は指導医とマンツーマンで行います。患者さんを診て、スタッフと協働することにより、医師として成長することを目指します。また、症例報告から多数例のまとめまで、学会・研究会での発表、投稿を行い、論理的・学術的な考え方を学びます。学会・研修会への参加、治験・臨床研究への対応は積極的に行います。指導医が種々の分野で講義を行い、検討会では症例呈示の方法を学びます。 初期研修医・学生へ指導することで、自らも学びを深めます。 他専門科と協力して、研修期間内に各科の症例を経験できるよう配慮しますが、連携施設の臨床でも内科専門医取得にむけて症例を受け持ちます。
アピールポイント	○ 指導医とマンツーマンで臨床経験をつみます。 ○ 学会・研修会へは科内の治験費で参加可能です。 ○ 休診日は交替で勤務し、月 5 日以上は完全休日がとれます。
特色	当科には、年間 1000 例以上が入院し、そのうち半数程度が緊急入院です。担当患者さんを診るだけで多くの経験をつめますが、余裕があれば、自分チーム担当以外の患者さんについて、画像・経過をフォローすれば臨床経験は格段に広がります。採血検査・画像検査などは救急対応が迅速で、各科への相談の敷居が低いことは特筆すべきところです。初期研修医・学生への指導機会が多いところも特徴的です。
指導医からのメッセージ	3 次救急病院ならではの多彩な症例を経験し、200 人もの医師と人脈を形成でき、一生役にたつことが多いと思います。大都会でもなく、田舎すぎず、海も山も近く、酒も魚もうまい新潟市で、QOL を維持しつつ皆さんと一緒に働けることを期待しています。
連携施設の病院名	新潟県立坂町病院、木戸病院、新潟南病院、新潟大学医歯学総合病院、厚生連上越総合病院、厚生連長岡中央綜合病院
研修コース	
① 基本コース	1 年目：当院呼吸器内科で初期トレーニングをしながら、 他科の症例を適宜主治医団に加わって経験する。 2 年目：前半は同上 後半は連携施設 1 3 年目：前半は連携施設 2 後半は当院呼吸器内科で専門研修（後期トレーニング）
② 週間スケジュールの例	月　火　水　木　金 午前　外来/病棟　外来/病棟　外来/病棟　外来/病棟　外来/病棟 午後　気管支鏡　外来/病棟　外来/病棟　気管支鏡　外来/病棟 夕方　多職種会議　検討会　検討会

サブスペシャルティコース

コース名	消化器内科
責任者	消化器内科　和栗 暢生
研修概要	基本的には内科専門医を取得するための内科全科の研修を行っているが、専門領域（サブスペシャリティ）希望により、消化器内科医として十分な症例数を入院主治医、再来外来、救急対応を通じて経験していただく。ルーチン検査（胃内視鏡・大腸内視鏡・超音波検査）を多数行うことにより基本手技を高水準・確実に身に着ける。消化器内科医に欠かせない緊急手技である内視鏡的消化管止血術、緊急胆道ドレナージ（内視鏡的・経皮的）を身に着ける。その他、高難易度治療である内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)、内視鏡的・経皮的胆膵IVR、経カテーテル的血管内治療まで豊富な症例数、経験豊富な指導医の元で経験できる。その中で各種学会発表等も多数行っていただく。
アピールポイント	○　癌から救急医療まで幅広く豊富な症例 ○　内視鏡検査・治療から IVR まで幅広く高度な手技が多数行える ○　気さくで楽しい消化器内科スタッフ陣（もちろん熱い）
特色	当院は新潟県随一の救急医療を提供する病院であるため、消化器内科への診療依頼は非常に多い。当科は腹部救急診療のプロフェッショナルになるための最短コースともいえる。また各種癌の先端治療手技から化学療法、緩和医療まで多くを学ぶことができることも特徴の一つである。
指導医からのメッセージ	指導医スタッフへ相談しやすい環境（症例ごとに完全バックアップ体制）を用意しています。当科はその充実した診療内容を国内外に多数発信しており、多数の経験を積むことと並行して学会・論文発表をしていただきます。楽しいツアーも含めて、充実の後期研修を保証します。
連携施設の病院名	新潟大学消化器内科 新潟南病院、木戸病院 新潟県立坂町病院

研修コース

① 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	大腸 内視鏡	超音波	急患対応 病棟	上部 内視鏡	上部 内視鏡
午後	肝生検 血管撮影	ERCP 関連	血管撮影 病棟	外来(再来) 病棟	大腸 内視鏡
夕方			内視鏡 検討会	病棟症例 検討会・ 抄読会	

サブスペシャルティコース

コース名	内分泌・代謝内科
責任者	内分泌・代謝内科　　宗田 聡
研修概要	新潟市民病院内分泌・代謝内科を研修の基軸に置き、新潟大学医歯学総合病院血液・内分泌代謝内科分野、新潟南病院内科、木戸病院糖尿病・内分泌内科、坂町病院内科など県内４つの連携施設と協力して研修を行います。実践的な医療を修学することによって、全人的な地域医療が行える内科専門医を育成します。
アピールポイント	○　多彩かつ豊富な症例を研修できる ○　この上なく優しいスタッフと仕事できる ○　３．生涯の友になるのであろう仲間と出会える
特色	新潟市中核病院として近隣の医療機関のみならず広範囲の医療圏を有し、急性期から慢性期の診療が行えます。糖尿病、甲状腺が診療疾患の8割を占めますが、内分泌・代謝異常についても十分な経験を積むことができます。特に糖尿病診療においては糖尿病医療学の概念に基づいたアプローチでより深く患者と関わりながら治療目的を達成します。甲状腺疾患は診断、内科的治療のみならず、PEIT も積極的に取り組んでおりますので多くの手技習得ができます。
指導医からのメッセージ	急性期病院の性質上、急な糖代謝失調、周術期管理、甲状腺クリーゼ、電解質異常の症例が毎日のように新患が来ます。忙しさがある反面、知識、経験、臨床医としてのセンスを磨く機会に恵まれています。ぜひ、ご参加ください
連携施設の病院名	新潟大学医歯学総合病院、新潟南病院、木戸病院、坂町病院

研修コース

① 基本コース

1年目		2年目		3年目	
初期 専攻科トレーニング	専攻科トレーニング	中期 専攻科トレーニング	連携施設１	連携施設２	後期 専攻科トレーニング
必要な他内科症例担当					他科内科症例担当

② 週間スケジュールの例

曜日	外来 午前	外来 午後	緊急対応当番	糖尿病教室	甲状腺診療	検討会	その他
月		外来	当番制	担当		症例検討	第二月曜日DMチームミーティング
火			当番制	担当	エコー・細胞診	症例検討	
水			当番制	担当	エコー・細胞診	症例検討	
木	外来		当番制	担当	PEIT	耳鼻科合同検討会	糖友会イベント（不定期）
金		外来	当番制	た		症例検討	

専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院小児科専門研修プログラム		
研修期間	3年	H31 募集人数	1名
選考方法	書類　・　面接　・　その他　（　筆記　）		
プログラム責任者	小児科　塚野真也		
研修概要	本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて３年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の５つの資質を備えた小児科専門医となることを目標とします。		
アピールポイント（最大３点までを簡潔に記載）	① 豊富な症例数があるため小児科専門医としての十分な経験が積めます。 ② NICU、救急外来、ICU の規模は大きく、新生児・救急医療・集中治療の研修に適しています。 ③ 指導医が多く、熱意をもって指導しています。		
特色	当院の小児科は専門性の高いスタッフが多数おり、また救急・重症患者の診療経験が豊富なところに特色があります。小児科専門医の研修をする上では最適な環境にあります。専門領域の多くを新潟市民病院で研修しますが、一部の領域についてはさらに充実した研修が行えるように連携施設での研修を行っています。3年間で専門領域に偏りがない総合医としての実力が十分つくプログラムとなっています。		
指導医からのメッセージ（※必要に応じ写真などを提供願います。）	私達と一緒に新潟市民病院小児科のプログラムで専攻医をスタートしてみませんか？当院小児科スタッフが全力でサポートいたします。そして３年後に成長した姿を楽しみにしています。また小児科総合医としては疾患だけではありません。育児や健康も大事なテーマです。そして「こどものことは小児科医に聞け」と言われるくらい私達と一緒にこども漬けになりましょう。		
連携施設の病院名	新潟大学医歯学総合病院、新潟県立新発田病院、佐渡総合病院		

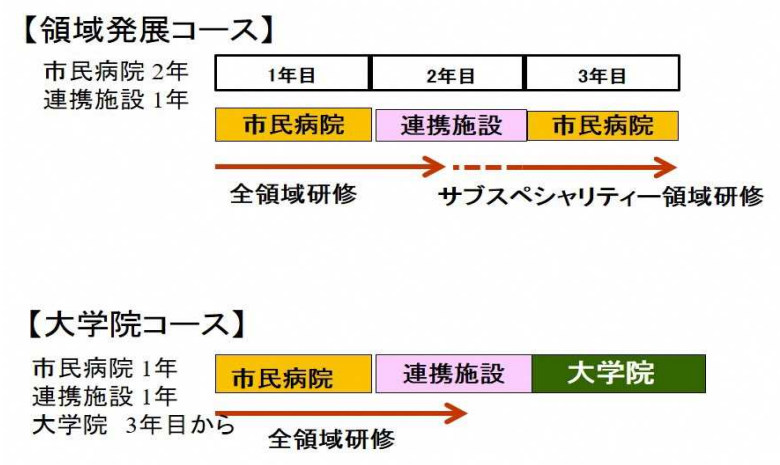
<table>
<tr><td colspan="3">研修コース</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 基本コース
①専門研修１年目：新潟市民病院こども病棟で感染性疾患・内分泌代謝疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、総合周産期母子医療センター新生児部門で新生児疾患・先天異常疾患を研修します。
②専門研修２年目：新潟大学医歯学総合病院で血液・腫瘍、膠原病・リウマチ性疾患、感染症コンサルテーションを６か月間研修します。新潟県立新発田病院では近年小児科医としての取り組みが重要視されている精神・心身医学を３か月間研修します。佐渡総合病院では予防接種、乳児検診など小児保健分野を含めた地域小児総合医療を３か月間研修し、小児の総合診療医としての力をつけます。
③専門研修３年目：新潟市民病院にもどり引き続き研修します。将来の subspecialty を意識した研修も一部可能です。</td></tr>
<tr><td colspan="3">② 週間スケジュールの例
月：病棟業務、周産期合同カンファレンス（月２回）、症例検討会
火：抄読会、外来・病棟業務、総回診
水：病棟業務、ランチョンセミナー、ハンズオンセミナー
木：外来・病棟業務、CPC（月１回）、グランドラウンド（月１回）
金：病棟業務、研修ふるかえり（月１回）
土日：合同勉強会（年３回）</td></tr>
<tr><td colspan="3">その他参考情報
2018/8/23 現在、プログラム申請中</td></tr>
<tr><td rowspan="5">問い合わせ先</td><td>連絡先担当の職･氏名</td><td>教育研修室長　渡辺 徹</td></tr>
<tr><td>電話連絡先</td><td>025-281-5151</td></tr>
<tr><td>ファックス</td><td>025-281-5187</td></tr>
<tr><td>メールアドレス</td><td>kensyu@hosp.niigata.niigata.jp</td></tr>
<tr><td>プログラムのＨＰアドレス</td><td>http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/syouni_senmon.html</td></tr>
</table>

専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院　外科専門研修プログラム		
研修期間	3　年	H31 募集人数	3　名
選考方法	書類　・　面接　・　その他　（筆記試験）		
プログラム責任者	小児外科　飯沼泰史		
研修概要	新潟市民病院を基幹施設として県内外 9 の連携施設と共に本研修プログラムが構成されます。専攻医の希望により 2 つのコースの選択が可能です。 1）領域発展コース 基幹施設である新潟市民病院で 2 年間、連携施設で 1 年間の研修を行います。 2）大学院コース 基幹施設である新潟市民病院で 1 年間、連携施設で 1 年間の研修の後に新潟大学大学院に進学します。		
アピールポイント	1）多数の症例が経験可能 2）小外科から高難度症例までの多彩な症例が経験可能 3）手術のみではなく、“Academic surgeon”を育成。		
特色	県内で最大の外科手術数の新潟市民病院を基幹施設としプログラム全体の年間手術数は約 3000 例で High volume・High quality な研修が可能です。本プログラムの目標は外科専門医に求められる全ての要素を身に着けた全国レベルの Top Surgeon を育成することです。9 の中核病院を連携施設としていますが専攻医の希望に沿って連携施設を決定します。手術(art)だけでなく学会発表・論文作成などの学術活動(science)も指導しますので art and science のバランスがよくとれた外科医専門医を育成します。研修後半は外科サブスペシャルティ(消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺内分泌外科・小児外科)の希望に沿ったローテーションを行います。 		
指導医からのメッセージ	「鉄は熱いうちに打て！」外科手術手技・周術期管理能力は、多数の臨床経験で加速度的に向上します。また、学会発表・論文作成は多彩な症例経験の疑問点から生まれます。若いときの”手術のシャワーを浴びる”3 年間の研修により外科医としてのしっかりとした基礎が出来上がり、次のサブスペシャルティ研修に繋がります。やる気満々の専攻医をお待ちしています。		
連携施設の病院名	鶴岡市立荘内病院・県立新発田病院・県立がんセンタ新潟病院・新潟大学医歯学総合病院・新潟南病院・新潟臨港病院・長岡赤十字病院・立川総合病院・県立中央病院		

研修コース

① 基本コース



② 週間スケジュールの例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8時				抄読会	
9時	回診	回診	回診	回診	回診
10時	手術	手術	手術	手術	手術
11時					
12時				CB	
13時		検査		検査	
14時					
15時					
16時		検討会		検討会	
17時					

その他参考情報	雇用・勤務形態については http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/resident_after16.html を参照してください	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修室長　渡辺 徹
	電話連絡先	025-281-5151
	ファックス	025-281-5187
	メールアドレス	kenshu@hosp.niigata.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/resident_after16.html

専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院　整形外科専門研修プログラム		
研修期間	3.9 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	整形外科　瀬川博之		
研修概要	新潟市民病院整形外科の研修では、全ての運動器疾患、外傷症例に対し、的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけることです。 患者さんに信頼される、安全で質の高い医療を提供できる整形外科医師を育成することを目標としています。		
アピールポイント	○ 整形外科各専門分野の指導医が所属し、広い範囲で多くの臨床経験を積むことができる。 ○ 全国有数の外傷症例数である、かつ整形外科各種慢性疾患の診療に携われる。 ○ 当院は 34 診療科と多くの専門診療科があり、各科の連携は良好で、気軽に相談出来る雰囲気がある。		
特色	当院は全国有数の救急搬送患者を受け入れ件数で（2017 年の救急車搬入 6220 件、ドクターカーを運用）、多様な運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となる。救命科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っており、この治療にチーム治療の一員として参加し、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学べる。 また重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能である。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けられる様に検討会、回診を連日行っている。 新潟大学と連携したプログラムであるため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く、最新知識を得ることが出来る。またプログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数が多く、年間 120 件以上、3 年 9 か月間で 500 件を目標としている。 プログラム参加病院中 3 施設が新潟市中心部に位置しているため、研修中の転居が最小限ですむ。佐渡市、会津市の生活環境も快適で、新潟から佐渡までは高速船で 1 時間と比較的近い。		
指導医からのメッセージ	当科では整形外科各専門分野に対応できる指導医が所属しており、指導医のコントロールの元に多くの臨床経験を積むことが出来ます。当院は 3 次救急病院であり、軽症から重症まで、必ず救命科医師および整形外科指導医のバックアップがある状況で専攻医が主役となり治療を進めていくことが可能です。当院は 34 診療科と多くの専門診療科があり、各科の連携は良好で、気軽に相談が出来る雰囲気があります。全国有数の外傷症例数で、整形外科各種慢性疾患の診療に携わることが出来ます。4 年間の研修期間中はほとんど新潟市内での研修になります。見守られた安全な環境で研修をしてみませんか。		
連携施設の病院名	新潟大学病院、新潟中央病院、佐渡総合病院、 会津中央病院（会津若松市）		

研修コース

① 基本コース

年次	研修領域と研修期間	
1 年目	新潟市民病院(外傷、上肢、下肢)	
2 年目	新潟市民病院（脊椎）	新潟中央病院（外傷）
3 年目	新潟大学病院（腫瘍、リウマチ、小児整形）	
4 年目	佐渡総合(地域医療)	新潟市民（専門分野）

② 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:00-9:00	検討会	抄読会 勉強会	検討会	検討会	検討会
午前	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術
午後	多職種ミーティング 回診 検査	手術	手術 検査	手術 検査	手術

その他情報	2017 年度 整形外科新患数 1145 例 2017 年度 整形外科手術件数 1428 件 手術内訳：外傷 468 件、脊椎 374 件、上肢・手 229 件、下肢 253 件、 リウマチ 29 件、スポーツ 15 件、小児 30 件、腫瘍 30 件

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修室長　渡辺 徹
	電話連絡先	025-281-5151
	ファックス	025-281-5187
	メールアドレス	kensyu@hosp.niigata.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/seikei_senmon.html

専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院　救急科専門研修プログラム		
研修期間	３年	H31 募集人数	４名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	救命救急・循環器病・脳卒中センター・廣瀬保夫		
研修概要	研修プログラムでは、急病や外傷の病態や重症度に応じた総合的判断に基づき、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを持った救急科専門医を養成します。特に多臓器の機能不全が重篤化する集中治療を要する病態においては中心的役割を担う医師を目指します。 さらに地域における救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する能力の修得も目指します。 新潟市民病院救急科は「救急外来（ER）」と「集中治療（ICU）」を診療の主な柱としています。豊富な症例で臨床経験を積み、Evidence-Based Medicine(EBM)を重視し、幅広い視野と知識を持ち適切な臨床判断のできる救急医の養成を目指します。		
アピールポイント	○ ER、ICU、プレホスピタル、災害医療、満遍なく研修可能です。 ○ 外傷の IVR も当科で行っています。 ○ ○常に global standard を意識した診療をモットーとしています。		
特色	勤務体制はシフト制、診療はグループ制をとり，診療の質の向上と個々の医師への負担軽減を図っています。 当科は女性医師が多いのが一つの特徴で，産休・育休の取得ももちろん可能です。		
指導医からのメッセージ	新潟市民病院の救急医療は、ジェネラリストである救急医による「横糸」，各専門科の「縦糸」で織りなすことで，質の高い救急医療を実践しています。一緒に新潟の救急医療を盛り上げましょう！！ 		
連携施設の病院名	新潟県立新発田病院　長岡赤十字病院　新潟県立中央病院 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 新潟大学医歯学総合病院　厚生連上越総合病院		

研修コース

① 基本コース

新潟市民病院救命救急・循環器病・脳卒中センター（救急・集中治療12ヶ月）	
連携施設研修 （救急・集中治療6～12ヶ月）	基幹施設研修 （救急・集中治療6～12ヶ月）
地域僻地医療研修（3～6ヶ月）	希望、必要に応じて他科ローテート研修

救急診療、集中治療、病院前救護・災害医療等は年次に拘らず弾力的に研修します。研修の順序、期間、連携施設の選択、内容については、専攻医の皆さんの希望を最大限に尊重します。

② 週間スケジュールの例

時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30	ICU回診	抄読会 ICU回診	ICU回診	ICU回診	ICU回診	シフト制	
午前	ER・ICU・ドクターカー診療						
午後	総合診療内科 合同カンファ		デスカンファレンス				
17:00	トリアージ検討会 （月1回）	Radiology conference （月1回）	プレホスピタル検討会 （月1回）	M&Mカンファレンス （月1回）	レジデント勉強会 （適宜開催）		
夜間	シフト制						

その他参考情報	勤務体制は日勤、夜勤、遅番のシフト制、診療はグループ制をとり，診療の質の向上と個々の医師への負担軽減を図っています。当院は 24 時間体制で救急科医師が常駐しているため、オンとオフがしっかりしています。 当科は女性医師が多いのが一つの特徴で，産休・育休の取得ももちろん可能です。	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修室長　渡辺 徹
	電話連絡先	025-281-5151
	ファックス	025-281-5187
	メールアドレス	kensyu@hosp.niigata.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/kyukyu_senmon.html

専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院　麻酔科専門研修プログラム		
研修期間	4 年	H31 募集人数	1 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟市民病院麻酔科部長　西巻 浩伸		
研修概要	本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である新潟市民病院を核としながら、新潟大学医歯学総合病院を初めとする専門研修連携施設群と協力して、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供するとともに、下記①～⑤を併せ持つ麻酔科専門医の育成を目指す。 ① 高度な知識・優れた技術・優れた態度を備えている。 ② 習得した知識・技術を全身管理に活用できる。 ③ さまざまな疼痛を緩和できる。 ④ 常にリサーチマインドを持ち, 臨床上の疑問に対して自己学習ができる。 ⑤ 自律的に学術的活動（学会参加，論文執筆等）ができる。		
アピールポイント	○ 新潟医療圏の三次救急病院。小児、心臓血管外科症例、救急症例が豊富。 ○ 市中病院でありながら、高難易度の手術や重篤な合併症を有する患者の手術も多数行われている。 ○ ペインクリニック外科においてペインクリニック研修が可能		
特色	豊富な症例に裏付けられた実践力を養うことを第一に、新潟大学医歯学総合病院麻酔科の専門医研修プログラムと密接に連携し、各施設の指導医が総力を上げてオールラウンドな麻酔臨床医の育成を目指す。プログラム内では超音波ガイド下末梢神経ブロック、成人・小児の経食道心エコー、神経機能モニタリングの優秀な指導医の下での研修が可能。また、プログラム外では臨床・基礎研究も盛んに行われていることに加え、定期的に臨床経験・研究に関する発表の場があり、アカデミックな要求にも十分に答えられる研修となっている。		
指導医からのメッセージ	新潟市民病院は、年間の麻酔科管理症例数が約 4,800 例と新潟県内で最も多い病院です。救命救急センター、循環器病・脳卒中センターおよび総合周産期母子医療センターを有しており、救急症例、心臓血管外科症例、脳外科症例、新生児症例も豊富であり、偏りのない研修が可能です。ロボット支援手術を初め、各科とも鏡視下手術が多いのも特徴です。忙しい病院ですが、その分やりがいが感じられると思います。皆様の応募をお待ちしています。 		
連携施設の病院名	専門研修連携施設Ａ：新潟大学医歯学総合病院、新潟県立新発田病院、新潟県立がんセンター新潟病院、済生会新潟第二病院、長岡中央綜合病院　専門研修連携施設Ｂ：長岡赤十字病院、新潟県立中央病院、魚沼基幹病院		

研修コース

① 基本コース

	A（標準）	B（ペイン）	C（集中治療）
初年度 前　期	新潟市民病院	新潟市民病院	新潟市民病院
初年度 後　期	新潟市民病院 （ペイン含む）	新潟市民病院 （ペイン含む）	新潟市民病院 （ペイン含む）
２年度 前　期	新潟大学	新潟市民病院 （ペイン含む）	新潟市民病院 （集中治療含む）
２年度 後　期	新潟大学	新潟大学 （ペイン重点）	新潟大学
３年度 前　期	長岡赤十字病院	新潟大学 （ペイン、緩和）	新潟大学 （集中治療）
３年度 後　期	長岡赤十字病院	新発田病院 （ペイン重点）	新発田病院 （集中治療含む）
４年度 前　期	済生会新潟第二病院	新発田病院 （ペイン重点）	新発田病院 （集中治療含む）
４年度 後　期	済生会新潟第二病院	県立中央病院 （ペイン）	新潟大学 （集中治療）

② 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土	日
午 前	手術室	手術室	手術室	ペイン	手術室		
午 後	手術室	手術室	手術室	ペイン	手術室		

※病院当直業務はないが、夜間や休日の麻酔科拘束当番として、平日週１回、土・日・祝日のうち月２回を指導医とともに行う。
※2 年度以降は各研修施設のカリキュラムによる

その他参考情報

専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。例えば、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション、集中治療を中心に学びたい者へのローテーションも可能である。また、学位の早期取得を目指すものに関しては、社会人大学院生として新潟大学大学院に入学し、麻酔科内で臨床麻酔に携わりながら、研究（基礎，臨床）を行うことも可能である。

問い合わせ先		
	連絡先担当の職・氏名	教育研修室長・渡辺 徹
	電話連絡先	025-281-5151
	ファックス	025-281-5187
	メールアドレス	kensyu@hosp.niigata.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp

専門研修プログラム

プログラム名	新潟市民病院総合診療専門医研修プログラム		
研修期間	3年	H31 募集人数	2名
選考方法	書類　・　面接　・　その他（小論文）		
プログラム責任者	新潟市民病院総合診療内科　矢部　正浩		
研修概要	機関施設は新潟市民病院であり、政令指定都市、県庁所在地である新潟市にある救命救急センターなどを併設する医療機関である。プライマリケアのみならず、高度医療機関として重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を経験することが可能である。また都市型の医療を経験することが可能である。 連携施設は新潟県立津川病院であり、地域の小規模病院である。山間部での地域医療を、入院や外来の診療のみならず、訪問診療や地元の健康教育など、診療所の支援などを経験することが可能である。		
アピールポイント	○　都市型の高度医療機関として重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を経験することが可能 ○　地域の小規模病院で、外来や入院での地域医療、訪問診療や地元の健康教育、診療所の支援などを経験することが可能 ○　新潟県内で総合診療を学ぶ場としては随一です		
特色	都市型の高度医療機関である新潟市民病院で総合診療と、その核となる内科各科、小児科、救急を中心に学ぶことが可能。重症患者、特殊な疾患をもつ患者、専門医療を必要とする患者の診療を経験する。 地域では、Common disease を中心とした、外来や入院での地域医療と、訪問診療や地元の健康教育、診療所の支援などの、地域医療の経験が可能。		
指導医からのメッセージ	病院や地域で、患者さんや家族の支えになりませんか？　あなたが医師を志した原点は何でしょうか？　多くの患者や家族が、日常生活の中で、様々な健康問題で悩んでいます。あなたが、力になってあげることができます。総合診療に興味のある方是非とも来てください。		
連携施設の病院名	新潟県立津川病院		

研修コース

① 基本コース

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	新潟市民病院						新潟市民病院					
	領域	内科						内科					
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	新潟市民病院			新潟市民病院			新潟県立津川病院					
	領域	小児科			救急			総診Ⅰ					
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	新潟県立津川病院						新潟市民病院					
	領域	総診Ⅰ						総診Ⅱ（その他を含む）					

② 週間スケジュールの例
各科によって診療が異なります。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修室長　渡辺 徹
	電話連絡先	025-281-5151
	ファックス	025-281-5187
	メールアドレス	kensyu@hosp.niigata.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.hosp.niigata.niigata.jp/img/medical/rinsyo_kensyu/soushin_senmon.html

下越病院

下越病院　病院概況

所在地	〒956-0814　新潟県新潟市秋葉区東金沢 1459 番地 1			
電話連絡先	0250-22-4711（代表）			
ＨＰアドレス	kaetsu@niigata-min.or.jp			
標榜診療科目	内科・外科・整形外科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・皮膚科・婦人科・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科・麻酔科・泌尿器科・ﾘｳﾏﾁ科 糖尿病内科			
病床数	261 床			
医師数	常勤	33 人	非常勤	2.3 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	88,980 人	
		1 日平均患者数	243.8 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	109,297 人	
		1 日平均患者数	393.0 人	
病院の特徴等	1976 年に 100 床の下越病院を開院し、1979 年から初期研修医を受け入れてきました。地域の方々と一緒に保健予防や健康増進活動に力を入れ、差額室料を徴収しないなど、地域に根ざした無差別平等の医療活動を展開し、旧新津医療圏の中核的な病院としての役割を果たしています。また、災害拠点病院に指定されており、ＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）を保有しています。 現在、一般病床は 225 床・回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟 36 床の合計 261 床、16 標榜科を持ち、救急車は旧新津医療圏を中心に年間約 1,800 台、時間外の急患年間 4,500 人を受け入れています。また、健康診断を年間 1,000 件以上、地域の健康相談会を年間約 100 回行っており、在宅・介護分野でも 100 人以上の患者さんの往診に対応しています。			
アピールポイント	1.1979 年より初期研修医を受け入れたきた実績 2.予防からﾘﾊﾋﾞﾘ、在宅医療まで総合的な医療・介護活動や「安心して住み続けられるまちづくり」に取り組んでいる。 3.差額ベット料を徴収せず、無料低額診療に取り組むなど無差別・平等の医療・介護を実現を目指す。			
施設等の紹介	・ 院内保育所及び病時保育室が設置されており子育て中の女性医師の働く環境の環境を整備しています。 ・ 図書室が医局に隣接され、担当事務が配置され、医中誌 Web、”up to date”が無料で利用可能。各領域の主要学会誌も準備されています。また、月に 1 万円が研修図書費としと補償されます。 ・ 医局に各研修医のデスクがあり、それとは別に研修医専用の部屋があります。インターネット環境は医局内各自のデスクから常時利用可能。 ・ 昼食は食堂もしくは売店にて購入できます。当直時は、夕食と翌を病院で支給します。			

専門研修プログラム

プログラム名	下越病院総合診療専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	下越病院　副院長　本間丈成（小児科）		
研修概要	下越病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。 下越病院では総合診療専門研修Ⅱと小児科研修を行います。病院では外来、救急、病棟研修を行い、小児科は 2 次輪番病院です。救急は新潟大学医歯学総合病院が研修先となっており、高次救命災害治療センターです。精神科の新津信愛病院で新潟医療圏の精神科医療を幅広く提供する病院です。 総合診療専門研修Ⅰは、医療資源の乏しい県立津川病院もしくは新潟市内あるいは長岡市内の診療所にて、在宅医療、介護との連携や地域住民と協力した保健予防活動について学びます。		
アピールポイント	○　診療所研修が可能であり、医療・介護等の分野におけるリーダーシップを学び、診療所を主体的に担える力量を目指します。 ○　下越病院にで病院総合医としての力量の獲得を目指します。 ○　自主的な地域住民組織とまちづくりについて学びます。		
特色	下越病院では、病棟診療にて高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌・非癌患者の緩和ケア等の臓器別でない研修が可能です。また、外来診療では救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアにつてい学びます。自主的な住民組織である「新潟勤労者医療協会健康友の会」や「ながおか医療生活協同組合」を中心に、そこに居住する地域住民、各種団体、ボランティアや当院の職員などの理解と協力のもとで研修できる環境を整えています。		
指導医からのメッセージ	下越病院は普通で規模こそ大きくありませんが、地域に出て研修することができる病院です。J-HPH（Health Promoting Hospitals&Health Services)に 2017 年加盟しました。また、「健康友の会」という地域住民の共同組織を持っています。健康増進にとどまらず、暮らしの相談なども実施し、医療・福祉の専門職と連携をとっています。地域づくり・まちづくりに興味のある方も是非来てもらいたいと思います。		
連携施設の病院名	新潟大学医歯総合病院　県立津川病院　新津信愛病院		

研修コース

③ 基本コース

	研修1年目		
施設名	下越病院		
領域	内科		
	研修2年目		
施設名	下越病院		新潟大学医歯学総合病院
領域	総合診療専門研修Ⅱ	小児科	救急科
	研修3年目		
施設名	下越病院		ながおか生協診療所
領域	総合診療専門研修Ⅱ		総合診療専門研修Ⅰ

④ 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:00-8:30	朝カンファレンス				
8:30-9:00	入院患者申し送り				
9:00-12:00	午前外来			午前外来	
9:00-12:00			午前検査		
13:30-15:00	多職種カンファレンス　随時開催・参加				
13:30-17:00		午後救急			
14:00-17:00	午後検査			午後検査	
16:30-18:00			夜間外来		
16:00-17:00					総回診
18:30-19:30	症例カンファレンス				
平日宿直（1～2回／週）、土日の日直・宿直（1回／月）					

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	事務次長　高井　好文
	電話連絡先	0250-24-4711（内線 2204）
	ファックス	0250-24-4740
	メールアドレス	Takai_y@niigata-min.or.jp

長岡赤十字病院

長岡赤十字病院　病院概況

所在地	新潟県長岡市千秋二丁目 297 番地 1			
電話連絡先	0258-28-3600			
ＨＰアドレス	http://www.nagaoka.jrc.or.jp			
標榜診療科目	内科、循環器内科、神経内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科			
病床数	６０７床			
医師数	常勤	152 人	非常勤	8.0 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	181,471 人	
		１日平均患者数	517.8 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	377,097 人	
		１日平均患者数	1,620.4 人	
病院の特徴等	当院は急性期病院であり、病床数は 607 床（一般 597 床、感染 10 床）、27 診療科目を有し、ほぼすべての領域に経験豊富な専門医・指導医が揃っている臨床研修指定病院です。また、地域医療支援病院、救命救急センター（ドクターヘリ基地病院）、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、基幹災害医療センター、エイズ拠点病院、臓器移植臓器提供施設などの指定も受けており、地域完結型の総合病院です。			
アピールポイント	○　高度な専門的医療と common disease の初期診療も広く担う急性期病院 ○　充実した診療科と指導医による、豊富な症例数 ○　○救命救急センターであることから、救急症例も充実			
施設等の紹介	・院内保育所完備 ・希望者には職員寮（単身用）に入居可能 ・売店、職員食堂もあり、近隣にはショッピングモール等あります			

専門研修プログラム

プログラム名	長岡赤十字病院　内科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	4 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	呼吸器内科　副院長・佐藤　和弘		
研修概要	当院は急性期病院であり、病床数は 607 床（一般 597 床、感染 10 床）、27 診療科目を有し、ほぼすべての領域に経験豊富な専門医・指導医が揃っている臨床研修指定病院です。 本プログラムは，新潟県中越医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として，中越，近隣医療圏および新潟市にある連携施設で構成されております。 研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間を基本としますが、専攻医の希望に応じた柔軟な研修プログラムを組み立てることが可能です。		
アピールポイント	○　高度な専門的医療と common disease の初期診療も広く担う急性期病院 ○　充実した診療科と指導医による、豊富な症例数 ○　救命救急センターであることから、救急症例も充実		
特色	1）3 年目（専攻医 1 年目）に内科の各分野を 3 ヶ月ずつローテーションすることで、4 年目及び 5 年目の研修を専攻医の目指す将来像にできる限り対応できるプログラムとなっています（研修コース参照）。 2）当院は県内の中でも医師数が多い病院ですが、さらに各分野・診療科同士の連携がしっかりしています（合同カンファレンス等も充実）。複数領域にまたがる症例については、各領域の指導医から熱心に指導をうけることができるので、総合的な力を身につけることができます。 3）3 年間の基本プログラムに加えて 1 年以上の研修を行うことで、総合内科専門医とサブスペシャリティ領域専門医を同時に取得することも可能です。		
指導医からのメッセージ	「専攻医の希望に応じた自由なプログラム」 中越地域唯一の基幹施設として、内科全般を幅広く研修することができます。また、当院では内科専門分野研修を併行して内科全般を研修するプログラムも可能にしており、研修に係る専攻医の皆さんの細かな要望にお答えできる柔軟なプログラムにしております。救急から腫瘍に渡って症例数も多くかつ指導医も充実しております。来年度の後期研修に是非ご応募ください。		
連携施設の病院名	新潟大学医歯学総合病院、長岡中央綜合病院、立川綜合病院、新潟県立十日町病院、独立行政法人国立病院機構新潟病院		

研修コース

① 基本コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器・神経			血液・腎臓・膠原病・糖尿病・代謝			呼吸器・感染症			消化器		
2年目	選択研修①			選択研修②			選択研修③			選択研修④		
3年目	選択研修⑤			選択研修⑥			各内科領域を自由選択 及び未経験の症例がある内科領域を選択					

※受け入れ医師ごとに、研修する診療科の順番は変更する可能性があり

※複数の施設を選択して研修することも可能ですが、1つの連携施設には最低6ヶ月以上は研修すること

○1年目の12ヶ月は、当院で研修を行います。
各領域を4つのクールに分けて、それぞれ3ヶ月間ずつ研修を行う。
（総合内科、アレルギー、救急についても、上記の期間に経験する。）

○2年目から3年目前半の18ヶ月間は、3ヶ月を1クールとして、連携病院で最低1年間（4クール以上）の研修および基幹病院にて各内科領域を自由選択して研修する

○3年目後半は、各内科領域を自由選択及び未経験の症例がある内科領域を選択して研修する

② 週間スケジュールの例

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="3">内科朝カンファレンス（各診療科）</td><td>内科朝合同カンファレンス</td><td>内科朝カンファレンス（各診療科）</td><td rowspan="5">担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会や学会参加</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合）</td><td>内科外来診療（各診療科）</td><td>内科外来診療（各診療科）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>内科検査</td><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td>内科外来診療（各診療科）</td><td>内科外来診療（各診療科）</td></tr>
<tr><td>内科合同検討会/CPC</td><td>救命救急センターオンコール対応</td><td>院内会議参加</td><td>救命救急センターオンコール対応</td><td>院内講習会参加</td></tr>
</table>

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修推進室・福井　大介
	電話連絡先	0258-28-3600
	ファックス	0258-28-9000
	メールアドレス	kensyu@nagaoka.jrc.or.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.nagaoka.jrc.or.jp/contents/organization/rinsho/kenshui01-2/

専門研修プログラム

プログラム名	長岡赤十字病院　総合診療科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	総合診療科　副院長・山﨑　肇		
研修概要	当院は急性期病院であり、病床数は 607 床（一般 597 床、感染 10 床）、27 診療科目を有し、ほぼすべての領域に経験豊富な専門医・指導医が揃っている臨床研修指定病院です。また、二次医療圏で唯一の地域医療支援病院、救命救急センター（県内 2 ヵ所目のドクターヘリ基地病院でもあります）、総合周産期母子医療センター、基幹災害医療センター、エイズ拠点病院、臓器移植臓器提供施設などの指定も受けており、地域完結型の総合病院です。当院での研修は、紹介状を持たない初診患者対応、不明熱など診断困難例の入院対応、多領域に渡る問題点を持つ他科入院患者のコンサルテーションや内科的管理、救急部と連携した ER 患者の診断などを中心に、教育熱心な指導医達から病院総合医としての基礎を習得できます。		
アピールポイント	○　高度な専門的医療と common disease の初期診療も広く担う急性期病院 ○　充実した診療科と指導医による、豊富な症例数 ○　救命救急センターであることから、救急症例も充実		
特色	1）当院での研修に加えて、新潟県内の多くの病院と連携しており、それぞれの地域に応じた多様な総合診療研修を経験することができます。 2）隣接する特別養護老人ホームや老人保健施設など福祉施設との連携が密であり、多職種間の協力体制も充実していることから、地域の中心施設としての診療を経験することが可能です。 3）いずれの地域も高齢化が進み、医療需要は増大してます。新潟県は医師不足の状況が続いており、今後ますます総合診療医の活躍すべきフィールドが広がってくることが期待できます。 上記での研修を通じて、病院総合医としても家庭医としても十分な技量を身に付けることが可能になります。		
指導医からのメッセージ	長岡市は人口 27 万人の中越地方の中核都市です。越後山脈を望む市内の中心を、日本を代表する大河信濃川が流れる自然豊かな街です。毎年 8 月 2・3 日に行われる長岡まつり大花火大会では 100 万人もの人が熱狂します。さらに長岡にはおいしい食べ物、日本酒がありま		

	す。研修中は様々なイベントなどにも参加して頂き、長岡の良さを実感頂ければ幸いです。
連携施設の病院名	新潟県立松代病院、新潟県立柿崎病院、魚沼市立小出病院、湯沢町保険医療センター、新潟県立妙高病院、魚沼基幹病院、新潟県立十日町病院、佐渡総合病院、新潟大学医歯学総合病院

研修コース

① 基本コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修1年目	長岡赤十字病院 or 佐渡総合病院 or 新潟県立十日町病院						長岡赤十字病院 or 佐渡総合病院 or 新潟県立十日町病院					
	内科						内科					
研修2年目	長岡赤十字病院 or 魚沼基幹病院 or 新潟県立十日町病院						長岡赤十字病院					
	総診Ⅱ						救急			小児科		
研修3年目	新潟県立松代病院・魚沼市立小出病院・新潟県立妙高病院・新潟県立柿崎病院、湯沢保健C						長岡赤十字病院 or 魚沼基幹病院 or 新潟県立十日町病院					
	総診Ⅰ（連携施設を選択）						総診Ⅱ					

※代表的なコース例です。

【連携施設での研修内容】

総合診療専門研修Ⅰ：県立松代病院、県立柿崎病院、市立小出病院、
湯沢町保険医療センター、県立妙高病院

総合診療専門研修Ⅱ：魚沼基幹病院、県立十日町病院

内科：佐渡総合病院、県立十日町病院

臨床疫学・社会疫学：新潟大学医歯学総合病院

② 週間スケジュールの例

※総合診療専門研修Ⅱの代表例

	月	火	水	木	金
午前	朝カンファレンス			内科朝合同カンファレンス	朝カンファレンス
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療
	総合診療科外来		総合診療科外来		総合診療科外来
午後	入院患者診療	内科検査	入院患者診療	総合診療科外来	入院患者診療
		総合診療科外来	救命救急センターオンコール対応		内救命救急センターオンコール対応

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修推進室・福井　大介
	電話連絡先	0258-28-3600
	ファックス	0258-28-9000
	メールアドレス	kensyu@nagaoka.jrc.or.jp
	プログラムのHPアドレス（※ある場合は記載）	http://www.nagaoka.jrc.or.jp/contents/organization/rinsho/kenshui01-2/

柏崎厚生病院

柏崎厚生病院　病院概況

所在地	新潟県柏崎市大字茨目字二ツ池 2071-1			
電話連絡先	0257-22-0111			
ＨＰアドレス	http://www.tatikawa.or.jp/kousei/			
標榜診療科目	精神科・内科・歯科			
病床数	300 床			
医師数	常勤	7 人	非常勤	6.1 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	808 人	
		１日平均患者数	290 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	3426 人	
		１日平均患者数	120 人	
病院の特徴等	柏崎厚生病院は、新潟県長岡市にある立川綜合病院を中心とする立川メディカルセンターに含まれる精神科と内科の病院で、主に新潟県中越の民間精神科病院として、精神障害者や認知症高齢者の治療およびリハビリを行ってきました。精神障害の人々の置かれている現在の状況は、まだ十分に充実しているとは言えません。それは治療方法の困難さはもとより、社会復帰にむけての諸施策が立ち遅れていることにも起因しています。私たちはその現状をふまえつつ、地域に根ざした精神科医療に率先して取り組んできました。職員も専門職としての医師、看護師はもとより多くのＰＳＷ・ＯＴ・心理職を擁してより充実したサービスの提供に努めています。また臨床的な連携は柏崎総合医療センターや立川メディカルセンターの各病院とも密接に行い、専門的な治療が必要な時にすぐ行えるのも特徴となっています。私たちはこれからも治療至上主義に陥ることなく、人権を尊重し社会で安心して生活できるよう、お手伝いをさせていただきたいと思います。本プログラムはその実績を踏まえ、民間精神科病院の特徴を生かし、地域医療を中心とした臨床精神医学、精神医療、精神保健福祉を学ぶことを念頭に作成されました。連携病院の三交病院、関病院、そして東京医科大学メンタルヘルス科と共に多彩な研修ができると考えています。			
アピールポイント	○　自然豊かな環境でゆったりと幅広く精神科領域の研修ができる。 ○　内科病棟も併設しており、身体疾患への対応も可能。 ○　専攻医の希望に沿った柔軟性に富んだ研修スケジュールが組める。			
施設等の紹介	当院は、精神科病床 240 床（精神科急性期治療病棟 34 床、精神療養病棟 106 床、認知症治療病棟 100 床）、内科病床 60 床を有する病院です。認知症疾患医療センターの指定を新潟県より受けており、周辺には老人保健施設米山爽風苑、指定障害福祉サービス事業所自在館、認知症老人グループホーム五楽庵、地域包括支援センター茨内があり、訪問看護など多職種によるアウトリーチ活動にも力を入れています。また当院は平成 16 年度から実施された医師臨床研修制度の当初から、立川綜合病院の協力型研修病院として多くの初期研修医や後期研修医の精神科臨床研修の場となってきました。現在も立川綜合病院や柏崎総合医療センターの協力型臨床研修病院だけではなく、東京医科大学の地域医療研修施設にもなっており、新宿区の東京医大病院から毎月数名の初期研修医が来ています。			

専門研修プログラム

プログラム名	立川メディカルセンター柏崎厚生病院 精神科領域専門医研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 年度募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	立川メディカルセンター柏崎厚生病院精神科　吉濵　淳		
研修概要	基本的には柏崎厚生病院で研修を行い、連携病院では 3 か月を基本期間として出張研修を行います。 三交病院では、薬物依存症を主な対象とした認知行動療法の志向をもつ外来の治療プログラムやアルコール関連問題等を持つ当事者ご本人の家族を対象とした CRAFT プログラムが行えます。 関病院では、外来で、不安障害の薬物療法や認知行動療法的アプローチを行う「不安ストレス専門外来」や女性特有の悩みに対し女性医師が診療する「女性のこころの専門外来」を開設しています。 東京医科大学メンタルヘルス科では、コンサルテーション・リエゾンサービス（CLS）を中心に学び、内科、外科、救命救急センターなど様々な科から依頼を受け、他科との連携、精神科治療にあたります。		
アピールポイント	○　余裕のあるスケジュールで、研修ができる。 ○　各連携病院で特徴のある研修が選べる。 ○　指定医、専門医の症例が豊富である。		
特色	各病院の特徴として共通して言えることは、それぞれの病院で幅広く精神医学、精神科医療、精神保健福祉について幅広く学べることであります。各指導医もそれぞれの研究分野を持ちながら幅広く臨床の中で技術を研鑽してきた職人的な医師がそろっています。また東京医科大学などの初期研修病院であり、臨床的な連携は近隣の柏崎総合医療センターや長岡市の立川綜合病院のとも密接に行い、専門的な治療が必要な時にすぐに対応できることも特徴としています。		
指導医からのメッセージ	臨床を現場で教えることはとても難しいことです。特に精神科は言葉だけで伝えることができない、教科書には載っていない、患者さんとの間、時間経過のとらえ方などがあります。また薬理や生理など生物学的な知識、心理学的の知識、司法など社会的な知識など幅広く学ばなければなりません。柏崎厚生病院にはみなさんの後輩である初期研修医が毎月入れ替わり来ています。みなさんにもその指導医になっていただき、共に教え学び、また我々もこれまでの経験を伝えていくことが専門医への道と考えています。		
連携施設の病院名	三交病院（新潟県上越市） 関病院（新潟県柏崎市） 東京医科大学メンタルヘルス科（東京都新宿区）		

研修コース

① 基本コース

1年目	2年目	3年目
柏崎厚生病院で精神科臨床の基礎的なマナーを学習し、基本的な問診、検査、心理教育の方法等を学ぶ。PSW,OT、看護助手などの多職種の業務も短期間体験し、チーム医療を学ぶ。	三交病院と関病院に出張研修し、各病院の特徴的な臨床を学ぶ。年 4 回の柏崎臨床精神医学研究会や学会主催の学術総会で研究の発表を行う。また発達障害など児童思春期疾患についても専門医より指導を受ける。	東京医科大学メンタルヘルス科にて CLS を学ぶ。精神鑑定に立会い、司法精神医学について学ぶ。精神保健指定医と精神科専門医の資格を取るための学習をする。

② 週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土
午前	院長外来初診問診・陪席	精神科デイケア業務	院長外来初診問診・陪席	病棟業務 院内勉強会	院長外来初診問診・陪席	休院日
午後	入院報告会・医局会 病棟業務	病統業務	病棟業務 当直(週1回)	病棟業務	病棟業務	

その他参考情報	年俸や年次有給休暇等については立川メデイカルセンターの規定に準拠する。 それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務する。各種学会への出席につき経費を施設より支給する。住宅は病院直近に研修医専用のアパートがあり、管理人や総務担当者が生活全般の相談・対応を行う。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	吉濵　淳
	電話連絡先	0257-22-0111
	ファックス	0257-22-0112
	メールアドレス	kouseihp@niigata-inet.or.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.tatikawa.or.jp/kousei/

国立病院機構新潟病院

国立病院機構新潟病院　病院概況

所在地	新潟県柏崎市赤坂町３－５２			
電話連絡先	０２５７－２２－２１２６			
ＨＰアドレス	http://www.niigata-nh.go.jp			
標榜診療科目	内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、リウマチ科、精神科、心療内科、放射線科、リハビリテーション科、歯科			
病床数	350			
医師数	常勤	２１人	非常勤	１人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	116,509 人	
		１日平均患者数	319.2 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	48,042 人	
		１日平均患者数	196.9 人	
病院の特徴等	当院は一般診療、救急医療、高度専門医療、政策医療（筋ジストロフィー医療、重症心身障害児者医療）などを通じて柏崎・刈羽地区および周辺地域の医療に日夜貢献しています。2014 年 7 月には免震構造 7 階建の新病棟の運用を開始し、最新型 MRI 装置、CT 装置、SPECT 装置などを備えています。神経内科は脳卒中の超急性期・急性期治療から回復期リハビリテーションまで一貫して行うとともに、社会復帰に向けた教育と支援を積極的に行っています。また、神経変性疾患などの神経難病や筋ジストロフィーを含む筋疾患の専門的医療と研究を行っています。小児科は小児診療の中核施設として一般診療、小児科救急診療を行っています。さらに、小児腎疾患、小児神経疾患の専門医療と全県下を対象として小児慢性疾患の専門医療を行っています。また、当院では遺伝医療にも力を入れており、遺伝カウンセリングや次世代シークエンサーを用いた遺伝子診断を行なっています。			
アピールポイント	○　各診療科間の垣根が低く、とても相談しやすい雰囲気の病院です。 ○　研究活動や学会活動を出張費等を含め手厚く支援します。 ○　ロボットスーツ HAL のリハビリテーションを行なっています。			
施設等の紹介	病児保育室あり、食堂あり、売店あり、ATM あり、職員宿舎あり			

専門研修プログラム

プログラム名	国立病院機構新潟病院　総合診療専門研修プログラム		
研修期間	３年	H31 募集人数	２名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	神経内科医長　大田 健太郎		
研修概要	国立病院機構新潟病院は基幹施設として、県内外の連携施設と共に研修プログラムを構成します。 病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ER 型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的としています。		
アピールポイント	○　当院は神経疾患全般に強く、神経疾患全般の診断、治療を研修することが可能です。 ○　仕事と生活の調和がとれている職場環境であり、無理なく研修を行うことができます。 ○　多種多様の連携病院があり、研修内容を選択することが可能です。		
特色	当院は他院と連携の元で柏崎市全域の医療を担い、乳児期から高齢者までの全人的医療を行っています。慢性期から急性期の医療を研修します。総合診療Ｉでは県内の施設で研修を行います。家庭医研修、へき地研修、神経難病患者の在宅医療、訪問診療および地域における活動等から、専攻医自身が選択し、深い学びを得ることが可能です。		
指導医からのメッセージ	急性期から慢性期まで内科、外科、小児科、神経内科の症例が豊富。研修指導が懇切丁寧で専門医の修得が容易。電子カルテシステム、画像システムを利用し退院病歴サマリーの作成が電子化されています。各専門科、臨床遺伝学や遺伝カウンセリングに関しても指導が受けられ、次世代シーケンサーを用いた DNA 解析などの最新の機器の利用と診断技術が学べます。最新の呼吸療法が学べます。各種治験、臨床研究にも参加可能です。総回診、症例検討会、セミナーも開催され、専門医試験対策や学会発表指導も受けられます。		
連携施設の病院名	・独立行政法人国立病院機構東京医療センター ・湯沢町保健医療センター（町立湯沢病院） ・新潟県立妙高病院 ・清華ファミリークリニック ・医療法人社団笹川医院		

研修コース

① 基本コース

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	NHO 新潟病院											
	領域	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	NHO 新潟病院			NHO 東京医療センター			NHO 新潟病院					
	領域	小児科	小児科	小児科	救急	救急	救急	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	NHO 新潟病院						＊					
	領域	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ

NHO 新潟病院：国立病院機構新潟病院、

NHO 東京医療センター：国立病院機構東京医療センター

＊は湯沢保健医療センター、新潟県立妙高病院、清華ファミリークリニック、医療法人社団笹川医院のいずれか一つを選択

② 週間スケジュールの例

総合診療科（総合診療専門研修Ⅱ）

		月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00	朝カンファレンス	■	■	■	■	■		
9:00-12:00	病棟業務	■	■	■	■	■		
13:00-17:00	総合診療外来(初診、再来)		■		■			
13:00-16:00	症例カンファレンス				■			
17:00-18:00	抄読会、研究発表				■			
	平日宿直(1回/週)、土日の日直・宿直(1 回/月)	■		■			■	■

内科

		月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00	朝カンファレンス	■	■	■	■	■		
9:00-12:00	病棟業務	■		■				
9:00-12:00	消化器分野研修				■			
9:00-12:00	呼吸器分野研修					■		
9:00-12:00	神経内科分野研修		■					
13:00-17:00	総回診および症例検討	■						
13:00-17:00	リウマチ膠原病分野研修			■				
13:00-17:00	総合診療外来					■		
13:00-17:00	病棟業務		■		■			
17:00-18:00	抄読会、研究発表(適宜)				■			
	平日宿直(1回/週)、土日の日直・宿直(1 回/月)	■		■			■	■

参考として総合診療科、内科研修を例示。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	職員係長　古越　大介
	電話連絡先	0257-22-2126
	ファックス	0257-24-9812
	メールアドレス	225-syokuinkkc@mail.hosp.go.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.niigata-nh.go.jp/html/bosyuu/kensyu.html

魚沼基幹病院

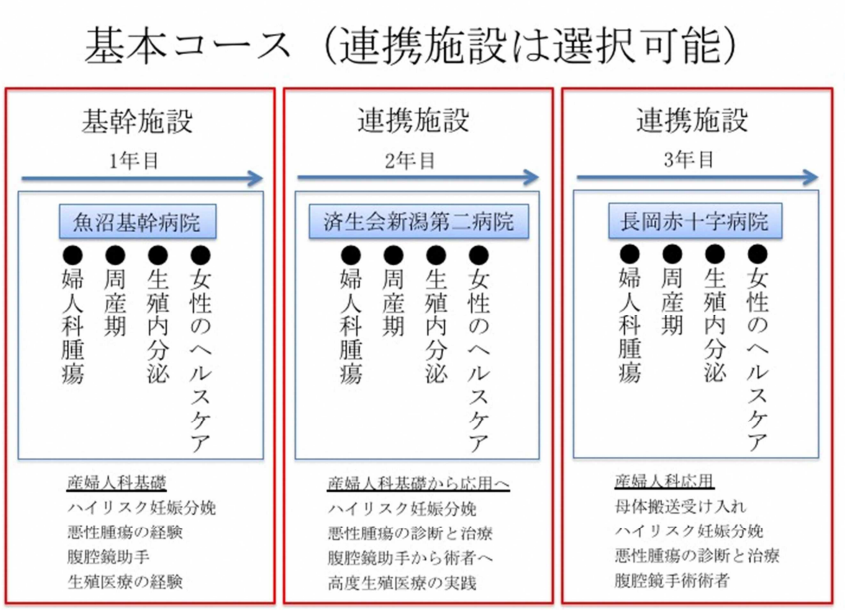
魚沼基幹病院　病院概況

所在地	新潟県南魚沼市浦佐 4132 番地			
電話連絡先	025-777-3200			
ＨＰアドレス	http://www.uonuma-kikan-hospital.jp/			
標榜診療科目	総合診療科、循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、呼吸器・感染症内科、消化器内科、神経内科、精神科、小児科、消化器外科・一般外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科（※）、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、矯正歯科、歯科口腔外科、病理診断科 ※現在診療を行っておりません			
病床数	454 床			
医師数	常勤	80 人	非常勤	7.4 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	95,423 人	
		１日平均患者数	261.4 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	187,092 人	
		１日平均患者数	766.8 人	
病院の特徴等	従来医療過疎圏であった魚沼地域に、地域医療再編の要として新たに作られた病院である。当院は、従来隣接する医療圏に送らざるを得なかった三次救急患者や高度医療を必要とする患者を受け入れる。また、今回の再編で慢性期病床へ変遷した周辺病院、開業医および介護施設などと協力し、「地域でひとつの病院」としてこの地域で完結できる医療を目指している。			
アピールポイント	○　新潟大学魚沼地域医療教育センター併設による診療機能向上 ○　24 時間対応 ER 型救命救急・外傷センター開設 ○　総合診療専門医、総合診療の知識、技術、使命感を持った専門医の養成			
施設等の紹介	院内保育所、職員食堂、売店（セブンイレブン）完備 病院隣接地の研修医宿舎（1K または DK）を使用可能。			

プログラム名	魚沼基幹病院産婦人科研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類		
プログラム責任者	診療部産婦人科　加嶋　克則		
研修概要	地域周産期母子医療センターとして NICU を備え、合併症妊娠、多胎妊娠などを管理することが可能で、高度な周産期医療を行っている。婦人科腫瘍領域では婦人科悪性腫瘍に対する手術、化学療法、放射線治療を行い、婦人科良性疾患に対しては、幅広く腹腔鏡下手術を行っている。更年期・思春期の外来患者数も多く、女性のヘルスケア領域の研修を行うことが可能である。また、当院では体外受精・顕微授精を施行していないが、連携施設での生殖・内分泌領域の研修が可能である。		
アピールポイント	○　3D 腹腔鏡手術システムを用いた腹腔鏡下手術 （腹腔鏡下子宮体癌根治手術・腹腔鏡下仙骨腟固定術を含む） ○　○適応を満たした場合は骨盤位経腟分娩		
特色	新潟県内に専門領域が異なる 12 の連携施設が存在し、1 年あるいは 6 ヶ月毎に研修することで、様々な地域で多くの指導医のもとでの研修が可能である。		
指導医からのメッセージ	当院は 2015 年 6 月に開院し、新潟県魚沼地域の医療の中心的役割を果たしている病院です。自然に囲まれた当院で、多くの指導医と一緒に、楽しく産婦人科の研修を行いましょう。 		
連携施設の病院名	新潟市民病院・済生会新潟第二病院・県立がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院・長岡中央綜合病院・立川綜合病院 新潟県立新発田病院・新潟県済生会三条病院 新潟県立中央病院・村上総合病院・上越総合病院・佐渡総合病院		

研修コース

① 基本コース



② 週間スケジュールの例

	8:35	9:00	13:00	17:00
月曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会
火曜日	病棟連絡会	外来・病棟実習	外来・病棟実習	周産期 カンファレンス
水曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会
木曜日	病棟連絡会	外来・病棟実習	外来・病棟実習	病棟連絡会
金曜日	病棟連絡会	手術・病棟実習	手術・病棟実習	病棟連絡会

その他参考情報	・日本周産期・新生児医学会　母体・胎児認定指定施設 ・日本産科婦人科内視鏡学会　認定研修施設 ・新潟県医師会母体保護法施設 ＊日本周産期新生児医学会母体胎児専門医・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・日本生殖医学会生殖医療専門医・日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡）・母体保護法指定医が常勤	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	産婦人科部長　加嶋　克則
	電話連絡先	025-777-3200
	ファックス	025-777-5067
	メールアドレス	kashimak@med.niigata-u.ac.jp
	プログラムのＨＰアドレス	www.jsog.or.jp

県立十日町病院

県立十日町病院　病院概況

<table>
<tr><td>所在地</td><td colspan="4">十日町市高田町三丁目南 32-9</td></tr>
<tr><td>電話連絡先</td><td colspan="4">025-757-5566</td></tr>
<tr><td>ＨＰアドレス</td><td colspan="4">http://www.tokamachi-hosp-niigata.jp/</td></tr>
<tr><td>標榜診療科目</td><td colspan="4">内科、神経内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、小児科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科</td></tr>
<tr><td>病床数</td><td colspan="4">275 床</td></tr>
<tr><td>医師数</td><td>常勤</td><td>24 人</td><td>非常勤</td><td>3.7 人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">患者数</td><td rowspan="2">入院(H29 年度)</td><td>年間延べ患者数</td><td colspan="2">78,914 人</td></tr>
<tr><td>１日平均患者数</td><td colspan="2">216.2 人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外来(H29 年度)</td><td>年間延べ患者数</td><td colspan="2">113,174 人</td></tr>
<tr><td>１日平均患者数</td><td colspan="2">463.8 人</td></tr>
<tr><td>病院の特徴等</td><td colspan="4">当院は新潟県内の中山間地にあり、越後妻有地区(十日町市、津南町、長野県栄村)に住む 68000 人の命を預かる地域中核病院です。以前から救急告示病院として全科対応の救急医療を実践していましたが、中越地震を契機として、災害拠点病院としてのさらなる拡充、DMAT 配備、2016 年には院内に十日町地域救急ステーションが設置されました。
地域の救急を一手に担う自負があり、科の垣根を越えて診療にあたる毎日です。</td></tr>
<tr><td>アピールポイント</td><td colspan="4">○　十日町市から年額 100 万円の貸与制度(1 年間勤務で返還免除)
○　院内ステーションを通じ、救急隊との密な連携
○　断らない救急、地域救急の 8 割が当院へ</td></tr>
<tr><td>施設等の紹介</td><td colspan="4">・　研修医専用室、Wi-Fi 完備、院内にコンビニあり
・　Up To Date、医中誌 Web 利用可能
・　家賃補助あり
・　十日町市から年額 100 万円の研究資金補助(最大 3 年間)あり。
・　成果物不要で、1 年間十日町市内に勤務すると変額が免除される制度あり。</td></tr>
</table>

専門研修プログラム

プログラム名	新潟県立十日町病院総合診療専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	内科部長　齊藤　悠		
研修概要	新潟県立十日町病院総合診療専門研修プログラムは病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ＥＲ型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的として創設されました。専攻医は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する総合診療専門医になることを目指します。		
アピールポイント	○　新潟県内の複数の県立病院と連携 ○　個人のニーズに合わせて施設を選択できる ○　救急症例 8000 件/年(うち救急車 2000 件/年)と豊富な症例		
特色	豊富な一般症例・救急症例を持ち、救急に強い総合診療専門医を目指すことができます。その上で、県内の救命センターを有する施設と連携しているため更なる高度な救急医療を学ぶことができます。また、小規模病院での研修では医療・介護・福祉・行政との連携を学び、地域医療を最先端で学ぶことができます。		
指導医からのメッセージ	各臓器別専門医だけでなく、ゲートキーパーのスペシャリストが必要とされる時代となりました。一生学びは終わりませんが、当プログラムを通して全人的に患者さんを診ることのできる医師を一緒に目指しましょう。 (プログラム責任者　齋藤悠)		
連携施設の病院名	新潟大学医歯学総合病院、県立新発田病院、県立中央病院、魚沼基幹病院、県立吉田病院、県立坂町病院、県立松代病院、県立妙高病院、県立津川病院		

研修コース

① 基本コース

コース例１（十日町圏域重点）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目 後期研修	新潟県立十日町病院											
	総合診療専門研修Ⅱ											
2年目 後期研修	新潟県立十日町病院											
	内科											
3年目 後期研修	新潟県立十日町病院			新潟県立松代病院						魚沼基幹病院		
	小児科			総合診療専門研修Ⅰ						救急		

コース例２（多医療圏）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目 後期研修	新潟県立新発田病院											
	内科						小児科			救急科		
2年目 後期研修	新潟県立津川病院						新潟県立坂町病院					
	総合診療専門研修Ⅰ						内科					
3年目 後期研修	新潟県立十日町病院											
	総合診療専門研修Ⅱ											

② 週間スケジュールの例

週間スケジュール例

	月	火	水	木	金	土	日
9:00-13:00 総合診療外来							
9:00-13:00 病棟業務+救急当番							
14:00-18:00 病棟業務 （午後検査） 週１回+救急当番		14:00-16:00 総回診 (内科と合同)		17:00-18:00 カルテ診察 (内科と合同)			
平日内科拘束 or 宿直（1-2 回/週）、 土日日直・宿直 or 拘束（2 日/月							

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	庶務課　外立仁司
	電話連絡先	０２５－７５７－５５６６
	ファックス	０２５－７５２－３９５５
	メールアドレス	shomu@tokamachi-hosp-niigata.jp

県立中央病院

県立中央病院　病院概況

所在地	新潟県上越市新南町２０５			
電話連絡先	025-522-7711（代表）			
ＨＰアドレス	http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/			
標榜診療科目	内科、循環器内科、神経内科、消化器内科、小児科、外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、精神科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、形成外科、病理診断科、救急科			
病床数	530 床（一般 524 床、感染症 6 床）			
医師数	常勤	109 人	非常勤	3.7 人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	165,142 人	
		１日平均患者数	452 人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	265,475 人	
		１日平均患者数	1,088 人	
病院の特徴等	新潟県上越地方最大の基幹病院で、救命医療、癌医療、脳血管障害、周産期・新生児医療、人工透析などの地域最終医療センターの役割を果たしています。特殊施設として、救命救急センター（ＩＣＵ　８床・ＣＣＵ　４床）、ＮＩＣＵ（６床）、無菌治療室（２床）、人工透析室（４０床）を持ち、ＣＴ、ＭＲＩ、ガンマカメラ、PET-CT、リニアック、体外衝撃波結石破砕装置などの高度医療機器を備えています。また、内科学会、外科学会など１８件の学会指定の教育病院となっています。			
アピールポイント	○　高度先進医療への対応 ・がん医療～無菌室の設置、定位放射線治療装置、外来化学療法室の設置 ・新生児医療～NICU の設置 ・手術部門～無菌手術室を含む９室の手術室 ○　救命救急センターの設置 ・１次から３次救急 ・災害拠点病院として DMAT も活躍 ○　機能的な部門間の連絡体制 ・電子カルテシステム整備 ・地域連携センター設置			

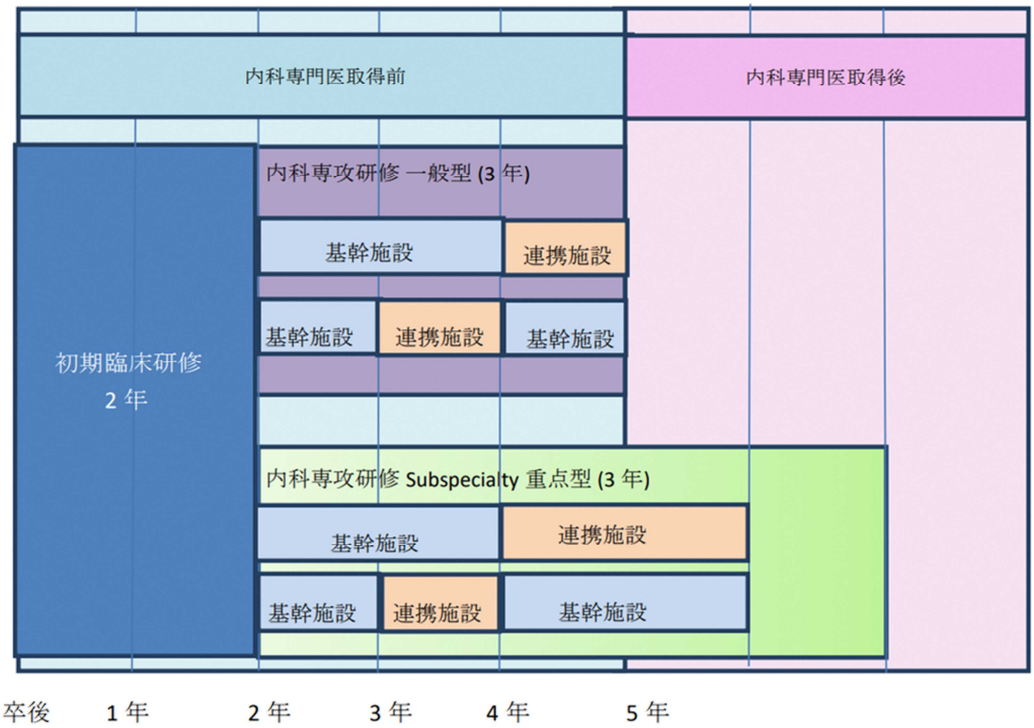
施設等の紹介	○公舎提供あり（民間アパート・マンション） ○食堂・売店あり（弁当宅配利用可） ○図書室 （24 時間開放、国内図書 約 4,000 冊、国外図書 約 1,000 冊、国内雑誌 約 100 種類、国外雑誌 53 種類、Up To Date、文献データベース、教育用コンテンツ） ○院内保育所あり

専門研修プログラム

プログラム名	内科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	5 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	新潟県立中央病院内科　副院長　永井孝一		
研修概要	本プログラムは，新潟県上越医療圏の中心的な急性期病院である新潟県立中央病院を基幹施設として，新潟県上越医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て新潟県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として新潟県全域を支える内科専門医の育成を行います. 研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります.		
アピールポイント	○　上越地域の基幹病院での急性期症例を中心とした内科研修 ○　高齢化社会を反映した内科各分野の幅広い研修と専門研修 ○　地域連携病院での慢性期疾患の管理と病病連携		
特色	本プログラムは，新潟県上越医療圏の中心的な急性期病院である新潟県立中央病院を基幹施設として，新潟県上越医療圏にある連携施設（厚生連上越総合病院、県立柿崎病院）および新潟県新潟市にある新潟大学医歯学総合病院とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます.		
指導医からのメッセージ	新潟県立中央病院は内科各分野および救急医療の専門医が内科全般を幅広く実践的に研修指導します。また内科全体での検討会を週 1 回開催し、診断困難症例、難治症例などに対して各分野の専門医が意見を出し合いながら、症例検討を行っています。		
連携施設の病院名	厚生連上越総合病院 新潟県立柿崎病院 新潟大学医歯学総合病院		

研修コース

① 基本コース



② 週間スケジュールの例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科各科　朝カンファレンス(Subspecialty)					担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会/学会参加など	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	内科外来診療(総合/新患)	内科検査(各診療科Subspecialty)	内科外来診療(各診療科Subspecialty)	内科検査(各診療科Subspecialty)	内科検査(各診療科Subspecialty)		
午後	入院患者診療	内科検査(各診療科Subspecialty)	内科検査(各診療科Subspecialty)	入院患者診療	救命救急センターオンコール		
			内科総合検討会	CPC/講習会	講習会/研究会/講演会		
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など						

その他参考情報	新潟県立中央病院内科専門研修プログラムのほかに、新潟大学が実施しているオール新潟内科専門研修プログラムにも参加しています。現在新潟大学から内科専門医研修目的で 3 名の内科医師が研修中です。	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	庶務課・森山隆太
	電話連絡先	025-522-7711
	ファックス	025-521-3720
	メールアドレス	shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/chuumoku/ senkoui_boshu.html

専門研修プログラム

プログラム名	総合診療科専門研修プログラム		
研修期間	3 年	H31 募集人数	1-2 名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	内科　・　古川　俊貴		
研修概要	本プログラムは新潟県上越地方を中心として、継続的にその地域に関わり、県立病院群を中心とした医療連携などを通し、地域の実情を理解し、地域のニーズに即した医療を構築・実践できる医師を養成します。ここで養われる力は、場所や状況が変わっても同じように発揮できるものです。また、小規模・地域医療病院から広域基幹・地域医療支援病院、外来から入院まで、幅広い診療の場で、大部分の健康問題に対応する実践的な診療能力を身につけます。人間中心の医療・ケア、包括的統合アプローチ、連携重視のマネジメント、地域志向アプローチなど、総合診療医・家庭医として重要な能力とともに、医師としてのプロフェッショナリズムや人間性を重視し、継続的に養います。		
アピールポイント	○　各診療科、病院間の垣根が低く、コンサルテーションしやすい環境です。 ○　新潟県立中央病院は上越地方の基幹病院であり、多種多様な疾患を診療できます。 ○　研修内容は、希望に応じて柔軟に対応可能です。		
特色	新潟県立中央病院は上越地方の平野部に位置する救急救命センターと NICU を併設した 534 床の広域基幹・地域医療支援病院で、高度医療や災害医療を行うとともに、周辺地域の二次医療の中心を担っています。新潟県立柿崎病院、新潟県立妙高病院、新潟県立松代病院の 3 病院は高齢化・過疎化が進んだ上越地方の海岸部、豪雪山間部に位置する地域医療病院です。高齢化率 30～40%台のへき地を抱え、地域に特徴的な医療を展開しその中核を担っています。これら 4 つの県立病院群を中心に、他の病院、診療所・開業医と連携し、上越地方全体の地域医療を構築しています。また、上越圏域外の病院も研修病院に含み、新潟県の医療を広く見据える研修も可能となっています。		
指導医からのメッセージ	上越地方は新潟県の南西に位置し、北陸新幹線などにより三大都市圏との交通ネットワークが整った地方です。四季の変化、美しい景観や多様な自然に恵まれ、とてもいいところです。生活も楽しみながら、私たちと一緒に働いてみませんか。		
連携施設の病院名	県立柿崎病院、県立妙高病院、県立松代病院、県立津川病院、県立十日町病院、厚生連佐渡総合病院、県立新発田病院、県立がんセンター新潟病院、県立精神医療センター、厚生連糸魚川総合病院		

研修コース

① 基本コース

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	新潟県立中央病院・十日町病院、佐渡総合病院のいずれか											
	領域	内科											
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	新潟県立中央病院・十日町病院（小児科、総診 II）のいずれか											
	領域	小児科			救急			総合診療 II					
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	新潟県立柿崎病院・妙高病院・松代病院・津川病院、佐渡市立両津病院のいずれか											
	領域	総合診療 I											

希望や事情により、プログラムに準ずる範囲でローテーションは変更・休止可能です。
研修先は、随時更新しています。詳細はお問い合わせ下さい。

② 週間スケジュールの例

総診 II の一例

希望に応じて、柔軟に調整可能です。

	月	火	水	木	金	土・日
8:30-9:00	毎朝カンファで症例検討					適宜拘束番、月 0-1 回程度日直
9:00-12:00	外来	上部消化管内視鏡	病棟	外来	腹部エコー	
12:45-17:15	病棟	他科入院症例の往診	自由研修	病棟	検討会/抄読会	
夜	適宜拘束番、月 1-2 回程度当直					

その他参考情報	平成 30 年度は 1 名採用し、研修中です。	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	庶務課・森山隆太
	電話連絡先	025-522-7711
	ファックス	025-521-3720
	メールアドレス	shomu@cent-hosp.pref.niigata.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp/chuumoku/senkoui_boshu.html

上越総合病院

上越総合病院　病院概況

所在地	新潟県上越市大道福田 616 番地			
電話連絡先	025-524-3000　（内線 3701）			
ＨＰアドレス	https://joetsu-hp.jp/			
標榜診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、循環器内科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、腎・糖尿病内科、放射線治療科、乳腺外科、歯科・口腔外科			
病床数	318			
医師数	常勤	67　人	非常勤	6.7　人
患者数	入院(H29 年度)	年間延べ患者数	98,448　人	
		１日平均患者数	269.7　人	
	外来(H29 年度)	年間延べ患者数	204,479　人	
		１日平均患者数	838.0　人	
病院の特徴等	新潟県上越二次医療圏の急性期基幹病院です。急性期のみならず病院の理念に「医療を通じて上越地域の発展に貢献する」と謳い、地域に根付いた医療を実践しています。地域のニーズに応え、救急部門では一次から二次、一部三次救急まで幅広い救急医療を提供しています。また、教育研修センターを設置して職種を問わず医療人の人材教育に力を入れています。初期研修、専門研修でも、研修の成果が挙がるように強力にサポートします。			
アピールポイント	○　多大学から集まる医局：各診療科の垣根が低く診療連携が取りやすい環境です。多様な考え方から新しい文化が生まれます。 ○　福利厚生が充実：職員の健康管理がきちんとなされています。同好会活動（テニス・野球・バトミントン・華道等）や院内親睦会行事も盛んです。 ○　女性医師サポートあり：院内保育所があります。また他の保育所利用やベビーシッターに係る費用の助成制度もあります。専用の休憩スペース、シャワー室があります。			
施設等の紹介	 ・　院内は明るく清潔な働きやすい環境です。 ・　研修に必要な図書室やインターネット環境（電子ジャーナル）などを完備しています。文献検索サイトもあります。 ・　院内保育所があり、女性医師の働き方をサポートします。 ・　教育研修センターを有し、卒前卒後の医師教育や職員のスキルアップを支援しています。 ・　住居は、病院から徒歩圏内で斡旋いたします。病院借上げ住宅ですので、面倒な手続きは不要です。			

専門研修プログラム

プログラム名	上越総合病院内科専門研修プログラム		
研修期間	3　年	H31 募集人数	3　名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	副院長・内科部長　佐藤　知巳		
研修概要	本プログラムは、富山県、長野県に接して新潟県西南部に位置する上越糸魚川医療圏の中心的な急性期病院の一つである上越総合病院を基幹施設として、上越糸魚川医療圏ならびにこれまで連携を行ってきた新潟県、富山県、長野県の連携施設・特別連携施設とともに研修を行います。 専攻医は本プログラム専門研修施設群で３年間（基幹施設１年+連携施設及び特別連携施設１年+選択１年）に豊富な経験を持つ指導医の適切な指導の下で研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を行います。研修を通じて標準的かつ総合的な内科的医療の実践に必要な知識・技能・態度を身につけます。また、個人のサブスペシャリティ専攻に合わせ、より習熟した専門領域の研修も行われます。		
アピールポイント	○　上越総合病院では医師派遣が多大学の医局からあり、文化の違いに刺激があり、診療科の垣根が低く診療連携が取りやすい。 ○　連携施設が多く、研修の場の選択肢が広がる。 ○　教育研修センターが研修の成果が挙がるようサポートします。		
特色	基幹施設である上越総合病院では循環器、呼吸器、消化器、神経、腎・糖尿病のサブスペシャリティをはじめ、コモンディジーズから老年医療、複数の病態を併せ持つ複雑な症例、診断困難症例などを総合内科診療科で経験可能です。厚生連病院として地域に根ざした第１線の医療を行っており、医療を通じて上越地域の発展に貢献するという理念のもと、急性期から慢性期まで幅広い領域に係る研修ができます。救急は二次救急、一部三次救急までを担っており、救急車受入実績は 2016 年度 2,434 件、2017 年度 2,790 件です。walk-in 救急患者は 2016 年 4,154 件、2017 年度 3,905 件です。半数程度は内科系救急であり、十分な症例を経験できます。 連携施設は新潟、富山、信州の各大学病院に加え、近隣の中核医療施設で構成され、基幹施設で経験が困難な領域の研修や、サブスペシャリティー研修の場となります。特別連携施設は地域の第一線での医療を行っている近隣施設で構成され、主に地域医療の研修の場となります。 教育研修センターを有し「学習者第一」の視点で卒前卒後の医師教育や職員のスキルアップを支援しています。		
指導医からのメッセージ	当院は上越医療圏の基幹病院として救急医療から急性期疾患、そして慢性期疾患（高齢者、終末期）、地域医療といった様々な医療現場を経験することができます。 また、総合診療にも力を入れており、ジェネラリストを目指す研修も可能です。病院全体で若手医師の育成に取り組んでいる当院での研修をぜひご検討ください。		
連携施設の病院名	連携施設：新潟県立中央病院、柏崎総合医療センター、新潟大学医歯学総合病院、富山大学附属病院、信州大学医学部附属病院、糸魚川総合病院 特別連携施設：上越地域衣装センター病院、知命堂病院、けいなん総合病院、新潟県立柿崎病院、新潟県立妙高病院、新潟県立松代病院		

研修コース

① 基本コース

○ 内科総合コース

（ホスピタリストコースと地域医療コースがあります）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科1		内科2		内科3		内科4		内科5		内科6	
	外来診療											
	基幹施設（上越総合病院）											
2年次	内科7						地域医療					
	外来診療は連携施設の状況で考慮						外来診療					
	連携施設						特別連携施設					
3年次	選択											
	外来診療は基幹施設では推奨、連携施設・特別連携施設では施設毎に判断											
	基幹施設（上越総合病院）または連携施設、特別連携施設のいずれか											

○ 内科サブスペシャリティコース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科1		内科2		内科3		内科4		内科5		内科6	
	外来診療											
	基幹施設（上越総合病院）											
2年次	内科7						地域医療					
	外来診療は連携施設の状況で考慮						外来診療					
	連携施設						特別連携施設					
3年次	サブスペシャリティ研修											
	外来診療は基幹施設では推奨、連携施設では施設毎に判断											
	基幹施設（上越総合病院）または連携施設											

② 週間スケジュールの例

上越総合病院（総合内科・救急）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	朝カンファレンス	総回診	朝カンファレンス	抄読会	朝カンファレンス	・必要に応じて担当入院患者診療 ・拘束担当医の場合 病棟患者診療/オンコールなど ・講習会・学会参加 ・日当直	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	ER診療	内科外来	ER診療	内科外来	ER診療		
午後	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	内科時間外 外来診療	ER診療	病棟他職種 カンファレンス	ER診療	内科時間外 外来診療		
	症例検討会	症例検討会	症例検討会	症例検討会	症例検討会		
夜	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など						

・診療科ごとにスケジュールは異なります。
・スケジュール作成に際しては、専攻医の希望を考慮し、相談のうえ決定します。
・入院患者診療には、各診療科の入院患者の診療を含みます。
・外来患者診療は、一般内科外来でプログラム開始時に日程を決めます。ローテートする診療科との時間的な調整が必要な場合には日程の変更を考慮することがあります。
・日当直や夜間・休日の待機当番などは内科の一員として担当します。これら時間外の研修に際しては、過重労働にならないよう代休などの配慮をします。基幹施設である上越総合病院は週休二日制です。
・連携施設における時間外研修は、施設の状況によって異なります。
・CPC、地域参加型カンファレンス、各種講習会などは随時開催され、事前にアナウンスをします。学会や院外の研究会などは、各々の開催日に参加します。

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修センター・佐藤真由美
	電話連絡先	025-524-3000
	ファックス	025-524-3002
	メールアドレス	rinsho@joetsu-hp.jp
	プログラムのＨＰアドレス	https://joetsu-hp.jp/latter_resident/

専門研修プログラム

プログラム名	上越総合病院総合診療専門研修プログラム		
研修期間	3　年	H31 募集人数	3　名
選考方法	書類　・　面接		
プログラム責任者	総合診療科部長　大堀　高志		
研修概要	本プログラムでは、7 つの資質・能力（①包括的総合アプローチ②一般的な健康問題に対する診療能力③患者中心の医療ケア④連携重視マネジメント⑤地域包括ケアを含む地域志向アプローチ⑥公益に資する職業規範⑦多様な診療の場に対する能力）を獲得することを目指しています。 当院は、総合診療科を有しており、臓器別でない病棟診療（高齢入院患者や心理･社会･倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌、非癌患者の緩和ケア等）と臓器別でない外来診療（救急や複数の健康問題をもつ賢者への包括的ケア）を提供することができる総合診療専門医の育成を目指します。		
アピールポイント	○　上越総合病院では医師派遣が多大学の医局からあり、文化の違いに刺激があり、診療科の垣根が低く診療連携が取りやすい。 ○　連携施設が多く、研修の場の選択肢が広がる。 ○　教育研修センターが研修の成果が挙がるようサポートします。		
特色	新潟県の南西部に位置する上越地域は、北陸新幹線開通を機に首都圏からの高齢者の移住先として注目されています。また上越地域は、新潟県の中でも高齢化や過疎化が進んでおり、包括的視点からの医療ニーズが極めて高くなっています。当プログラムは、基幹施設である上越総合病院と新潟県および北陸 3 県の医療機関を含む広域な連携施設でも研修が展開されます。		
指導医からのメッセージ	2016 年 4 月より当院の総合診療科で勤務しています。入院患者の年齢層はどんどん高くなっています。高齢者の診療の際、決まって困ることは治療に手間取ったわけでないのに①立てなくなる、②肺炎を起こす、③尿道カテーテル抜去後自尿が出なくなる、④夜大騒ぎをするのです。そのたびに専門医に伺いを立てられません。必然的に総合診療に仕事がやってきます。まさにこの地域が高齢化医療の最先端です。 総合診療科は、ドクターG のように難解な病気を一発で診断できるようになることも大事ですが、高齢者医療でよく遭遇する上記問題を面倒くさいと言わない医師に育ってもらいたいと日々後輩の指導を行っています。		
連携施設の病院名	新潟県厚生連糸魚川総合病院、新潟県厚生連けいなん総合病院、 新潟県立柿崎病院、新潟県立妙高病院、新潟県立松代病院、上越地域医療センター病院、三交病院、湯沢保健医療センター、清華ファミリークリニック、揚石医院内科小児科循環器科、新潟大学医歯学総合病院、北陸総合診療コンソーシアム連携病院（※）		

※北陸総合診療コンソーシアム連携施設（38 施設）
公立穴水総合病院、恵寿ローレルクリニック、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、石川県立中央病院、城北病院、市立敦賀病院、珠洲市総合病院、市立輪島病院、市立輪島病院舳倉診療所、公立宇出津総合病院、公立穴水総合病院兜診療所、公立能登総合病院、恵寿総合病院、町立宝達志水病院、公立羽咋病院、河北中央病院、金沢市立病院、国立病院機構金沢医療センター、公立松任石川中央病院、公立つるぎ病院、
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院、石川県済生会金沢病院、北陸病院、金沢赤十字病院、浅ノ川総合病院、けんろく診療所、紺谷内科婦人科クリニック、小松市民病院、能美市立病院、芳珠記念病院
加賀市医療センター、寺井病院、富山協立病院、水橋診療所、光陽生協クリニック、光陽生協病院
つるが生協診療所

研修コース

① 基本ローテーション

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目	内科											
	上越総合病院											
2年目	総合診療専門研修Ⅱ						小児科			救急科		
	上越総合病院						上越総合病院					
3年目	総合診療専門研修Ⅰ						総合診療専門研修Ⅱ					
	連携施設						上越総合病院					

※日本専門医機構認定プログラムでは、内科研修を1年以上、小児科、救急科を必須の研修科としています。

※総合診療専門研修はへき地で1年以上の研修を行うこととなりますが、基幹施設のある上越市、連携施設がある糸魚川市、十日町市、その他北陸総合診療コンソーシアム内においてもへき地と定められた研修施設は複数あります。

② 週間スケジュールの例

基幹施設（上越総合病院）総合診療科（総合診療専門研修Ⅱ）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 モーニングカンファレンス							
8:30-12:00 総合診療科外来							
8:30-12:00 病棟業務							
13:00-16:00 救急外来							
13:00-16:00 病棟業務							
16:00-17:00 症例カンファレンス・抄読会							
平日宿直 2-3 回/月、土日の日直・宿直 1-2 回/月							

午前中の総合診療科外来の担当曜日、午後の救急外来担当曜日は、他の専攻医の状況に応じて、研修開始前にプログラム統括責任者と協議のうえ決定します。これらの担当でない曜日は病棟業務となります。

内科（循環器内科を一例として示す）

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:30 総回診							
8:30-12:00 外来（主として新患を担当）							
8:30-12:00 病棟業務							
13:00-16:00 午後検査							
13:00-16:00 病棟業務							
16:00-17:00 症例カンファレンス							
平日宿直 2-3 回/月、土日の日直・宿直 1-2 回/月							

外来の曜日は変更する場合があります。

参考情報	日本病院会認定「上越総合病院 病院総合医育成プログラム」を有しています。	
問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	教育研修センター・佐藤真由美
	電話連絡先	025-524-3000
	ファックス	025-524-3002
	メールアドレス	rinsho@joetsu-hp.jp
	プログラムのＨＰアドレス	https://joetsu-hp.jp/latter_resident/

米盛川総合病院

<table>
<tr><td>所在地</td><td colspan="4">新潟県糸魚川市竹ヶ花 457 番地 1</td></tr>
<tr><td>電話連絡先</td><td colspan="4">025-552-0280</td></tr>
<tr><td>ＨＰアドレス</td><td colspan="4">http://www.itoigawa-hp.jp/index.php</td></tr>
<tr><td>標榜診療科目</td><td colspan="4">内科・循環器内科・消化器内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・消化器外科・小児外科・気管食道外科・肛門外科・整形外科・脳神経外科・精神科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・救急科</td></tr>
<tr><td>病床数</td><td colspan="4">261 床</td></tr>
<tr><td>医師数</td><td>常勤</td><td>43 人</td><td>非常勤</td><td>59 人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">患者数</td><td rowspan="2">入院(H29 年度)</td><td>年間延べ患者数</td><td colspan="2">88,852 人</td></tr>
<tr><td>１日平均患者数</td><td colspan="2">243 人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外来(H29 年度)</td><td>年間延べ患者数</td><td colspan="2">158,867 人</td></tr>
<tr><td>１日平均患者数</td><td colspan="2">651 人</td></tr>
<tr><td>病院の特徴等</td><td colspan="4">糸魚川総合病院は糸魚川市で唯一の総合病院です。地域の診療所や福祉施設と協力して地域住民の健康と福祉、保健活動を行っており、多くの紹介患者を受け入れるとともに、市内で発生する救急件数の約9割は当院へ搬送され、この半ば隔絶された地域において2.5次までの医療を精力的に地域住民に提供しています。領域は小児から高齢者までのあらゆる世代に及び、しかも高齢化率が36％という高齢化地域であるために複数の疾患を併せ持つ患者を診療することが多く、総合診療医は、この地域にはなくてはならない存在です。研修に当たっては、「はつらつ健康都市」を提唱している糸魚川市、そこに居住する地域住民、JAひすいを含む各種団体、ボランティアや当院の全職員等の理解と協力のもとで研修できる環境を整えています。</td></tr>
<tr><td>アピールポイント</td><td colspan="4">○　内科においては、循環器、消化器、腎臓病などの診療グループを持ち、地域への専門医療を提供
○　小児科においては、乳幼児健診、予防接種、幅広い外来診療、病棟診療を提供
○　救急部においては、重度外傷への救急医療から ER 救急まで幅広い救急医療を提供している。</td></tr>
<tr><td>施設等の紹介</td><td colspan="4">災害拠点病院
へき地中核病院
介護老人保健施設併設</td></tr>
</table>

専門研修プログラム

プログラム名	糸魚川総合診療専門研修プログラム		
研修期間	3年	H31 募集人数	2名
選考方法	面接		
プログラム責任者	内科部長　金山雅美		
研修概要	本研修プログラムでは、①総合診療専門研修Ⅰ（外来診療・在宅医療中心)、②総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療、救急診療中心)、③内科、④小児科、⑤救急科の５つの必須診療科と選択診療科で３年間の研修を行います。このことにより、１．包括的統合アプローチ、２．一般的な健康問題に対する診療能力、３．患者中心の医療・ケア、４・連携重視のマネジメント、５．地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、６．公益に資する職業規範、７．多様な診療の場に対応する能力という総合診療医に欠かせない７つの資質・能力を効果的に習得することが可能になります。 本研修プログラムは専門研修基幹施設（以下、基幹施設）と専門研修連携施設（以下、連携施設）の施設群で行われ、それぞれの特徴を生かした症例や技能を広く、専門的に学ぶことができます。		
アピールポイント	○　糸魚川という過疎地に密着したプログラムで、全ての研修を糸魚川で行うことが可能です。 ○　充実した初期臨床研修に引き続き総合診療を学ぶことができる。		
特色	・　糸魚川市唯一の総合病院、地域救命救急センターを有し、災害拠点病院、へき地中核病院の指定を受け、広汎な初期から 2.5 次までの救急医療や高度な医療を提供している。また、沖縄群星病院群をはじめ全国の総合診療医による定期的な教育プログラムが組まれている。 ・　総合診療科においては、幅広い疾患に対する初診を中心とした外来診療、専門各科にまたがる問題を持つ患者に対する病棟診療、救急部と連携した初期救急などを提供している。		
指導医からのメッセージ	糸魚川地域に密着して専攻医を育てます。地域住民と共に医療のみならず、地域づくりを行いましょう。		
連携施設の病院名	糸魚川市能生国民健康保険診療所・県立柿崎病院・厚生連けいなん総合病院・あがの市民病院・県立中央病院		

研修コース

⑤ 基本コース

総合診療専門研修は、卒後３年目からの専門研修（後期研修）３年間 で構成されます。

□ １年次修了時には、患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定すること目標とします。主たる研修の場は内科研修となります。

□ ２年次修了時には、診断や治療プロセスも標準的で患者を取り巻く背景も安定しているような比較的単純な健康問題に対して的確なマネジメントを提供することを目標とします。主たる研修の場は総合診療専門研修Ⅱとなります。

□ ３年次修了時には、多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあったり、患者を取巻く 背景も疾患に影響したりしているような複雑な健康問題に対しても的確にマネジメントを提供 することができ、かつ指導することができることを目標とします。主たる研修の場は総合診療専門研修Ⅰとなります。

□ また、総合診療専門医は日常遭遇する疾病と傷害等に対する適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を提供するだけでなく、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看取りなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組むことが求められますので、18 ヶ月の総合診療専門研修Ⅰ及びⅡにおいては、後に示す地域ケアの学びを重点的に展開することとなります。

⑥ 週間スケジュールの例

総合診療専門研修 II

			月	火	水	木	金	土	日
8:00	～ 8:30	朝ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ・勉強会		○	○		○		
8:30	～ 12:30	外来業務（検査等も含む）	○		○		○		
8:30	～ 12:30	病棟業務（検査等も含む）		○		○			
13:30	～ 16:30	病棟業務（検査等も含む）	○	○	○	○	○		
16:30	～ 17:00	症例カンファレンス	○	○	○	○	○		
17:00	～ 18:00	総回診				○			

平日宿直を1-2回/月、土日の日当直を1 - 2回/月

金曜午後のTVカンファレンスを2回/月、TV経験省察研修録勉強会を1回/月

問い合わせ先	連絡先担当の職・氏名	総務課長　塚田博之
	電話連絡先	025-552-0280
	ファックス	025-552-3819
	メールアドレス	somukacho@itoigawa-hp.jp
	プログラムのＨＰアドレス	http://www.itoigawa-hp.jp/info/detail.php?id=487

良医育成新潟県コンソーシアム事務局

新潟県福祉保健部医師・看護職員確保対策課
〒950-8570　新潟県新潟市中央区新光町４－１
TEL　　０２５－２８０－５９６９
E-mail　ngt040290@pref.niigata.lg.jp
医師ナビにいがた HP
https://www.ishinavi-niigata.jp/